

自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会報告書(平成24年度)

[第1分冊]

事業用自動車の交通事故の傾向分析

平成25年6月

国 土 交 通 省 自 動 車 局

自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会



平成24年度「自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会」委員名簿（順不同・敬称略）

座長	酒井 一博	公益財団法人労働科学研究所 所長
委員	堀野 定雄	神奈川大学 高安心超安全交通研究所 客員教授
〃	小野 古志郎	一般財団法人日本自動車研究所 技監・研究主幹
〃	下光 輝一	東京医科大学 名誉教授
〃	波多野 忠	独立行政法人交通安全環境研究所自動車安全研究領域主席研究員
〃	西田 泰	公益財団法人交通事故総合分析センター 研究部研究第1課長
〃	小島 公平	独立行政法人自動車事故対策機構 理事（事故防止担当）
〃	野川 保宏	損害保険料率算出機構自賠責損害調査センター理事・損害調査部長
〃	栗原 浩	公益財団法人日弁連交通事故相談センター 常務理事
〃	相川 春雄	公益社団法人日本バス協会 安全輸送委員会委員
〃	佐久間 文彦	公益社団法人全日本トラック協会 交通対策委員会委員
〃	榎元 紀二郎	一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会 交通安全委員会委員
〃	関 政治	全日本交通運輸産業労働組合協議会 事務局長
〃	増井 潤	一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 常務理事
〃	杉浦 秀明	一般社団法人日本自動車工業会 大型車部会長
オブザーバー	山下 博	公益社団法人日本バス協会 技術部長
〃	伊藤 勝利	公益社団法人全日本トラック協会 交通環境部長
〃	小菅 孝嗣	一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会 常務理事
〃	岩崎 克彦	一般社団法人日本自動車工業会安全部会・交通事故分析分科会副分科会長
〃	篠崎 修也	公益財団法人交通事故総合分析センター 研究部研究第三課長

行政：警察庁交通局交通企画課  
厚生労働省労働基準局  
国土交通省大臣官房運輸安全監理官室、道路局環境安全課道路交通安全対策室、  
運輸安全委員会、自動車局技術政策課、旅客課、貨物課、整備課、  
安全政策課保障制度参事官室、安全政策課（事務局）

## 背景

交通事故の多くは、見かけ上運転者の運転操作ミスや交通違反等の人的要因によって発生しているので、第一義的には、運転者の教育・指導が肝要であるとされている。

しかし、事故の直接の原因が運転者であったとしても、その背景に運転操作を誤ったり、交通違反をせざるを得なかったりすることに繋がる要因・背景が潜んでいることが少なくない。特に、自動車運送事業用自動車（以下「事業用自動車」という）にあっては、運行を管理しているのは、運転者自身でなく、雇い主等であり、何らかの制約の中で運転業務を行っているのが通常であるため、事業者が運輸安全マネジメントにより事故を防止する取組みを推進するために、事故の原因を追及し改善策を検討する必要がある。

平成 11 年 6 月の運輸技術審議会の答申「安全と環境に配慮した今後の自動車交通政策のあり方について」には、「安全対策を効果的に実施するため、必要な分野について、特に詳細な分析、いわば事故の『解剖』を行うとともに、具体的なプログラムに沿って全国的な情報収集ネットワークを構築することが必要である。」と述べられており、具体的な手法として、運輸支局又は地方運輸局（以下「運輸支局等」という）が自ら事故事例を収集し、詳細な調査を実施するとともに、自動車交通及び安全解析に携わる関係専門家により、運輸支局等が収集した事故情報を詳細に分析し、再発防止を意図した交通安全対策に活かしていく必要があるとされている。

これらのことから、事業用自動車の事故について、事故の経過、運転者の状況、運行管理の状況、車両の状況等の情報を収集し、さらに、収集した事故情報を効果的に再発防止対策の立案に反映させるために、事故発生の要因及び背景を主に 4 つの要素（運転者面 (Man)、車両面 (Machine)、走行環境面 (Media)、管理面 (Management)）の 4 M 側面に整理し、科学的な究明・分析を行うことを目的として、平成 11 年度から一部の地域でモデル的に開始した「自動車事故対策パイロット事業」を足がかりに、平成 13 年度から「自動車運送事業に係る交通事故要因分析事業」として実施しているところである。

## < 目 次 >

1. 事故全体の傾向	1
1-1. 交通事故全体の推移	1
1-2. 自動車事故件数の推移	4
1-3. 自動車事故死者数の推移	8
1-4. 自動車死亡事故件数の推移	12
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故	16
1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故	18
1-7. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故	20
2. バスの事故	22
2-1. 乗合バスの事故	24
2-2. 貸切バスの事故	35
3. タクシーの事故	42
4. トラックの事故	50

### 附録. 事業用自動車の交通事故統計（平成 23年版）

#### 【凡例】

1. 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両等及び列車の事故によって起された事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。物損事故については計上していない。
2. 「自動車事故」とは、交通事故のうち、自動車及び軽自動車の交通によって起された事故をいう。
3. 「自動車事故」は、「事業用自動車」の事故と、「自家用自動車」の事故に分けられる。うち、「自家用自動車」とは、乗用車（バス、マイクロ、普通乗用車、軽乗用車）及び、貨物車（大型貨物、中型貨物、普通貨物、軽貨物、トレーラー）を合わせたものをいう。
4. 「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合（人）をいう。
5. 「重傷」（「重傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）以上の治療を要する場合（人）をいう。
6. 「軽傷」（「軽傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）未満の治療を要する場合（人）をいう。
7. 「負傷」（「負傷者」）とは、「重傷」（「重傷者」）と「軽傷」（「軽傷者」）の合計をいう。



# 1. 事故全体の傾向

## 1-1. 交通事故全体の推移

自動車に加え、二輪車や自転車を含む「交通事故全体」と、「事業用自動車」の交通事故の推移を、「交通事故件数」、「交通事故死者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

### (1) 交通事故件数の推移

平成23年中に全国で発生した交通事故全体の件数は691,937件であり、そのうち、事業用自動車は49,080件となった。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2009（平成21年3月）」において、平成30年までの10年間で人身事故件数を半減（3万件以下）、中間年である平成25年には4万3千件とする目標値が示されている。

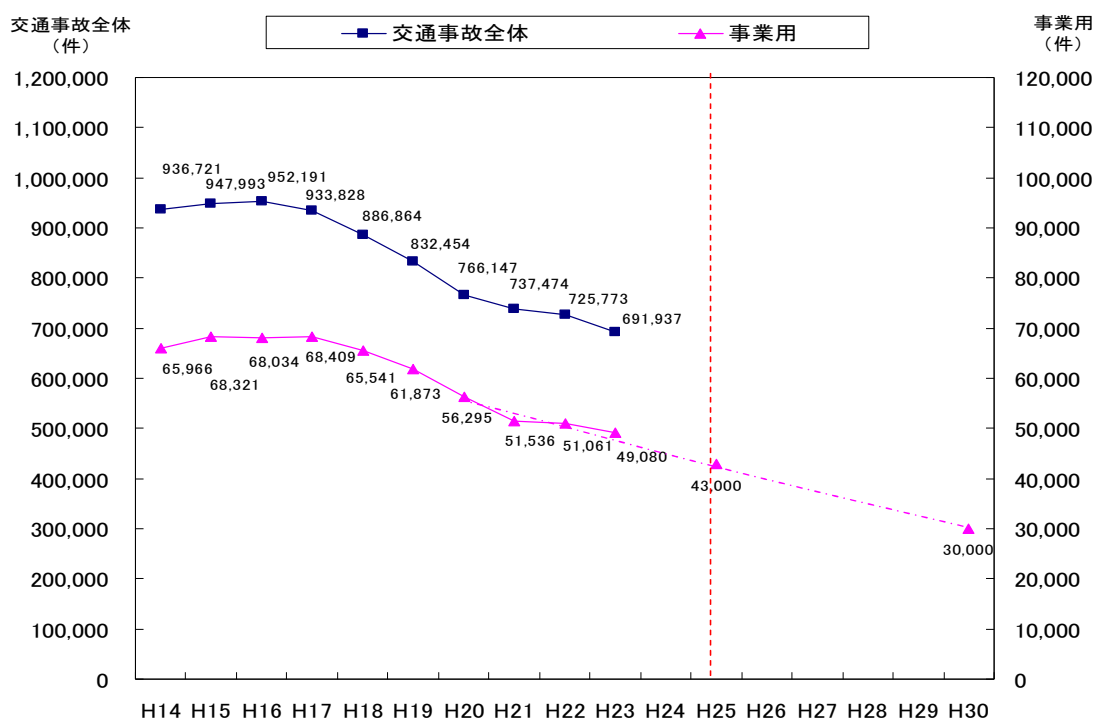


図1 交通事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表1 交通事故件数の推移 (件)

年	区分	発生件数	
		交通事故全体	事業用
H14		936,721	65,966
H15		947,993	68,321
H16		952,191	68,034
H17		933,828	68,409
H18		886,864	65,541
H19		832,454	61,873
H20		766,147	56,295
H21		737,474	51,536
H22		725,773	51,061
H23		691,937	49,080

出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (2) 交通事故死者数の推移

平成23年中に全国で発生した交通事故全体における死者数は4,612人であり、そのうち、事業用自動車での交通事故死者数は447人となっている。

なお、平成21年1月に政府が掲げた、平成20年から平成30年の10年間に交通事故死者数を半減させ、2,500人以下とする目標値を受けて、「事業用自動車総合安全プラン2009」においても、同10年間で事業用自動車での交通事故死者数を半減させ、平成30年には250人以下とする目標値が示されている。

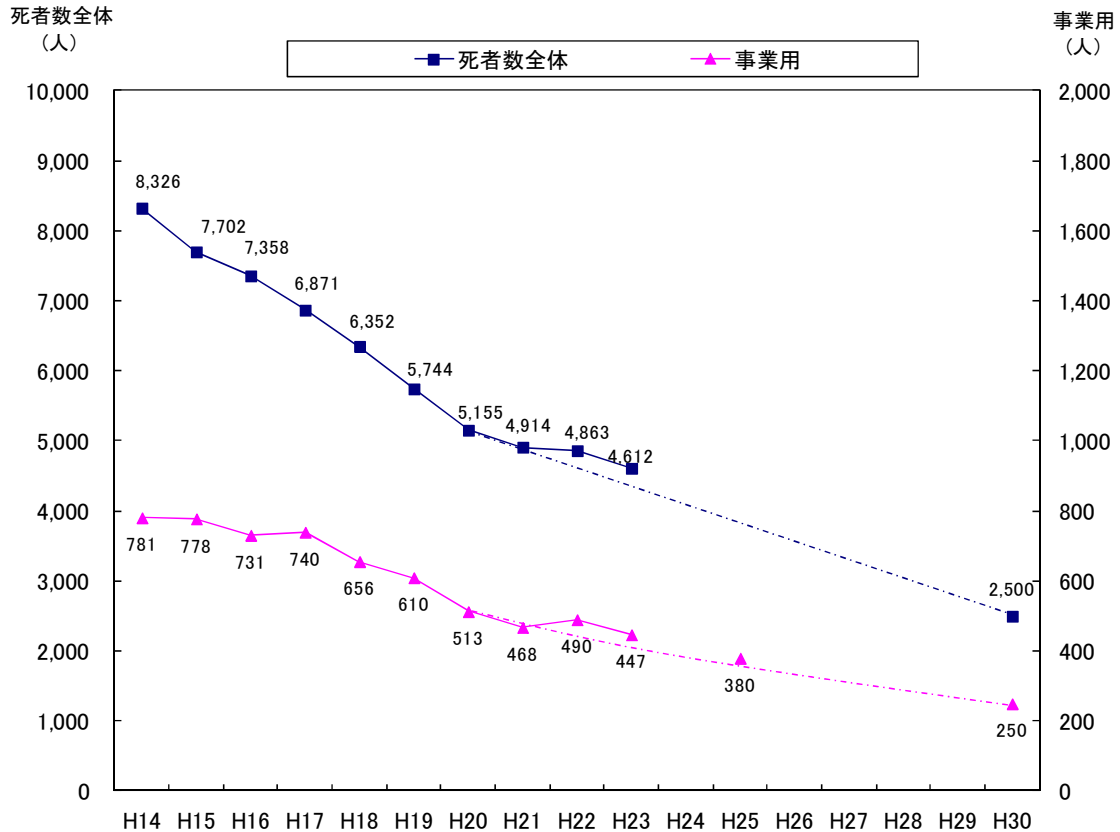


図2 交通事故死者数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表2 交通事故死者数の推移 (人)

年	区分	死者数全体	
		死者数全体	事業用
H14		8,326	781
H15		7,702	778
H16		7,358	731
H17		6,871	740
H18		6,352	656
H19		5,744	610
H20		5,155	513
H21		4,914	468
H22		4,863	490
H23		4,612	447

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



### (3) 交通死亡事故件数の推移

平成 23 年中に全国で発生した交通死亡事故全体の件数は 4,481 件であり、前年より 245 件減少した。そのうち、事業用自動車は 427 件となっており、前年より 42 件減少した。

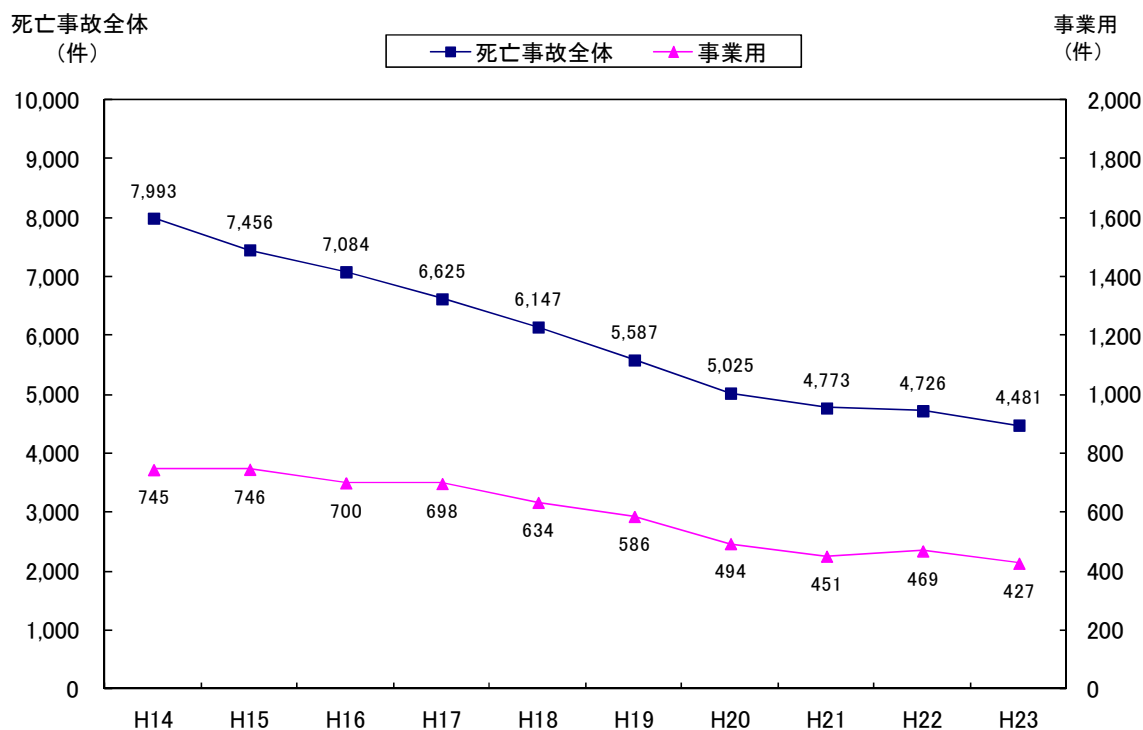


図 3 交通死亡事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 3 交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	死亡事故件数	
		死亡事故全体	事業用
H14		7,993	745
H15		7,456	746
H16		7,084	700
H17		6,625	698
H18		6,147	634
H19		5,587	586
H20		5,025	494
H21		4,773	451
H22		4,726	469
H23		4,481	427

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 1-2. 自動車事故件数の推移

「事業用自動車」・「自家用自動車」（自家用のバス、乗用車及びトラックをいう。以下同じ。）、及び「自動車全体」（事業用自動車と自家用自動車を合わせたものをいう。以下同じ。）について、「交通事故件数」、「交通事故死亡者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

### (1) 自動車事故件数の推移

平成23年中に全国で発生した自動車全体の交通事故件数は618,635件であり、そのうち、自家用自動車は569,555件、事業用自動車は49,080件となっている。

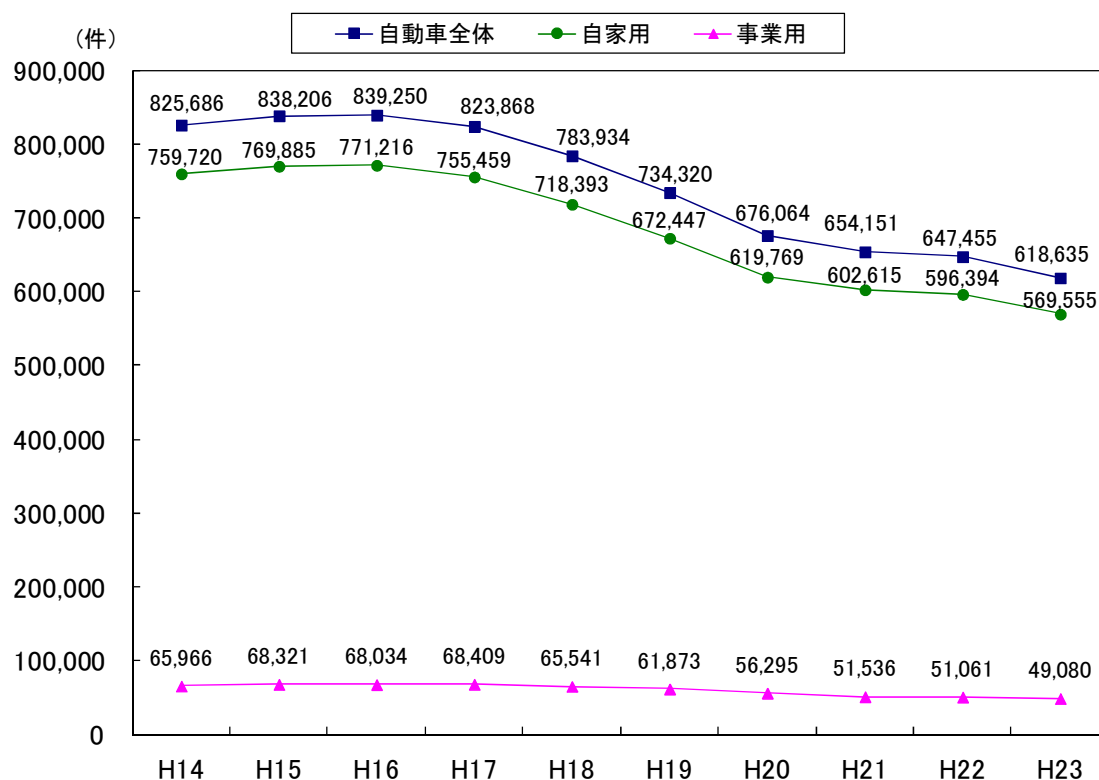


図4 自動車事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表4 自動車事故件数の推移（件）

年	自動車全体	自家用	事業用
H14	825,686	759,720	65,966
H15	838,206	769,885	68,321
H16	839,250	771,216	68,034
H17	823,868	755,459	68,409
H18	783,934	718,393	65,541
H19	734,320	672,447	61,873
H20	676,064	619,769	56,295
H21	654,151	602,615	51,536
H22	647,455	596,394	51,061
H23	618,635	569,555	49,080

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

事業用自動車の交通事故件数を業態別に見ると、平成23年は、全ての業態で前年に引き続き減少した。一方、貸切バスとトラックは、平成22年は前年（平成21年）に比べ増加したが、平成23年は減少した。

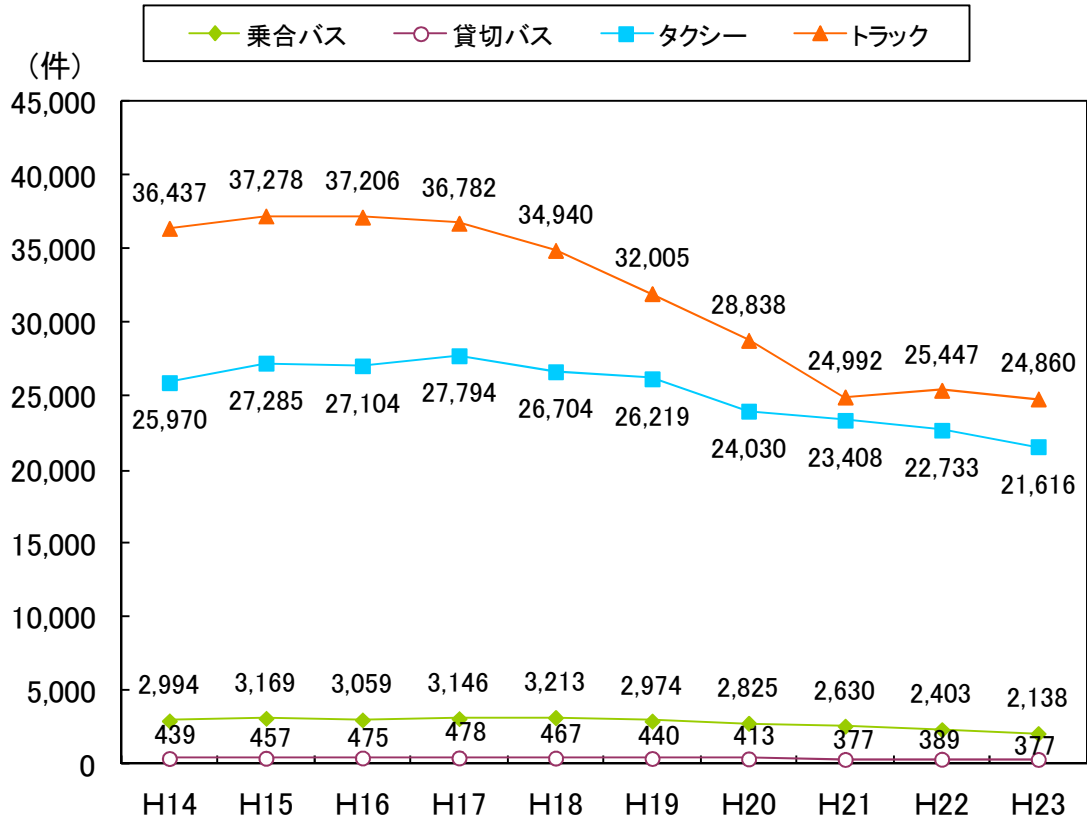


図5 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表5 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移 (件)

年	区分	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H14		2,994	439	126	25,970	36,437
H15		3,169	457	132	27,285	37,278
H16		3,059	475	190	27,104	37,206
H17		3,146	478	209	27,794	36,782
H18		3,213	467	217	26,704	34,940
H19		2,974	440	235	26,219	32,005
H20		2,825	413	189	24,030	28,838
H21		2,630	377	129	23,408	24,992
H22		2,403	389	89	22,733	25,447
H23		2,138	377	89	21,616	24,860

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

自動車全体と自家用自動車は、平成17年以降減少が続いている。事業用自動車は、平成23年は前年と比べて増加した。

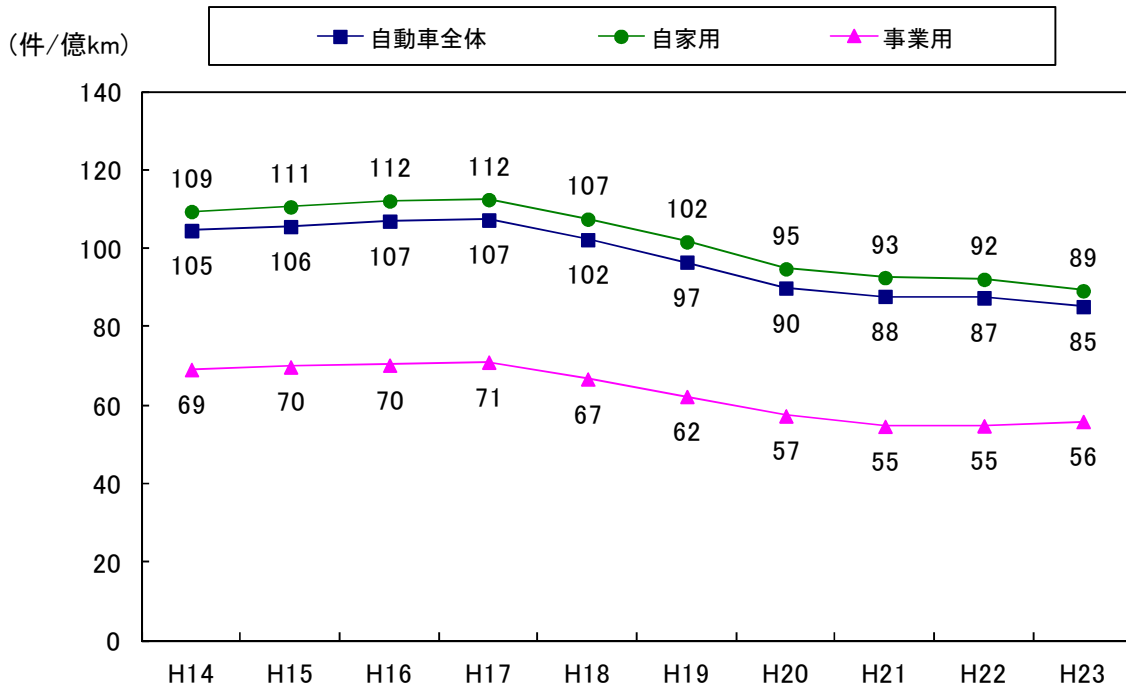


図6 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表6 走行距離と自動車事故件数の推移

年	区分	事故件数(件)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H14		825,686	759,720	65,966	7897.0	6942.9	954.1
H15		838,206	769,885	68,321	7939.8	6960.9	978.9
H16		839,250	771,216	68,034	7847.0	6878.8	968.2
H17		823,868	755,459	68,409	7681.0	6717.6	963.4
H18		783,934	718,393	65,541	7666.4	6683.9	982.5
H19		734,320	672,447	61,873	7606.8	6613.2	993.6
H20		676,064	619,769	56,295	7519.2	6536.8	982.4
H21		654,151	602,615	51,536	7452.1	6508.9	943.2
H22		647,455	596,394	51,061	7405.1	6473.1	932.0
H23		618,635	569,555	49,080	7261.8	6383.5	878.3

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

注：1. 走行距離（営業用バスを除く）の調査については、平成22年10月より、「自動車輸送統計調査」から「自動車燃料消費量調査」に移行している。

2. 本表の平成22年10月以降は新統計数値となっているため、公表されている接続係数を使って、旧系列と比較可能な数値を作成した。（走行距離の作成方法については、以下同様）

#### (4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

グラフから、タクシーと乗合バスの走行距離あたりの事故が多いことがわかるが、これは、これらの業態が市街地を走行する機会が多いことによると考えられる。他方、トラックと貸切バスの走行距離あたりの事故が少ないのは、走行距離に占める高速道路使用の割合が比較的高いことによると考えられる。

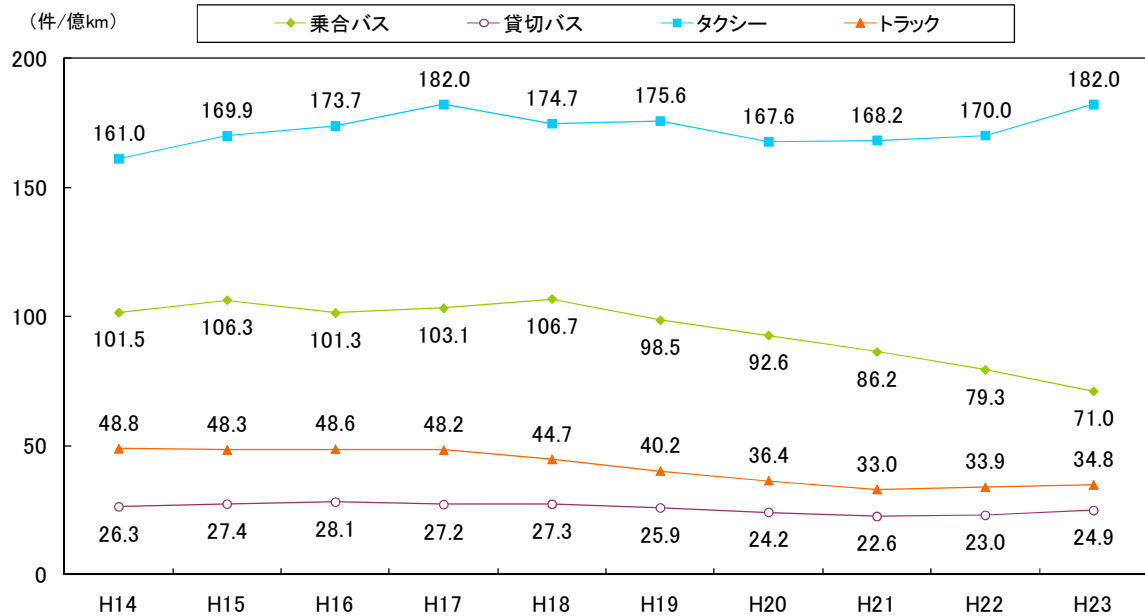


図7 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移  
 出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

表7 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
	乗合	貸切	その他					乗合	貸切				
H14	3,559	2,994	439	126	25,970	36,437	825,686	46.2	29.5	16.7	161.3	746.6	7897.0
H15	3,758	3,169	457	132	27,285	37,278	838,206	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7939.8
H16	3,724	3,059	475	190	27,104	37,206	839,250	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7847.0
H17	3,833	3,146	478	209	27,794	36,782	823,868	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7681.0
H18	3,897	3,213	467	217	26,704	34,940	783,934	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7666.4
H19	3,649	2,974	440	235	26,219	32,005	734,320	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8
H20	3,427	2,825	413	189	24,030	28,838	676,064	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	3,136	2,630	377	129	23,408	24,992	654,151	47.1	30.5	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	2,881	2,403	389	89	22,733	25,447	647,455	47.2	30.3	16.9	133.7	751.1	7405.1
H23	2,604	2,138	377	89	21,616	24,860	618,635	45.3	30.1	15.2	118.7	714.3	7261.8

出典：警察庁「交通統計」  
 (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

### 1-3. 自動車事故死者数の推移

#### (1) 自動車事故死者数の推移

平成23年中に全国で発生した自動車全体の交通事故死者数は3,661人であり、そのうち、事業用自動車は447人となり、前年より減少した。

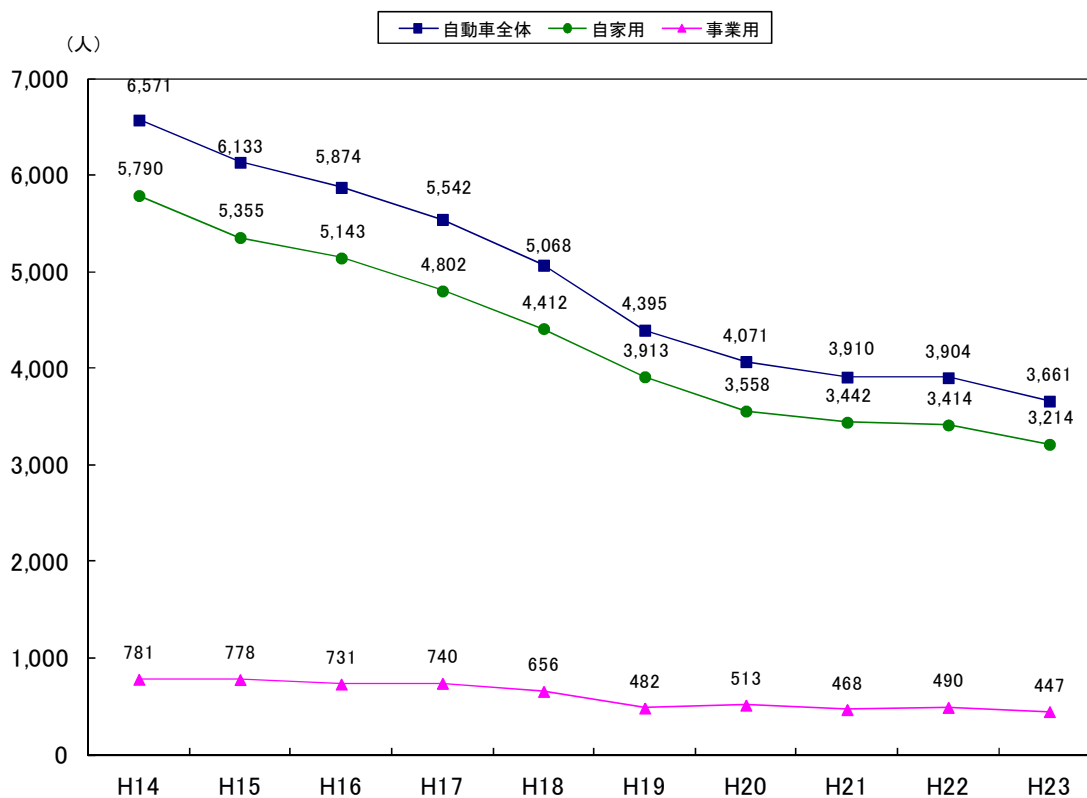


図8 自動車事故死者数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表8 自動車事故死者数の推移(人)

年	自動車全体	自家用	事業用
H14	6,571	5,790	781
H15	6,133	5,355	778
H16	5,874	5,143	731
H17	5,542	4,802	740
H18	5,068	4,412	656
H19	4,395	3,913	482
H20	4,071	3,558	513
H21	3,910	3,442	468
H22	3,904	3,414	490
H23	3,661	3,214	447

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

事業用自動車の交通事故死者数を業態別に見ると、トラックによる交通事故死者数が大半を占める。トラックによる交通事故死者数は、平成 23 年は前年に比べ減少し、乗合バス、貸切バスについても平成 23 年は前年に比べ減少している。タクシーによる交通事故死者数は平成22年に続き増加した。

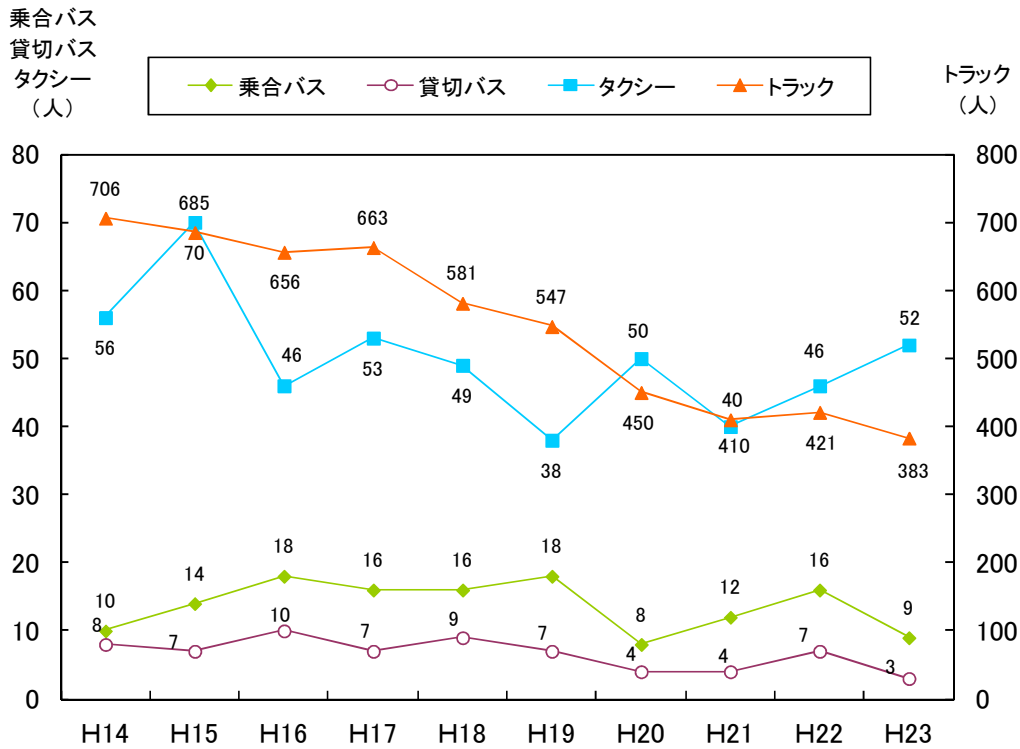


図 9 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 9 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移 (人)

年	区分	バス			タクシー	トラック	
		乗合バス	貸切バス	その他			
H14		19	10	8	1	56	706
H15		23	14	7	2	70	685
H16		29	18	10	1	46	656
H17		24	16	7	1	53	663
H18		26	16	9	1	49	581
H19		25	18	7	0	38	547
H20		13	8	4	1	50	450
H21		18	12	4	2	40	410
H22		23	16	7	0	46	421
H23		12	9	3	0	52	383

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

走行距離あたりの自動車事故死者数は、近年、減少が鈍化しており、平成22年にわずかに増加したが、平成23年では前年に比べて減少した。

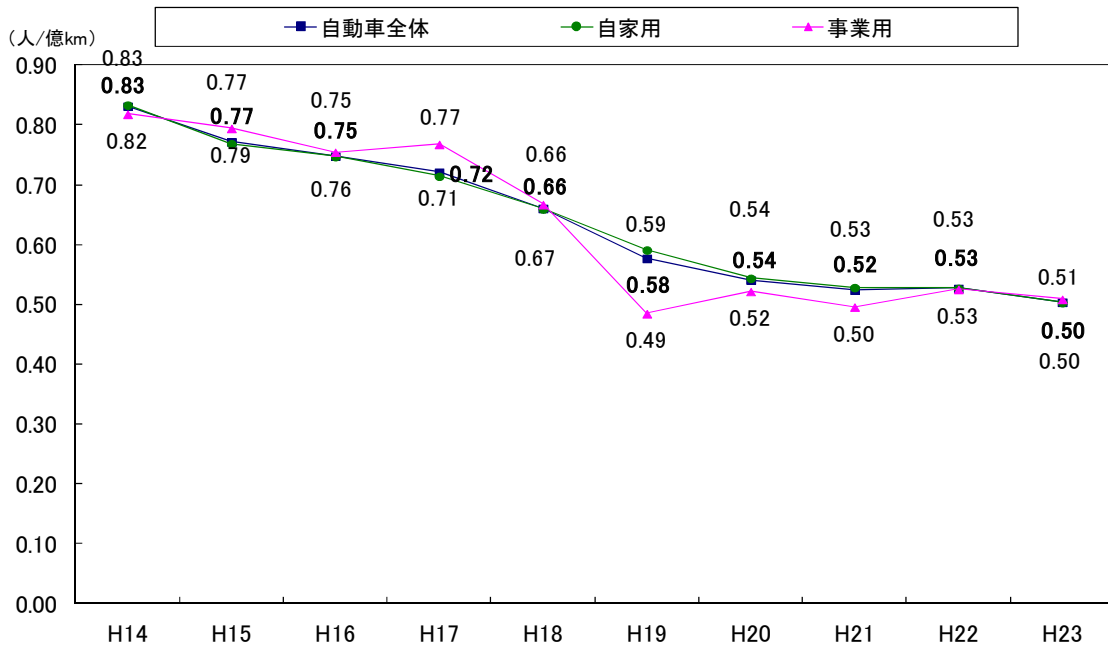


図10 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表10 走行距離と自動車事故死者数の推移

年	区分	死者数(人)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H14		6,571	5,790	781	7897.0	6942.9	954.1
H15		6,133	5,355	778	7939.8	6960.9	978.9
H16		5,874	5,143	731	7847.0	6878.8	968.2
H17		5,542	4,802	740	7681.0	6717.6	963.4
H18		5,068	4,412	656	7666.4	6683.9	982.5
H19		4,395	3,913	482	7606.8	6613.2	993.6
H20		4,071	3,558	513	7519.2	6536.8	982.4
H21		3,910	3,442	468	7452.1	6508.9	943.2
H22		3,904	3,414	490	7405.1	6473.1	932.0
H23		3,661	3,214	447	7261.8	6383.5	878.3

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」



(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

トラックは他の業態よりも走行距離あたりの死者数が多いが、その差は年々小さくなっている。平成23年はトラック、乗合バス、貸切バスで前年に比べ減少し、タクシーのみ前年に続き増加した。

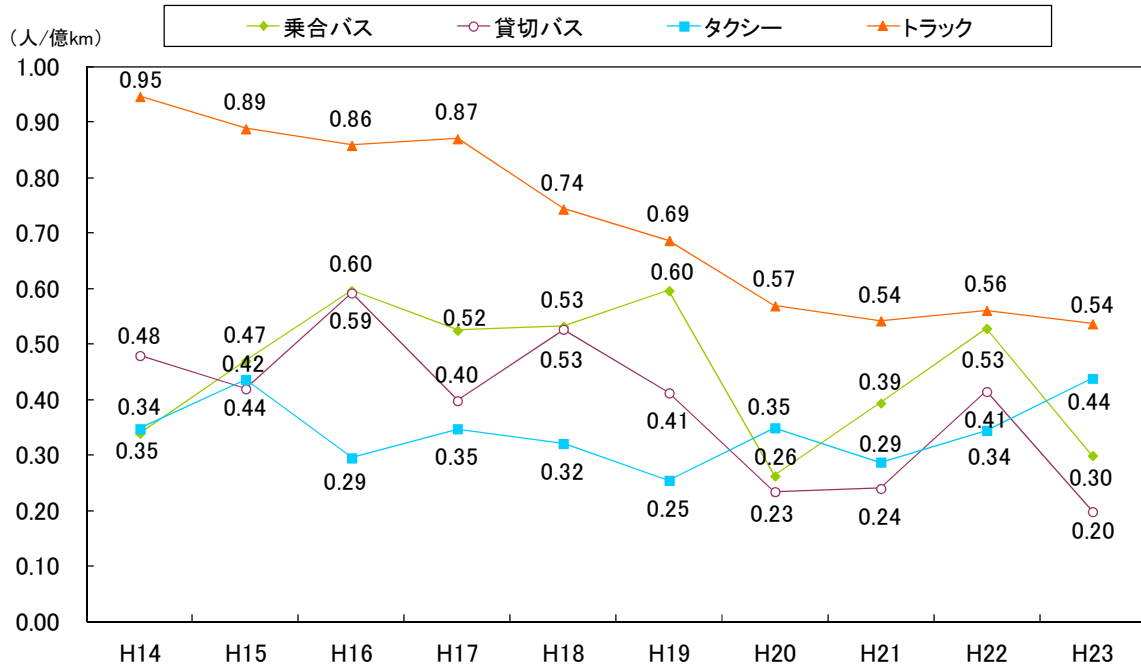


図 11 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表 11 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故死者数の推移

区分 年	死者数(人)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
	乗合	貸切	その他	乗合				貸切					
H14	19	10	8	1	56	706	6,571	46.2	29.5	16.7	161.3	746.6	7897.0
H15	23	14	7	2	70	685	6,133	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7939.8
H16	29	18	10	1	46	656	5,874	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7847.0
H17	24	16	7	1	53	663	5,542	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7681.0
H18	26	16	9	1	49	581	5,068	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7666.4
H19	25	18	7	0	38	547	4,395	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8
H20	13	8	4	1	50	450	4,071	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	18	12	4	2	40	410	3,910	47.1	30.5	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	23	16	7	0	46	421	3,904	47.2	30.3	16.9	133.7	751.1	7405.1
H23	12	9	3	0	52	383	3,661	45.3	30.1	15.2	118.7	714.3	7261.8

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

## 1-4. 自動車死亡事故件数の推移

### (1) 自動車死亡事故件数の推移

平成23年中に全国で発生した自動車全体の交通死亡事故件数は3,544件であり、そのうち、自家用自動車は3,117件、事業用自動車は427件となっている。

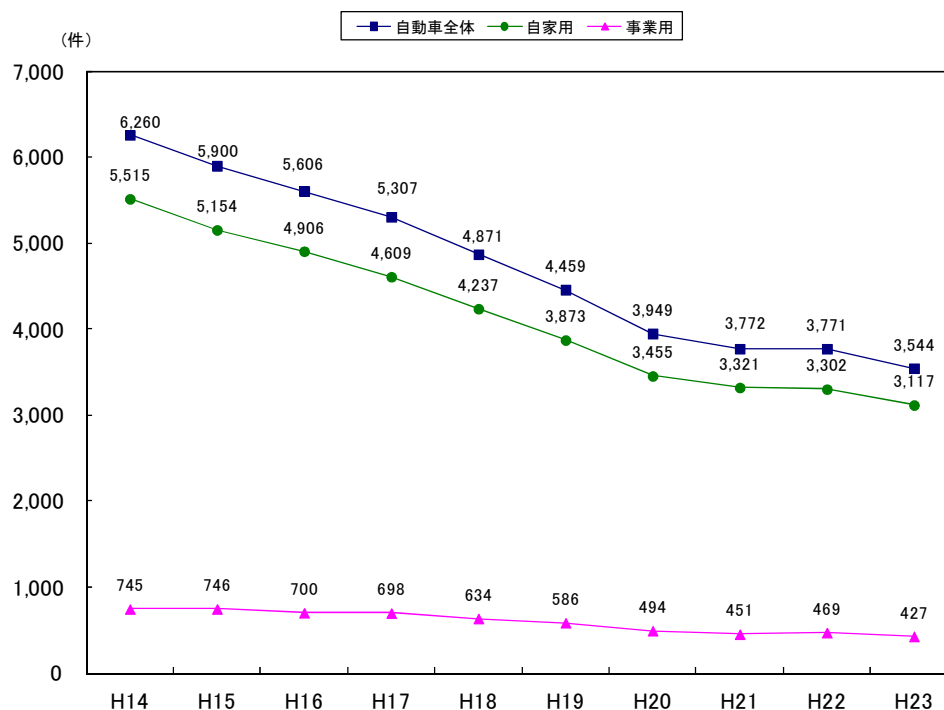


図12 自動車死亡事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表12 自動車死亡事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H14	6,260	5,515	745
H15	5,900	5,154	746
H16	5,606	4,906	700
H17	5,307	4,609	698
H18	4,871	4,237	634
H19	4,459	3,873	586
H20	3,949	3,455	494
H21	3,772	3,321	451
H22	3,771	3,302	469
H23	3,544	3,117	427

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

事業用自動車の交通死亡事故件数を業態別に見ると、トラックによる死亡事故件数が大半を占める。トラックによる死亡事故件数は、平成18年以降大きく減少し、平成22年に増加したが、平成23年は減少した。他の業態では、バスでは前年に比べ減少し、タクシーは増加した。

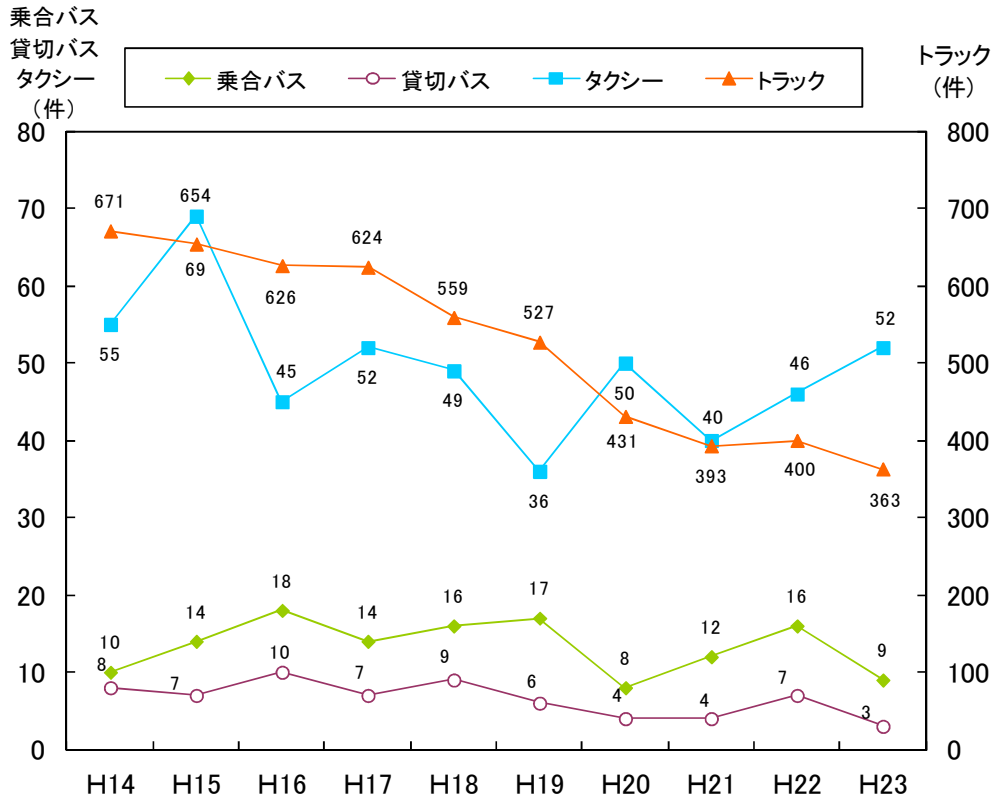


図13 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表13 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移 (件)

年	バス				タクシー	トラック
	乗合バス	貸切バス	その他			
H14	10	8	1		55	671
H15	14	7	2		69	654
H16	18	10	1		45	626
H17	14	7	1		52	624
H18	16	9	1		49	559
H19	17	6	0		36	527
H20	8	4	1		50	431
H21	12	4	2		40	393
H22	16	7	0		46	400
H23	9	3	0		52	363

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

走行距離あたりの自動車死亡事故件数は、平成23年は自家用、事業用いずれも前年に比べて減少した。

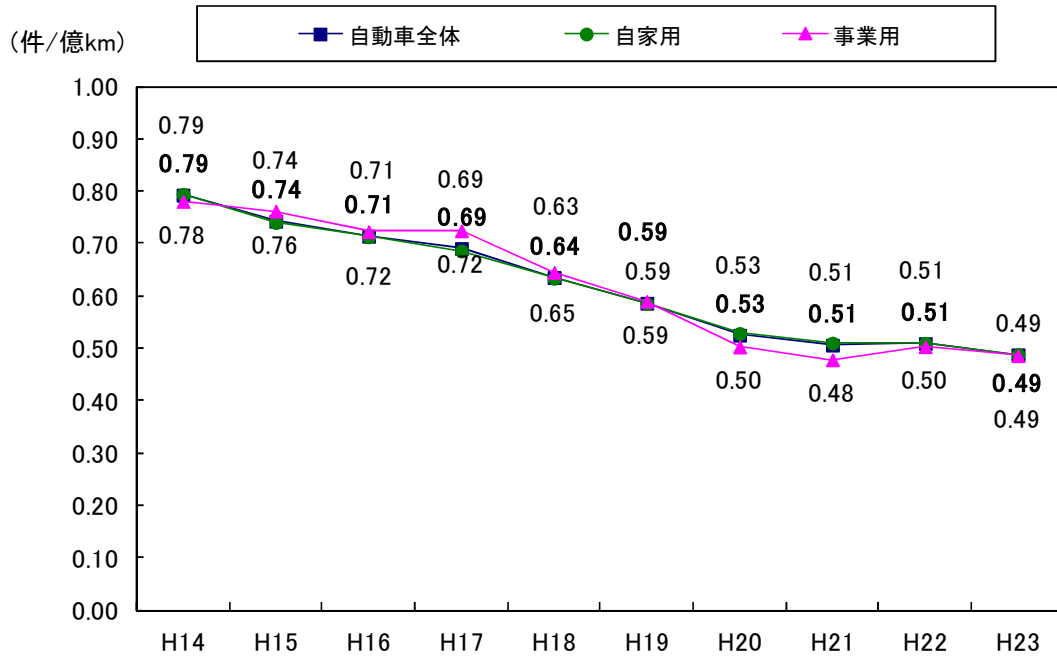


図14 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表14 走行距離と自動車死亡事故件数の推移

年	区分	死亡事故件数(件)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H14		6,260	5,515	745	7897.0	6942.9	954.1
H15		5,900	5,154	746	7939.8	6960.9	978.9
H16		5,606	4,906	700	7847.0	6878.8	968.2
H17		5,307	4,609	698	7681.0	6717.6	963.4
H18		4,871	4,237	634	7666.4	6683.9	982.5
H19		4,459	3,873	586	7606.8	6613.2	993.6
H20		3,949	3,455	494	7519.2	6536.8	982.4
H21		3,772	3,321	451	7452.1	6508.9	943.2
H22		3,771	3,302	469	7405.1	6473.1	932.0
H23		3,544	3,117	427	7261.8	6383.5	878.3

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

トラックは他の業態に比べ走行距離あたりの死亡事故件数が多いが、その差は年々小さくなってきている。平成23年はタクシーが大きく増加し、トラックとの差が小さくなっている。

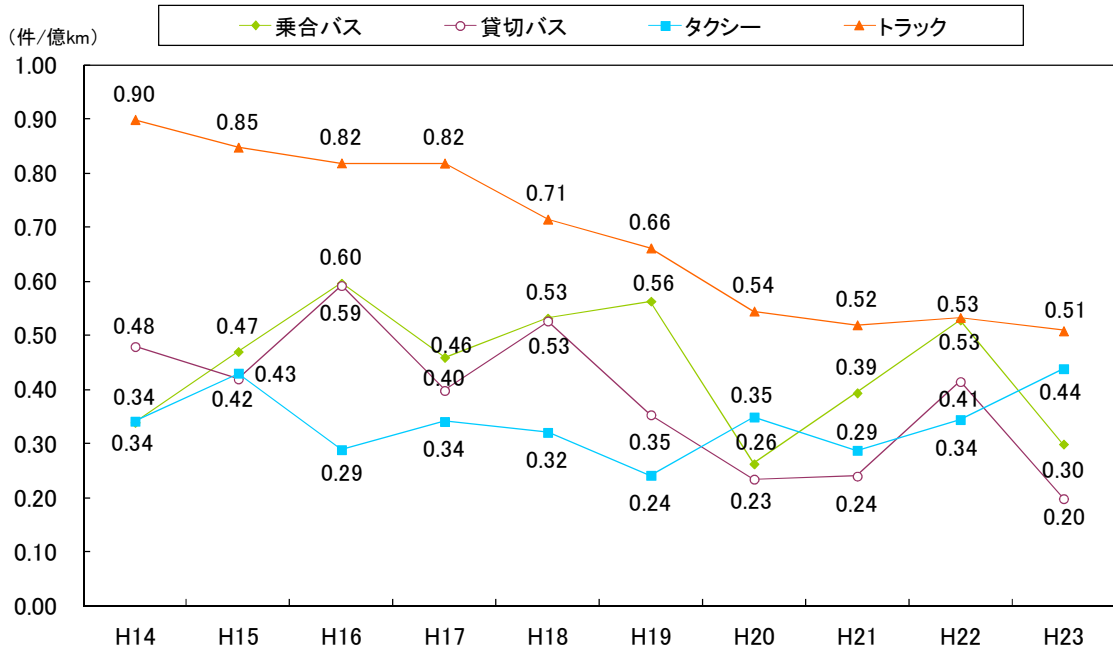


図15 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表15 事業用自動車の業態別走行距離と交通死亡事故件数の推移

区分	死亡事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
年	乗合	貸切	その他					乗合	貸切				
H14	19	10	8	1	55	671	6,260	46.2	29.5	16.7	161.3	746.6	7897.0
H15	23	14	7	2	69	654	5,900	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7939.8
H16	29	18	10	1	45	626	5,606	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7847.0
H17	22	14	7	1	52	624	5,307	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7681.0
H18	26	16	9	1	49	559	4,871	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7666.4
H19	23	17	6	0	36	527	4,459	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8
H20	13	8	4	1	50	431	3,949	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	18	12	4	2	40	393	3,772	47.1	30.5	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	23	16	7	0	46	400	3,771	47.2	30.3	16.9	133.7	751.1	7405.1
H23	12	9	3	0	52	363	3,544	45.3	30.1	15.2	118.7	714.3	7261.8

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

## 1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故

飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、トラック、タクシーともに減少傾向にあるが、近年は減少が鈍化している。

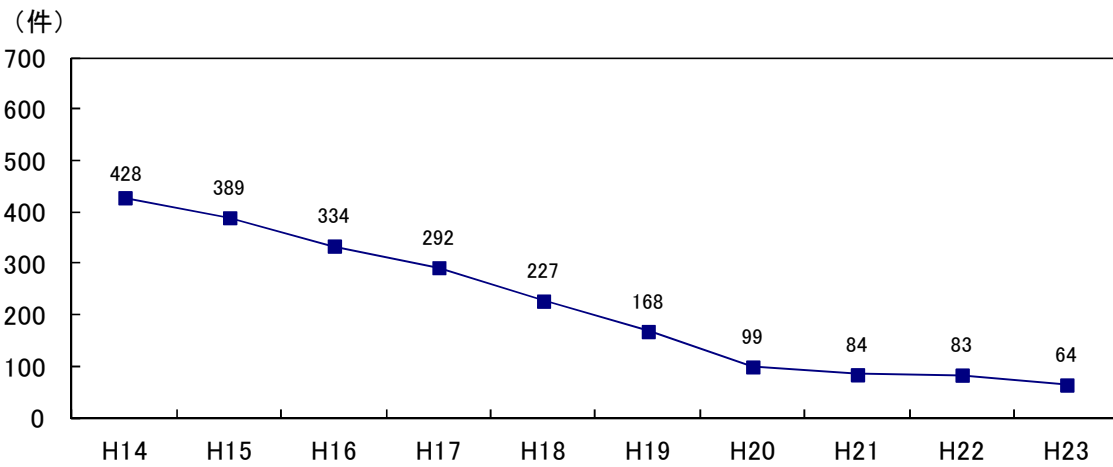
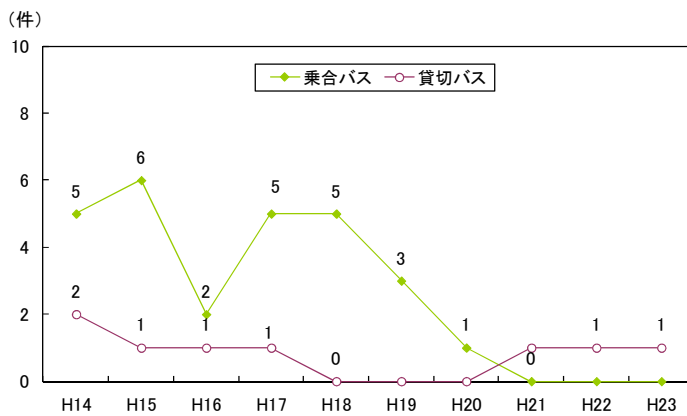
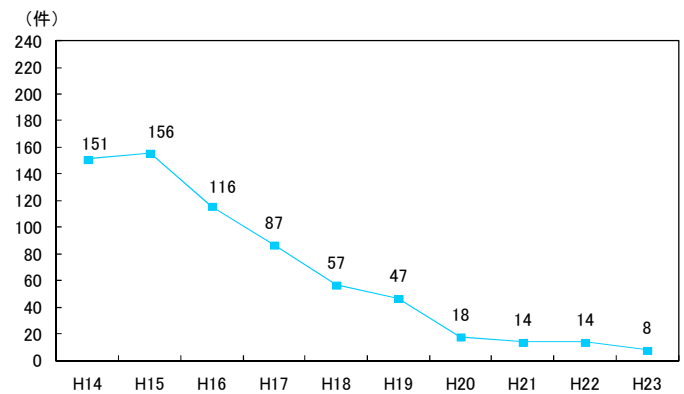


図 16 飲酒運転による事業用自動車の交通事故件数の推移

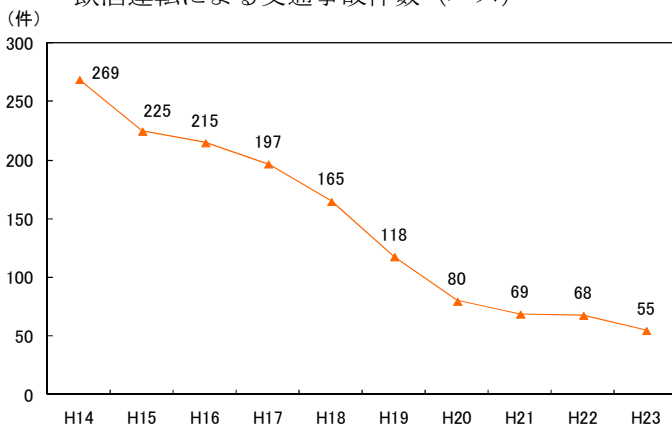
出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



飲酒運転による交通事故件数 (バス)



飲酒運転による交通事故件数 (タクシー)



飲酒運転による交通事故件数 (トラック)

図 17 業態別飲酒運転による交通事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 16 業態別飲酒運転による交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H14	8	5	2	1	151	269	428
H15	8	6	1	1	156	225	389
H16	3	2	1	0	116	215	334
H17	8	5	1	2	87	197	292
H18	5	5	0	0	57	165	227
H19	3	3	0	0	47	118	168
H20	1	1	0	0	18	80	99
H21	1	0	1	0	14	69	84
H22	1	0	1	0	14	68	83
H23	1	0	1	0	8	55	64

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 17 業態別飲酒運転による交通死亡事故件数の推移（件）

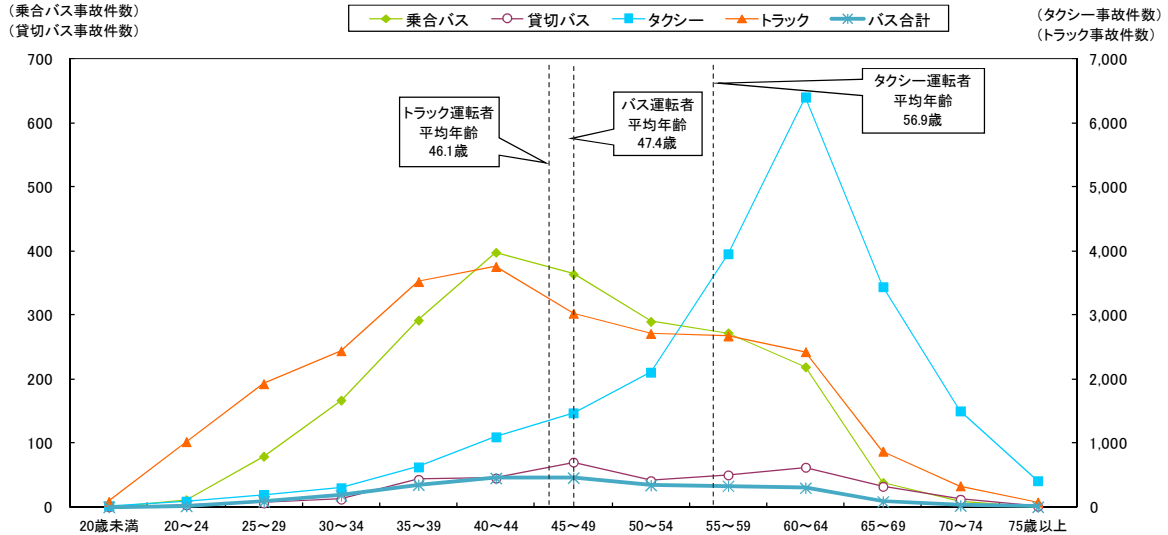
区分 年	交通死亡事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H14	1	1	0	0	0	18	20
H15	0	0	0	0	0	9	9
H16	0	0	0	0	0	16	16
H17	0	0	0	0	0	13	13
H18	0	0	0	0	0	9	9
H19	0	0	0	0	0	12	12
H20	0	0	0	0	0	1	1
H21	0	0	0	0	0	2	2
H22	0	0	0	0	0	3	3
H23	0	0	0	0	0	4	4

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故

### (1) 業態別運転者年齢層別交通事故件数

業態別の事故惹起運転者の平均年齢と運転者の平均年齢を見ると、バスとタクシーは若干高く、トラックは若干低い状況となっている。



業態	バス	タクシー	トラック
平均年齢 (運転者全体)	47.4	56.9	46.1
平均年齢 (事故あり)	48.0	58.7	45.4

※ 事故惹起運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

図 18 業態別運転者年齢層別交通事故件数 (平成 23 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

厚生労働省「平成 23 年賃金構造基本統計調査 (全国)」

表 18 業態別運転者年齢層別交通事故件数 (件) (平成 23 年)

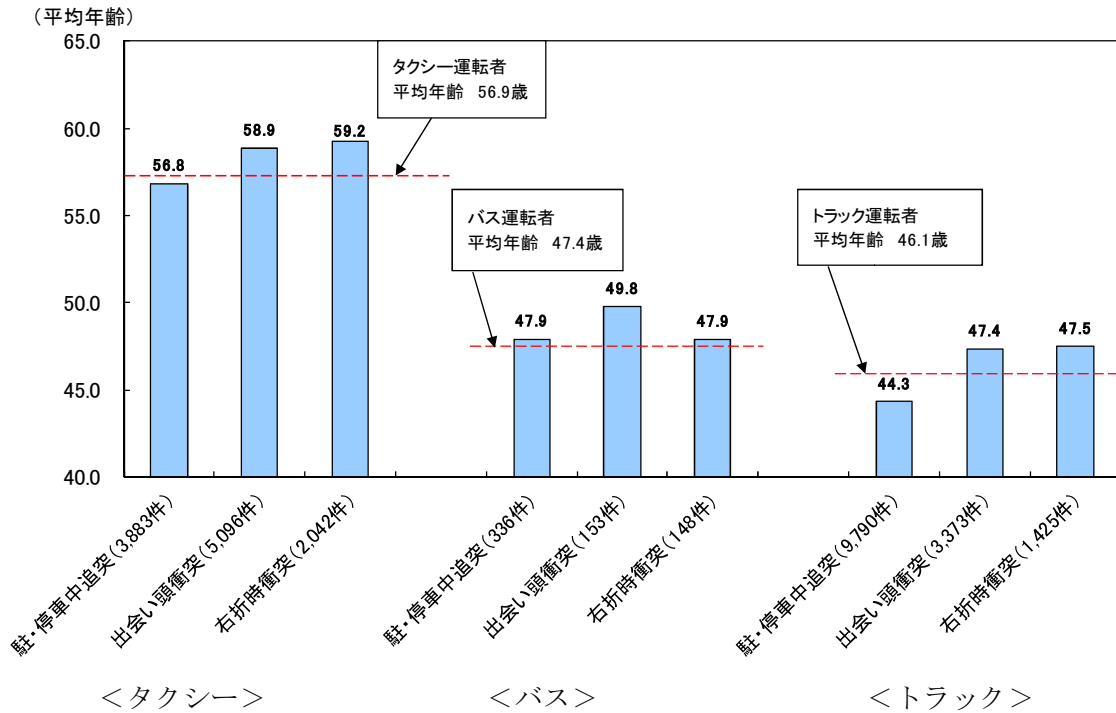
		20歳未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	11	79	167	292	398	364	290	272	219	38	8	0	2,138
	貸切	0	3	6	12	43	45	70	41	50	62	32	12	1	377
	その他	0	0	2	0	10	8	21	9	6	17	14	2	0	89
	小計	0	14	87	179	345	451	455	340	328	298	84	22	1	2,604
ハイタク	法人	0	38	138	229	554	990	1,363	1,941	3,603	5,830	2,993	1,234	269	19,182
	個人	0	1	0	3	14	29	50	86	224	392	345	219	112	1,475
その他乗用		19	50	56	66	58	74	58	79	132	187	104	49	27	959
小計		19	89	194	298	626	1,093	1,471	2,106	3,959	6,409	3,442	1,502	408	21,616
貨物自動車	大型	0	103	452	795	1,319	1,468	1,210	966	816	654	162	38	8	7,991
	中型	2	438	866	1,043	1,383	1,363	1,030	985	917	733	210	53	9	9,032
	普通	57	307	370	361	461	481	365	299	336	336	110	46	11	3,540
	軽	24	170	239	240	360	446	422	462	605	704	388	190	47	4,297
	小計	83	1,018	1,927	2,439	3,523	3,758	3,027	2,712	2,674	2,427	870	327	75	24,860
合計		102	1,121	2,208	2,916	4,494	5,302	4,953	5,158	6,961	9,134	4,396	1,851	484	49,080
トレーラ(トラックの内数)		1	21	89	145	268	300	239	177	132	107	19	5	2	1,505

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



(2) 業態別事故類型別事故惹起運転者平均年齢

事故惹起運転者の平均年齢を、運転者全体の平均年齢と比べると、出会い頭衝突、右折時衝突は業態問わず、より高い年齢となっていることがわかる。



注: ( ) 内は事故件数

図 19 業態別事故類型別事故惹起運転者平均年齢 (車両との事故) (平成 23 年)

出典: (財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

厚生労働省「平成 23 年賃金構造基本統計調査 (全国)」

- ※ 事故惹起運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出
- ※ 上記事故類型は「車両との事故」の事故類型から事故件数の多い3つを抽出

## 1-7. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故

### (1) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

表 19 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数（件）（平成 23 年）

事業の種類 都道府県	バス				タクシー	トラック	計
		乗合	貸切	その他			
北海道	95 (8)	78 (8)	17 (7)	0 (25)	910 (5)	707 (10)	1,712 (8)
青森県	21 (24)	15 (23)	5 (22)	1 (16)	134 (21)	169 (35)	324 (33)
岩手県	12 (39)	10 (32)	2 (36)	0 (25)	74 (34)	114 (40)	200 (38)
宮城県	14 (35)	10 (32)	2 (36)	2 (9)	252 (16)	298 (20)	564 (17)
秋田県	8 (42)	5 (42)	3 (34)	0 (25)	29 (45)	76 (44)	113 (45)
山形県	11 (41)	10 (32)	1 (43)	0 (25)	53 (39)	134 (38)	198 (39)
福島県	23 (21)	16 (22)	7 (16)	0 (25)	117 (24)	278 (24)	418 (24)
茨城県	40 (17)	23 (18)	14 (9)	3 (5)	107 (26)	675 (11)	822 (13)
栃木県	16 (30)	9 (37)	6 (17)	1 (16)	44 (42)	321 (18)	381 (27)
群馬県	16 (30)	8 (39)	8 (11)	0 (25)	75 (32)	515 (14)	606 (15)
埼玉県	77 (10)	56 (11)	17 (7)	4 (4)	594 (9)	1,897 (3)	2,568 (5)
千葉県	90 (9)	70 (9)	19 (6)	1 (16)	453 (12)	1,159 (7)	1,702 (9)
東京都	324 (1)	271 (1)	37 (1)	16 (2)	6,108 (1)	2,597 (2)	9,029 (1)
神奈川県	265 (3)	243 (2)	20 (5)	2 (9)	1,619 (4)	1,624 (4)	3,508 (3)
山梨県	7 (45)	5 (42)	2 (36)	0 (25)	56 (38)	118 (39)	181 (41)
新潟県	21 (24)	15 (23)	6 (17)	0 (25)	84 (29)	260 (25)	365 (28)
富山県	12 (39)	7 (41)	5 (22)	0 (25)	18 (47)	163 (36)	193 (40)
石川県	23 (21)	18 (21)	4 (30)	1 (16)	108 (25)	210 (28)	341 (31)
長野県	23 (21)	8 (39)	13 (10)	2 (9)	75 (32)	286 (22)	384 (26)
福井県	8 (42)	5 (42)	3 (34)	0 (25)	30 (43)	101 (42)	139 (44)
岐阜県	43 (16)	32 (16)	8 (11)	3 (5)	80 (30)	374 (16)	497 (19)
静岡県	50 (14)	40 (15)	8 (11)	2 (9)	455 (11)	974 (9)	1,479 (11)
愛知県	103 (7)	95 (7)	8 (11)	0 (25)	805 (8)	1,490 (5)	2,398 (6)
三重県	8 (42)	5 (42)	1 (43)	2 (9)	62 (37)	374 (16)	444 (23)
滋賀県	27 (20)	21 (20)	6 (17)	0 (25)	64 (36)	236 (27)	327 (32)
京都府	132 (6)	122 (6)	8 (11)	2 (9)	858 (6)	587 (12)	1,577 (10)
大阪府	300 (2)	241 (3)	31 (2)	28 (1)	2,523 (2)	2,634 (1)	5,457 (2)
奈良県	16 (30)	12 (29)	1 (43)	3 (5)	66 (35)	279 (23)	361 (29)
和歌山県	13 (38)	10 (32)	2 (36)	1 (16)	46 (41)	186 (32)	245 (37)
兵庫県	181 (4)	156 (4)	22 (4)	3 (5)	829 (7)	1,076 (8)	2,086 (7)
鳥取県	5 (47)	4 (46)	1 (43)	0 (25)	21 (46)	66 (45)	92 (46)
島根県	6 (46)	4 (46)	2 (36)	0 (25)	30 (43)	45 (47)	81 (47)
岡山県	28 (18)	24 (17)	4 (30)	0 (25)	247 (17)	468 (15)	743 (14)
広島県	64 (11)	57 (10)	6 (17)	1 (16)	502 (10)	573 (13)	1,139 (12)
山口県	28 (18)	22 (19)	6 (17)	0 (25)	103 (27)	182 (33)	313 (34)
徳島県	18 (27)	14 (27)	4 (30)	0 (25)	51 (40)	106 (41)	175 (43)
香川県	16 (30)	10 (32)	5 (22)	1 (16)	131 (22)	310 (19)	457 (21)
愛媛県	20 (26)	14 (27)	5 (22)	1 (16)	146 (20)	194 (31)	360 (30)
高知県	16 (30)	15 (23)	1 (43)	0 (25)	79 (31)	82 (43)	177 (42)
福岡県	181 (4)	154 (5)	25 (3)	2 (9)	1,886 (3)	1,254 (6)	3,321 (4)
佐賀県	14 (35)	12 (29)	2 (36)	0 (25)	87 (28)	204 (29)	305 (36)
長崎県	61 (12)	56 (11)	5 (22)	0 (25)	256 (15)	156 (37)	473 (20)
熊本県	50 (14)	45 (13)	5 (22)	0 (25)	260 (14)	290 (21)	600 (16)
大分県	17 (28)	12 (29)	5 (22)	0 (25)	123 (23)	170 (34)	310 (35)
宮崎県	14 (35)	9 (37)	4 (30)	1 (16)	186 (19)	196 (30)	396 (25)
鹿児島県	51 (13)	41 (14)	5 (22)	5 (3)	227 (18)	245 (26)	523 (18)
沖縄県	17 (28)	15 (23)	2 (36)	0 (25)	390 (13)	47 (46)	454 (22)
計	2,604	2,138	377	89	21,616	24,860	49,080

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数

表 20 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数（件）（平成 23 年）

事業の種類 都道府県	バス				タクシー	トラック	計
		乗合	貸切	その他			
北海道	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	1 (11)	13 (7)	14 (9)
青森県	1 (2)	0 (9)	1 (1)	0	1 (11)	5 (22)	7 (21)
岩手県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	3 (32)	3 (35)
宮城県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	1 (11)	11 (12)	12 (13)
秋田県	1 (2)	0 (9)	1 (1)	0	1 (11)	3 (32)	5 (26)
山形県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	0 (45)	0 (45)
福島県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	9 (15)	9 (19)
茨城県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	2 (7)	9 (15)	11 (14)
栃木県	1 (2)	1 (2)	0 (4)	0	1 (11)	8 (18)	10 (17)
群馬県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	11 (12)	11 (14)
埼玉県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	1 (11)	35 (1)	36 (1)
千葉県	2 (1)	2 (1)	0 (4)	0	1 (11)	18 (5)	21 (6)
東京都	1 (2)	1 (2)	0 (4)	0	10 (1)	13 (7)	24 (4)
神奈川県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	7 (2)	9 (15)	16 (7)
山梨県	1 (2)	1 (2)	0 (4)	0	0 (23)	1 (39)	2 (37)
新潟県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	5 (22)	5 (26)
富山県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	4 (26)	4 (30)
石川県	1 (2)	1 (2)	0 (4)	0	1 (11)	12 (11)	14 (9)
長野県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	3 (32)	3 (35)
福井県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	4 (26)	4 (30)
岐阜県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	7 (20)	7 (21)
静岡県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	1 (11)	13 (7)	14 (9)
愛知県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	1 (11)	29 (2)	30 (2)
三重県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	7 (20)	7 (21)
滋賀県	1 (2)	1 (2)	0 (4)	0	0 (23)	3 (32)	4 (30)
京都府	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	4 (4)	4 (26)	8 (20)
大阪府	1 (2)	0 (9)	1 (1)	0	5 (3)	23 (3)	29 (3)
奈良県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	1 (11)	1 (39)	2 (37)
和歌山県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	1 (39)	1 (42)
兵庫県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	3 (5)	13 (7)	16 (7)
鳥取県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	1 (39)	1 (42)
島根県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	1 (11)	1 (39)	2 (37)
岡山県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	11 (12)	11 (14)
広島県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	14 (6)	14 (9)
山口県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	5 (22)	5 (26)
徳島県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	2 (36)	2 (37)
香川県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	5 (22)	5 (26)
愛媛県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	2 (7)	4 (26)	6 (24)
高知県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	1 (39)	1 (42)
福岡県	1 (2)	1 (2)	0 (4)	0	2 (7)	19 (4)	22 (5)
佐賀県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	4 (26)	4 (30)
長崎県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	0 (45)	0 (45)
熊本県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	2 (7)	8 (18)	10 (17)
大分県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	0 (45)	0 (45)
宮崎県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	2 (36)	2 (37)
鹿児島県	0 (12)	0 (9)	0 (4)	0	0 (23)	4 (26)	4 (30)
沖縄県	1 (2)	1 (2)	0 (4)	0	3 (5)	2 (36)	6 (24)
計	12	9	3	0	52	363	427

注 1：数値横のカッコ内は順位  
注 2：都道府県合計には、不明を含む

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 2. バスの事故

### (1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成23年のバスによる事故は、平成18年まで増加傾向にあったが、平成19年以降は減少している。

平成23年は死亡事故件数、重傷事故件数、軽傷事故件数ともに減少している。

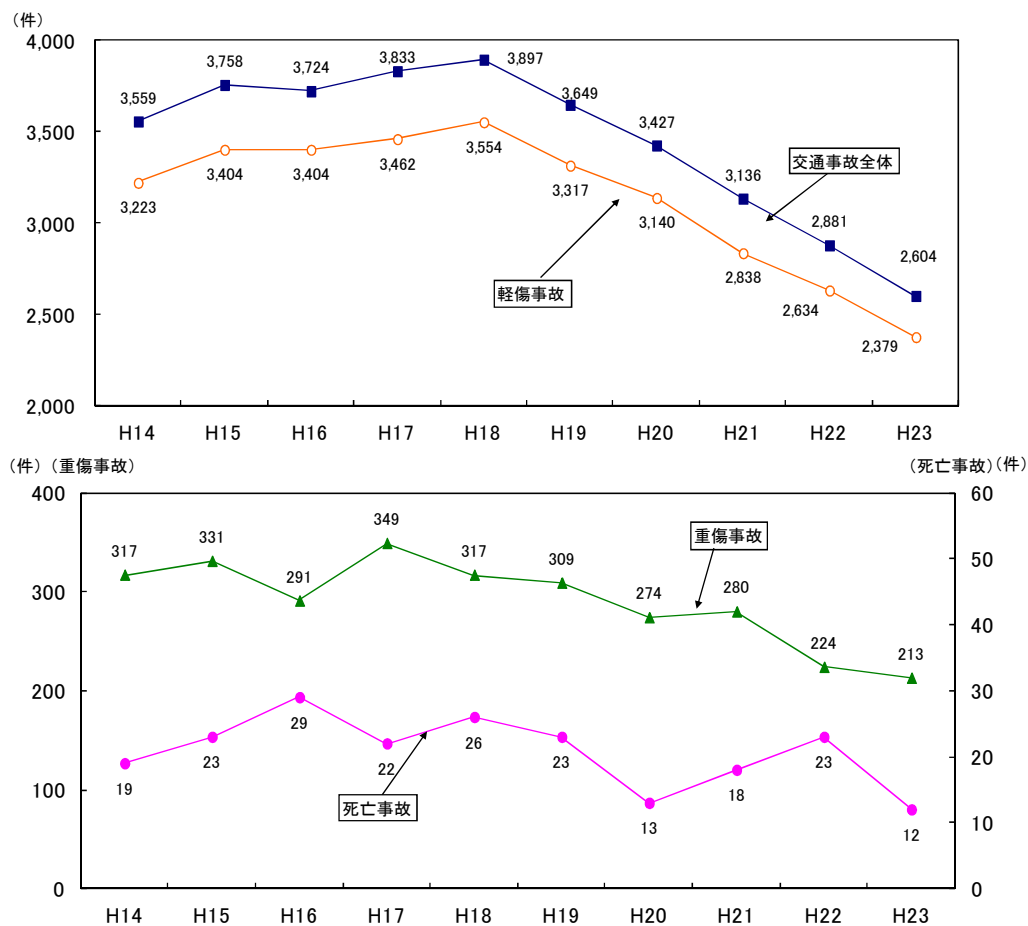


図 20 バスの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 21 バスの事故件数の推移 (件)

区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H14	19	317	3,223	3,559
H15	23	331	3,404	3,758
H16	29	291	3,404	3,724
H17	22	349	3,462	3,833
H18	26	317	3,554	3,897
H19	23	309	3,317	3,649
H20	13	274	3,140	3,427
H21	18	280	2,838	3,136
H22	23	224	2,634	2,881
H23	12	213	2,379	2,604

(バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値を示す。)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) バス事故の死傷者数の推移

バスの事故による死者数は、平成 23 年は前年より大幅に減少し、過去10年間で最少の年間 12 人となっている。

重傷者数は、平成 18 年以降、減少傾向にある。

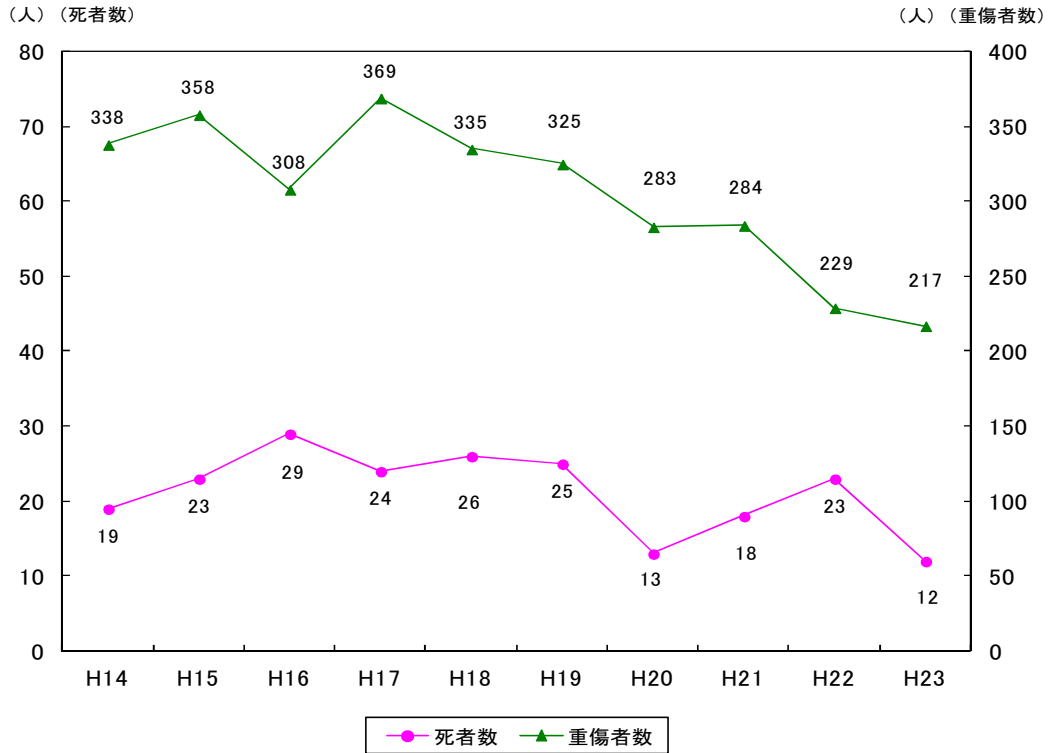


図 21 バス事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 22 バスの死傷者数の推移(人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H14	19	338	4,176	4,533
H15	23	358	4,353	4,734
H16	29	308	4,306	4,643
H17	24	369	4,411	4,804
H18	26	335	4,693	5,054
H19	25	325	4,255	4,605
H20	13	283	3,950	4,246
H21	18	284	3,514	3,816
H22	23	229	3,299	3,551
H23	12	217	3,052	3,281

(バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値を示す。)

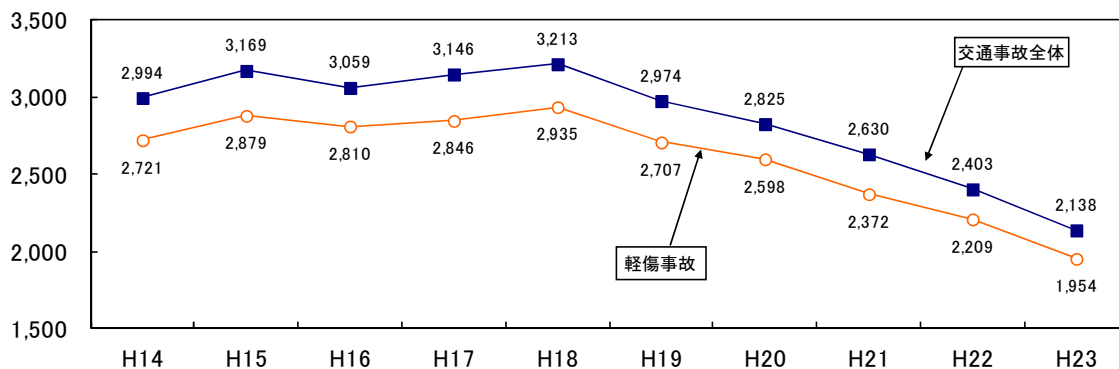
出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 2-1. 乗合バスの事故

### (1) 乗合バスの事故件数、死傷事故件数の推移

乗合バスによる事故は、平成19年以降は減少傾向にあり、平成23年はいずれの事故でも前年より減少した。

(件)



(件)(重傷事故)

(死亡事故)(件)

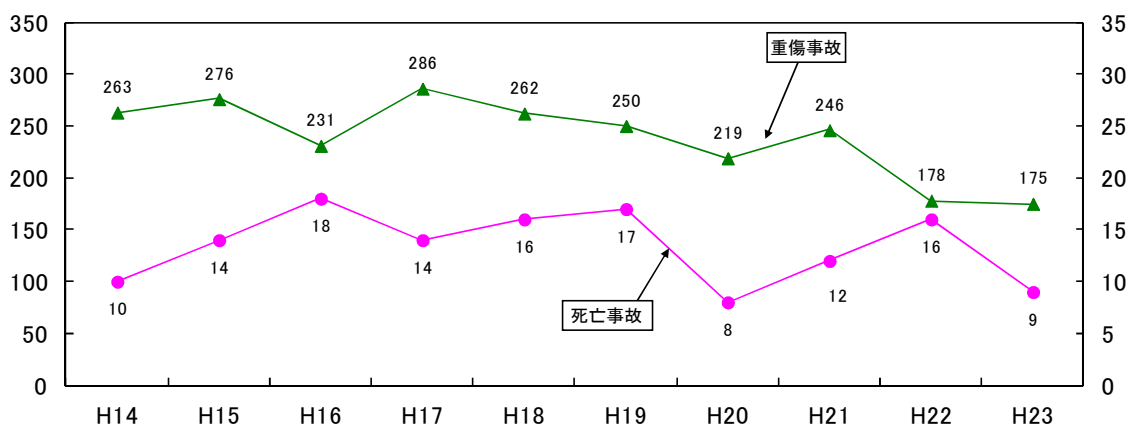


図22 乗合バスの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表23 乗合バスの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H14	10	263	2,721	2,994
H15	14	276	2,879	3,169
H16	18	231	2,810	3,059
H17	14	286	2,846	3,146
H18	16	262	2,935	3,213
H19	17	250	2,707	2,974
H20	8	219	2,598	2,825
H21	12	246	2,372	2,630
H22	16	178	2,209	2,403
H23	9	175	1,954	2,138

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (2) 乗合バス事故の死傷者数の推移

平成 23 年の乗合バスの事故による死者数、重傷者数ともに減少している。

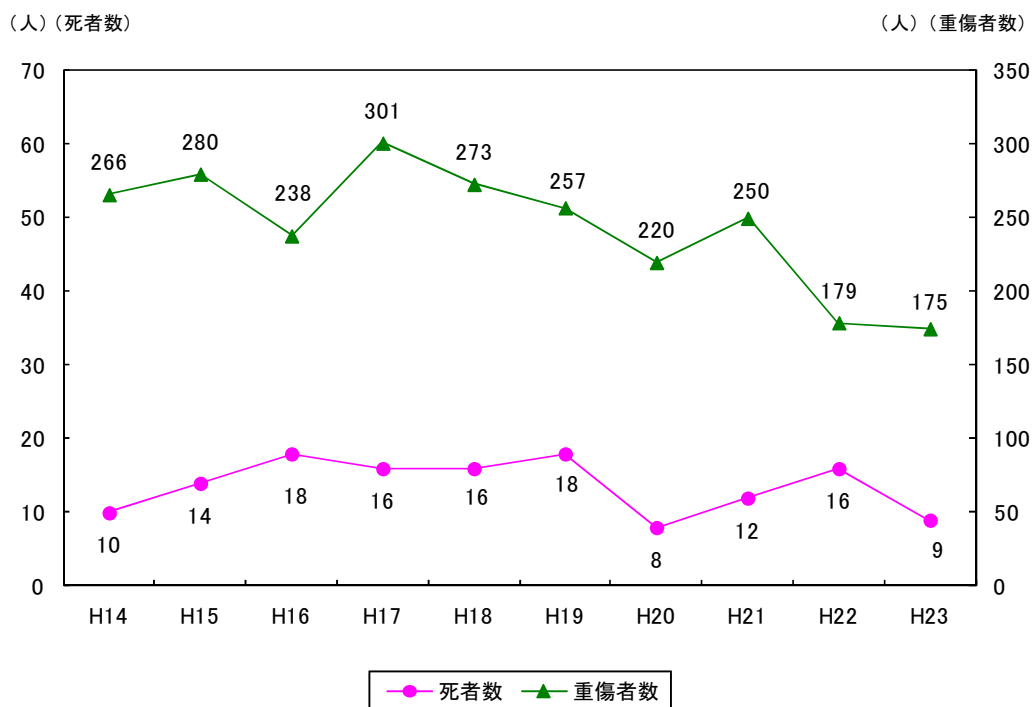


図 23 乗合バス事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 24 乗合バス事故の死傷者数の推移 (人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H14	10	266	3,332	3,608
H15	14	280	3,390	3,684
H16	18	238	3,284	3,540
H17	16	301	3,417	3,734
H18	16	273	3,559	3,848
H19	18	257	3,187	3,462
H20	8	220	3,042	3,270
H21	12	250	2,818	3,080
H22	16	179	2,653	2,848
H23	9	175	2,326	2,510

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 乗合バスの事故類型別事故件数

乗合バスは単独事故が最も多く、次いで他車との事故が多い。

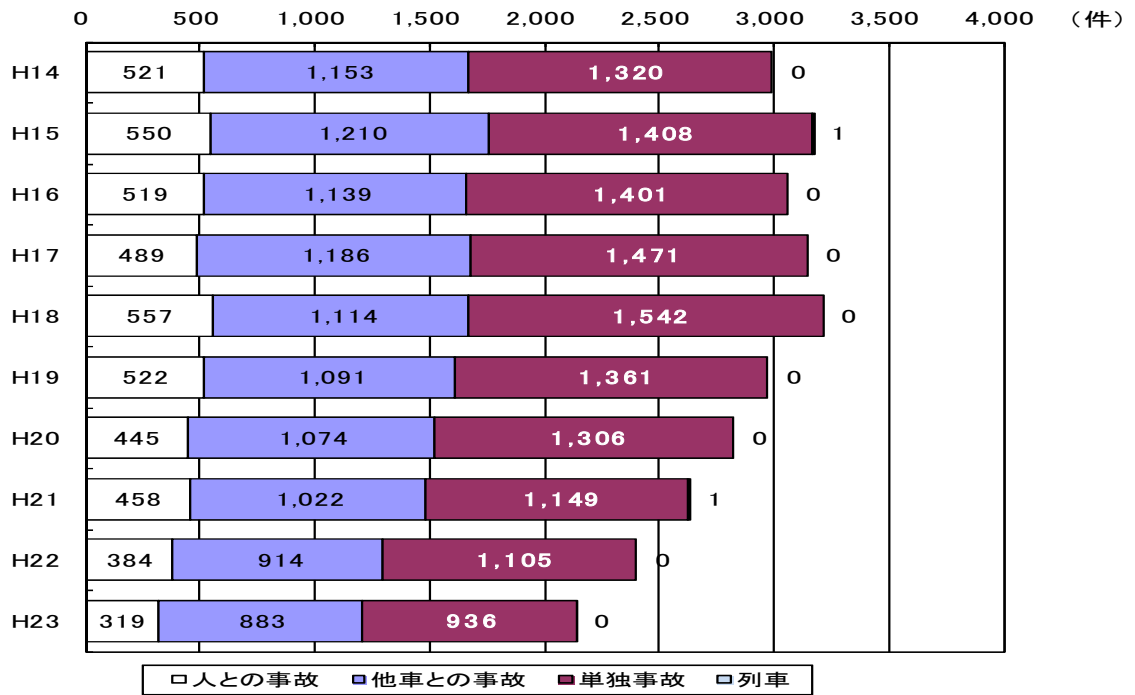
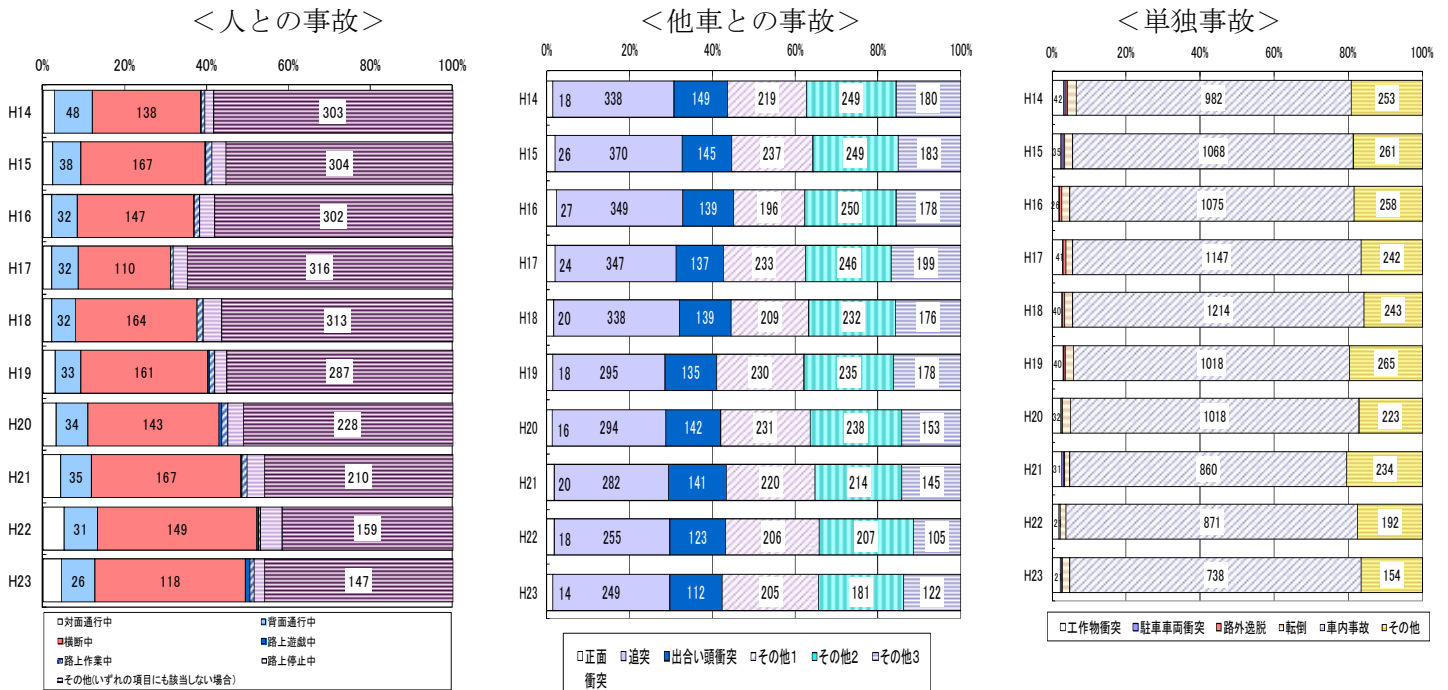


図 24 乗合バスの事故類型別事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

図 25 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」



(4) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、人との事故が最も多く、次いで他車との事故が多い。

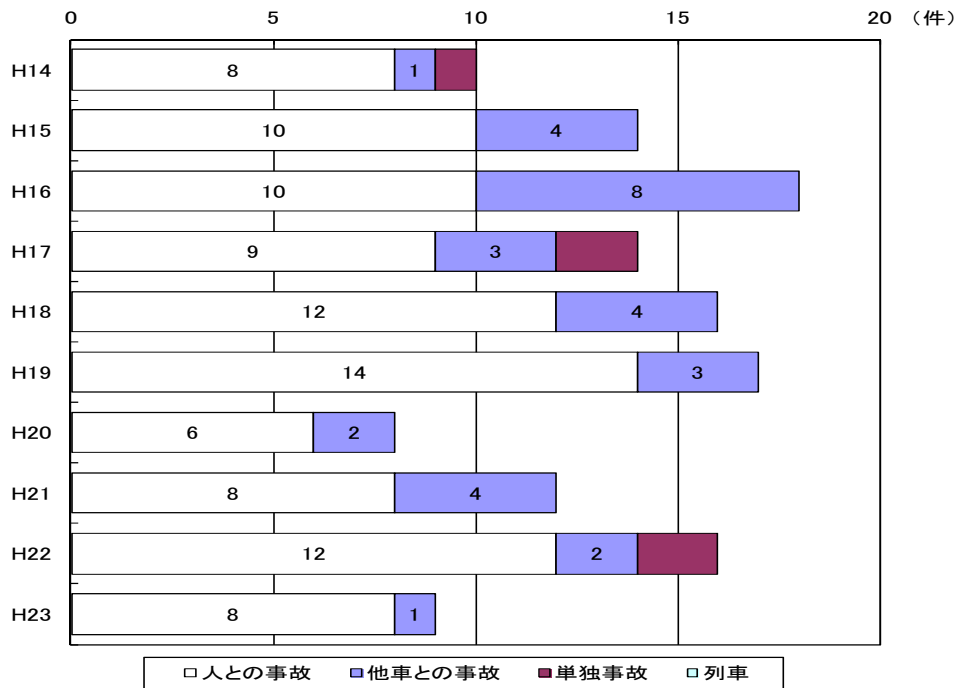


図 26 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）

人との死亡事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い。

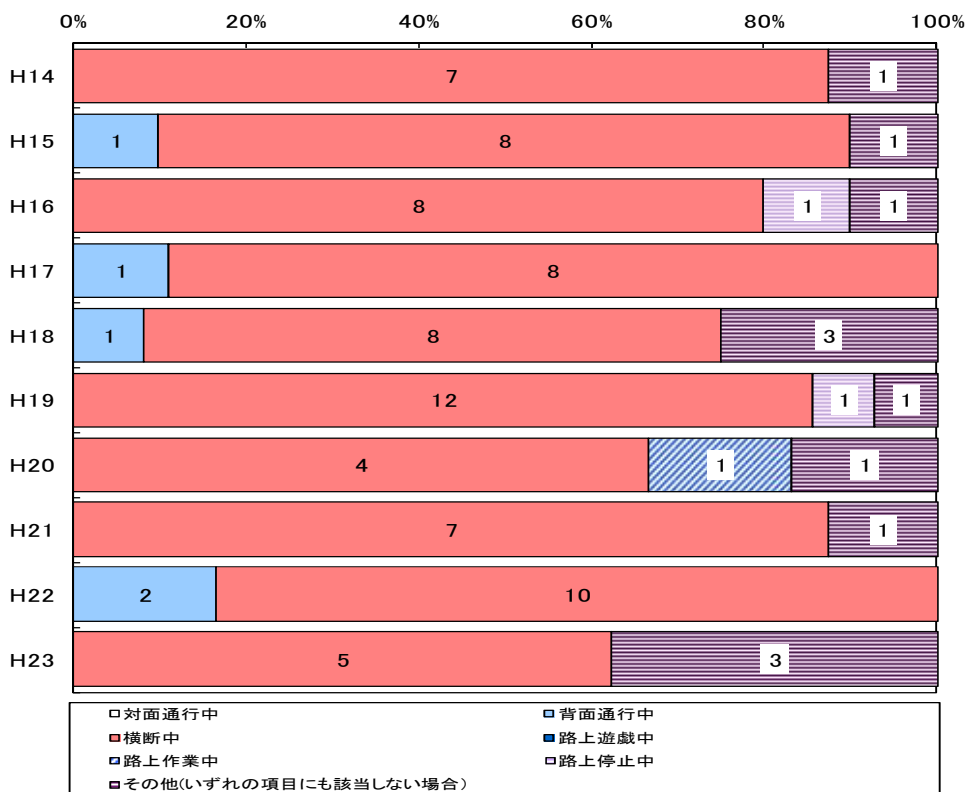


図 27 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（他車との事故）

他車との事故は、平成17年以降は死亡事故件数は2~4件にとどまっている。

表25 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

年	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H14	0	0	0	0	1	0
H15	0	1	0	0	2	1
H16	0	1	2	1	3	1
H17	0	0	0	0	2	1
H18	0	0	0	1	1	2
H19	0	0	0	1	0	2
H20	0	0	0	1	1	0
H21	0	0	1	2	0	1
H22	0	0	0	1	1	0
H23	0	0	1	0	0	0

その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(7) 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

乗合バスでは、「安全不確認」(29%)、「運転操作」(19%)、「動静不注視」(15%)といった法令違反の事故が多い。「運転操作」は車内事故発生の要因の一つと考えられる。

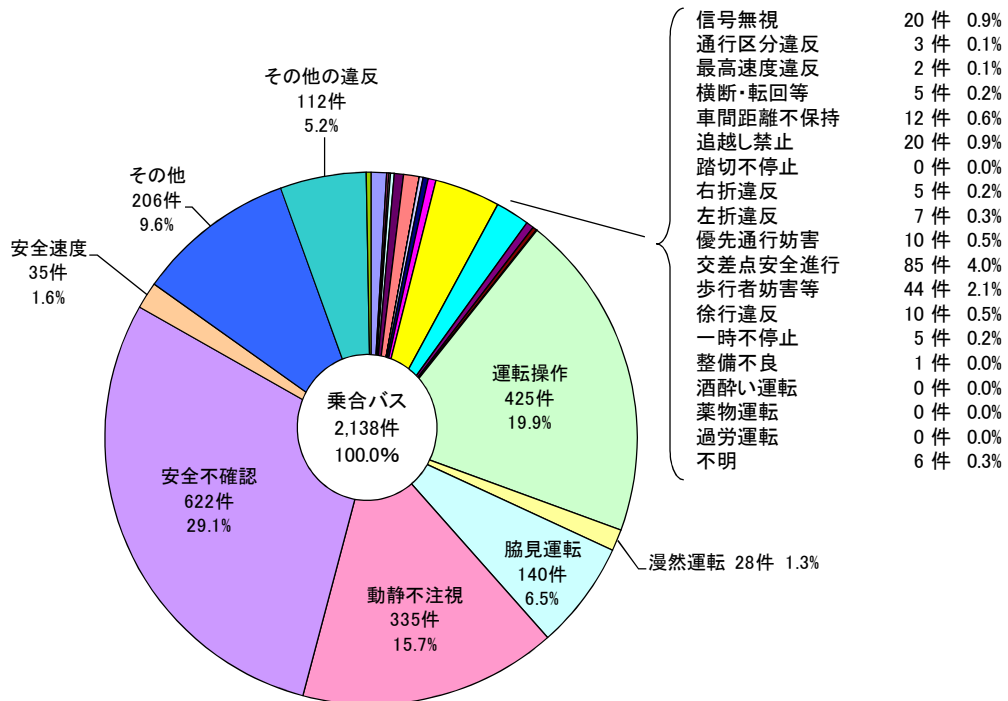


図28 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（平成23年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移

乗合バスの車内事故は、平成 18 年度まで増加傾向にあったが、平成 19 年以降は減少しており、平成 23 年は前年と比べて 133件減少した。

また、平成 23 年に発生した車内事故 738件のうち、行動類型別にみると、発進時が最も多く 298件 (40.4%)となっており、次いで等速時 110件 (14.9%)、減速時 105件 (14.2%)、急停止時 101件 (13.7%)となっている。

表 26 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移 (件)

		H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
発進		355	419	427	435	413	348	422	351	343	298
直進	加速	41	49	28	53	64	46	36	22	27	25
	等速	145	148	132	167	187	156	140	127	123	110
	減速	161	160	162	159	187	152	133	113	111	105
急停止		154	159	196	188	223	155	148	131	134	101
右左折		49	45	46	61	43	47	56	37	55	35
その他		77	88	84	84	97	114	83	79	78	64
合計		982	1,068	1,075	1,147	1,214	1,018	1,018	860	871	738

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

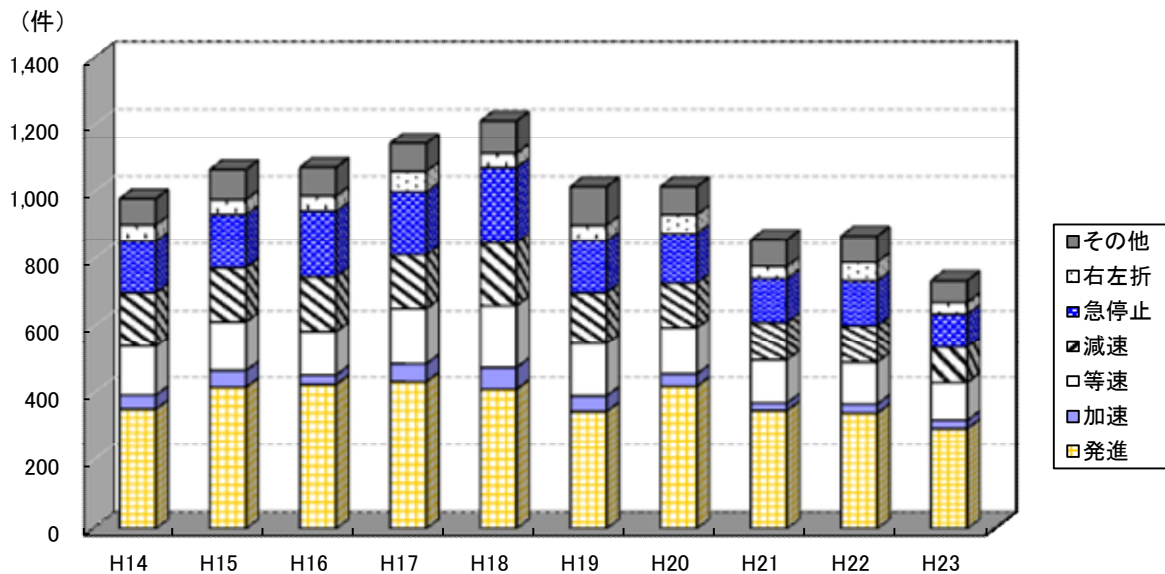


図 29 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、平成 18 年以降は減少傾向にあるが、依然として多くの重傷者が発生している。

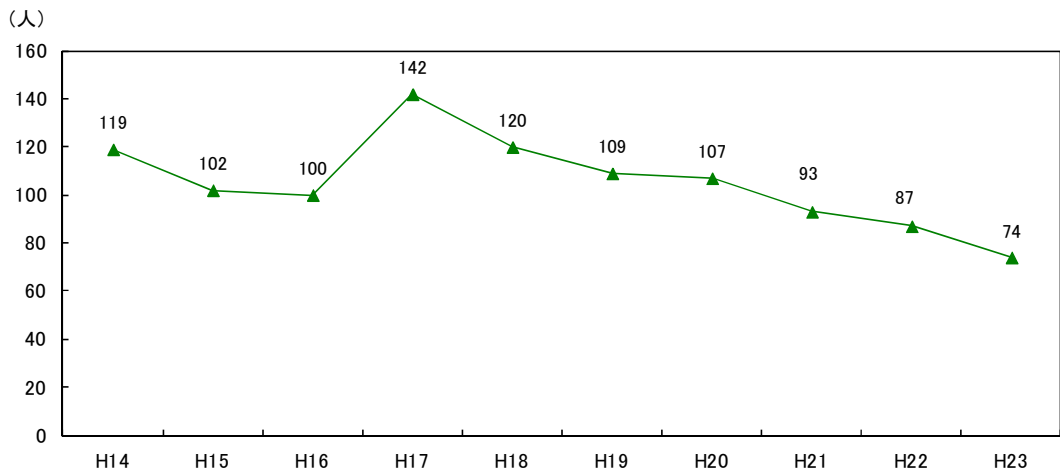


図 30 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布

乗合バスの車内事故による重傷者を性・年齢別にみると、女性の 65 歳以上に多く、そのうち 75~79歳が最も多く 14人となっている。

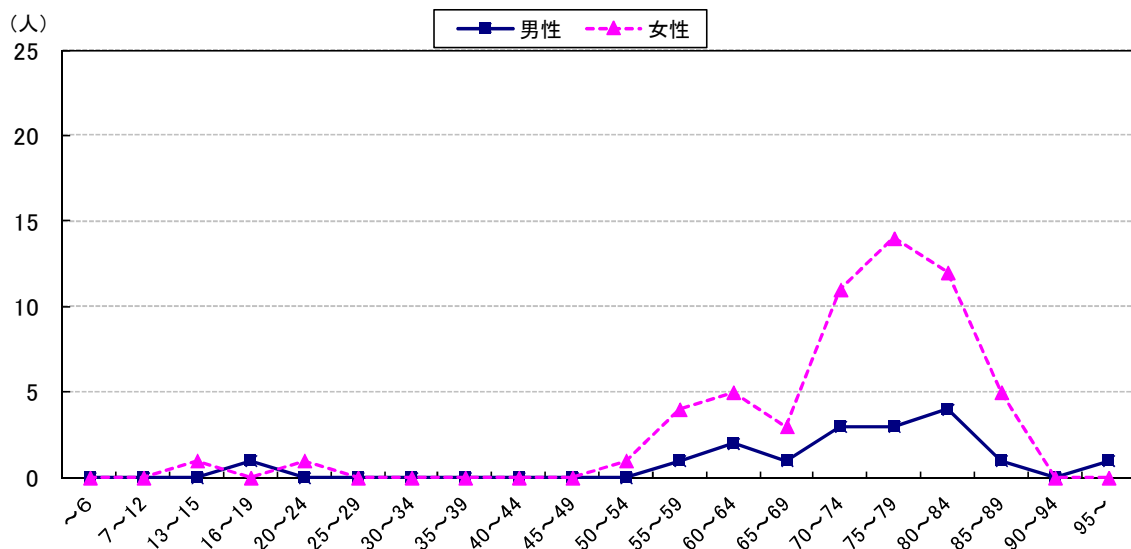


図 31 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布 (平成 23 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 輸送人員1億人あたり及び走行距離1億キロあたり乗合バスの車内事故件数

輸送人員1億人あたり及び走行距離1億キロあたり乗合バスの車内事故件数を見ると、乗合バスの輸送人員は平成19年までは微減、走行距離は変化がないことから、車内事故件数と同等の傾向を示している。

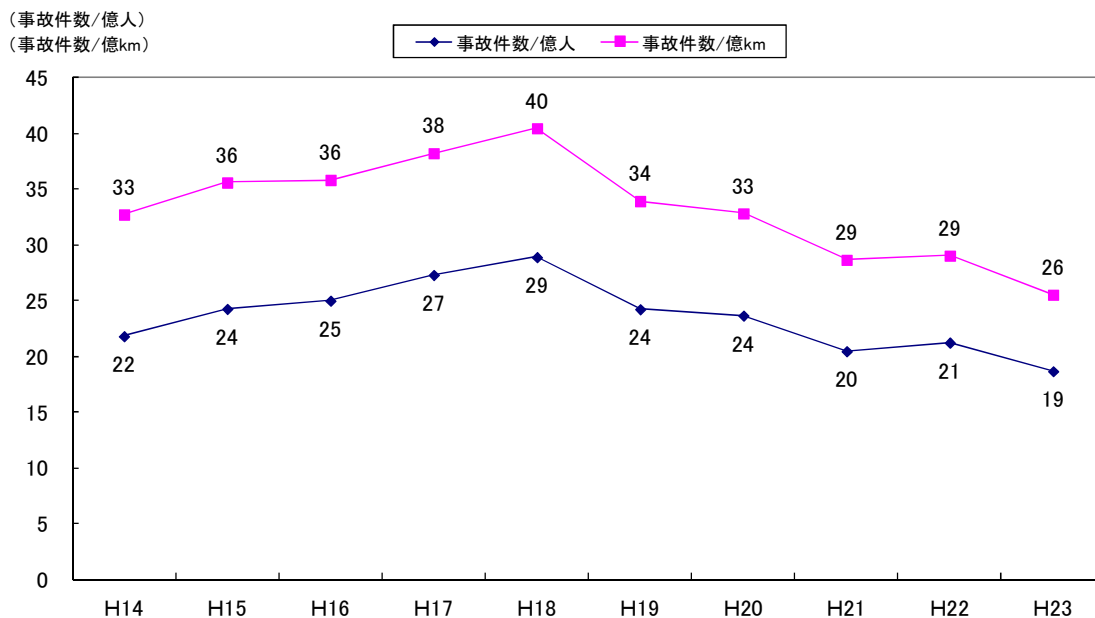


図 32 輸送人員1億人あたり及び走行距離1億キロあたり乗合バスの車内事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」

表 27 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行距離の推移

	事故件数(件)	輸送人員(億人)	走行距離(億km)
H14	982	45	30
H15	1,068	44	30
H16	1,075	43	30
H17	1,147	42	30
H18	1,214	42	30
H19	1,018	42	30
H20	1,018	43	31
H21	860	42	30
H22	871	41	30
H23	766	41	30

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」

(12) 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布

乗合バスの車内事故を時間帯別にみると、8時～17時台の日中の時間帯に多く発生し、重傷事故でこの傾向は顕著である。

表 28 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布（平成 23年）

時間帯	重傷事故	軽傷事故	負傷事故計
6～7	1	38	39
8～9	14	109	123
10～11	16	122	138
12～13	15	114	129
14～15	12	109	121
16～17	12	99	111
18～19	8	60	68
20～21	0	26	26
22～23	1	7	8
24～1	0	3	3
2～3	0	0	0
4～5	0	0	0
合計	79	687	766

※運転者が負傷した事故を含む。

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

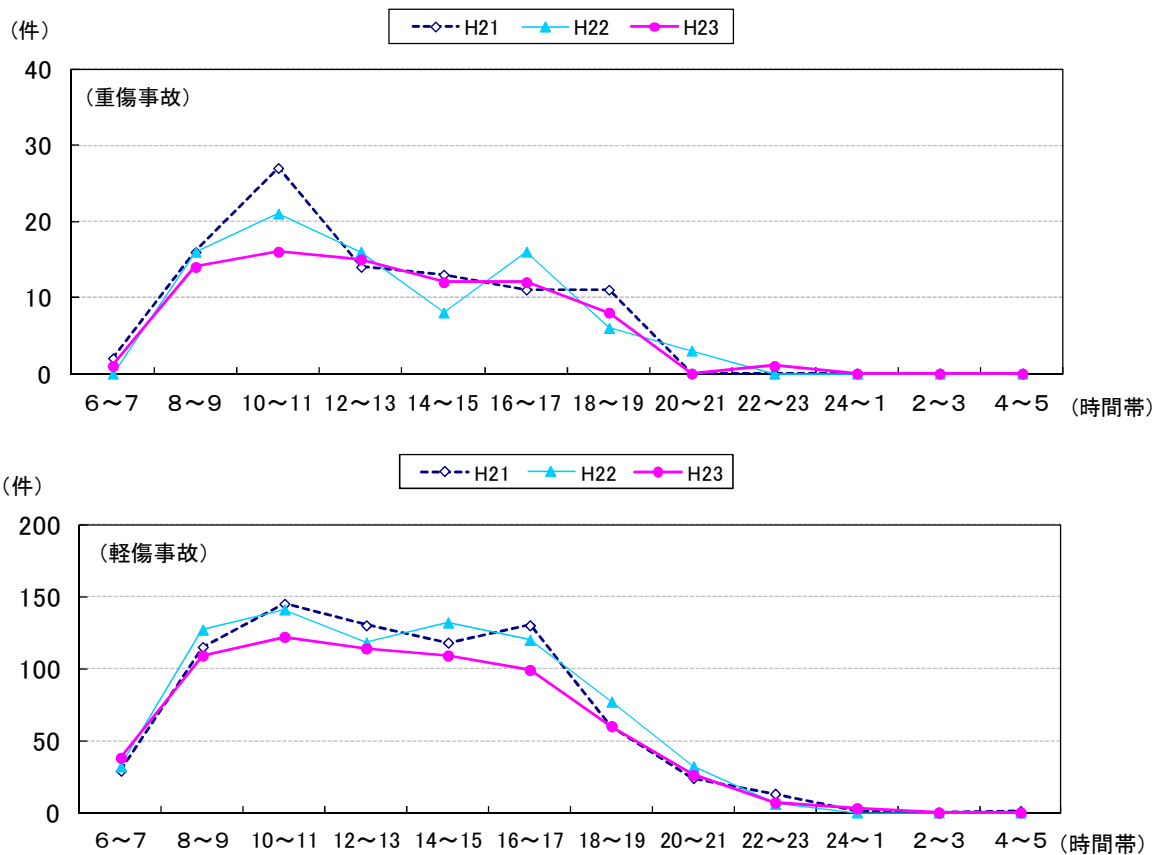


図 33 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) 乗合バスの車内事故による事故種類別負傷者数の年齢分布

乗合バスの車内事故による負傷者を年齢層別にみると 75～79 歳が最も多く、かつ、65 歳以上が 446 人 (55.6%) と高齢者が過半数を占めている。

さらに、重傷者では、60 歳以上が 77 人中 68 人 (88.3%) と高齢者の占める割合が顕著となっている。

表 29 乗合バスの車内事故による事故種類別負傷者数の年齢分布 (人) (平成 23 年)

年齢層	重傷者数	軽傷者数	負傷者計
～6	0	11	11
7～12	0	3	3
13～15	1	1	2
16～19	1	12	13
20～24	1	13	14
25～29	0	18	18
30～34	0	25	25
35～39	0	36	36
40～44	0	42	42
45～49	0	39	39
50～54	1	40	41
55～59	5	36	41
60～64	10	61	71
65～69	4	51	55
70～74	14	87	101
75～79	17	124	141
80～84	16	76	92
85～89	6	46	52
90～94	0	4	4
95～	1	0	1
合計	77	725	802

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

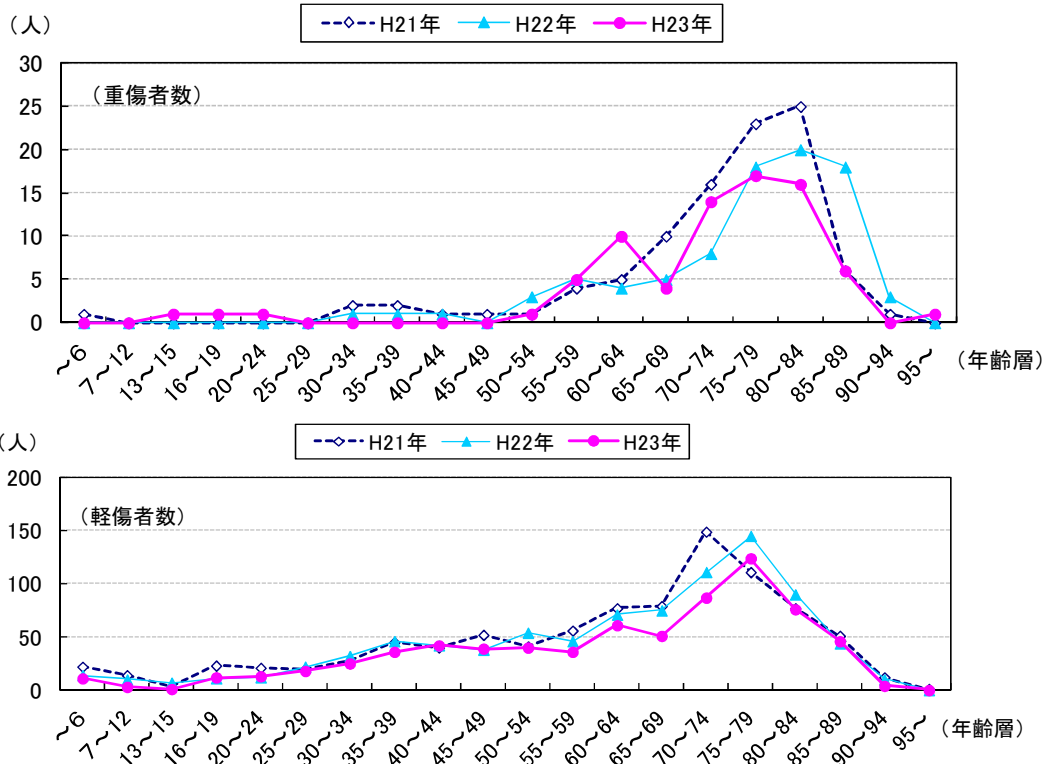


図 34 乗合バスの車内事故による事故種類別負傷者数の年齢分布

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

乗合バスの車内事故による負傷者を男女年齢層別に見ると男性は75～79歳が最も多く、かつ65歳以上が88人（47.1%）と高齢者が5割弱を占めている。

また、女性も75～79歳が最も多く（うち重傷者は14人）、かつ65歳以上が358人（57.6%）と高齢者が過半数を占めている。

さらに、男性と女性を比べてみると、女性が男性の3.49倍となっている。

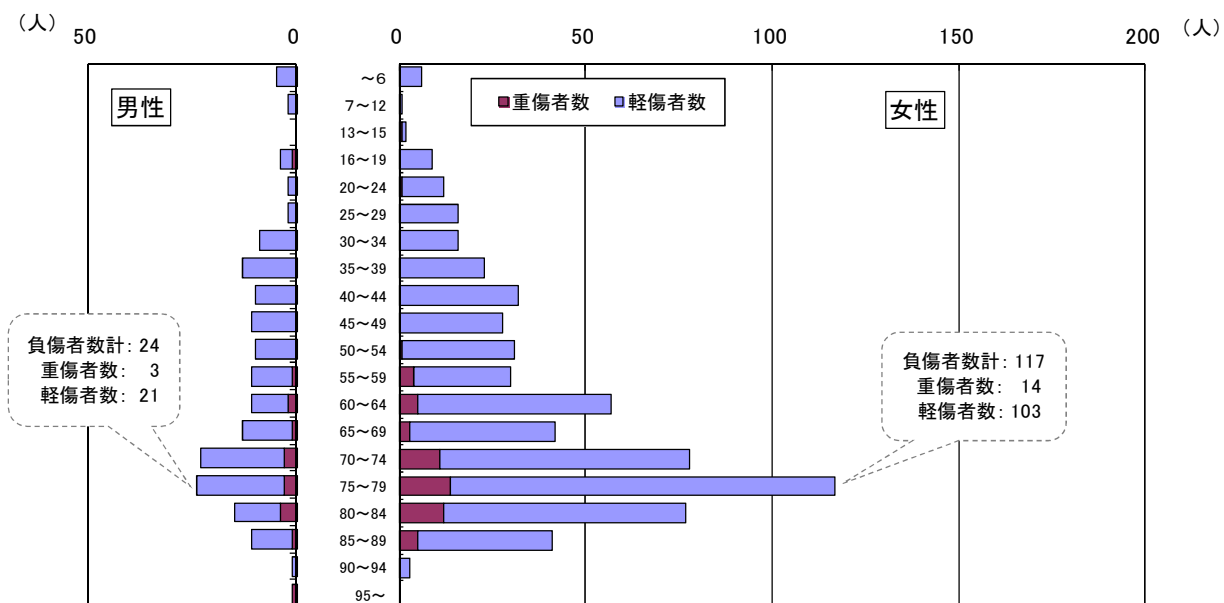


図 35 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数（平成23年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



## 2-2. 貸切バスの事故

### (1) 貸切バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成23年の貸切バスによる事故は、重傷事故、死亡事故ともに前年に比べて減少している。

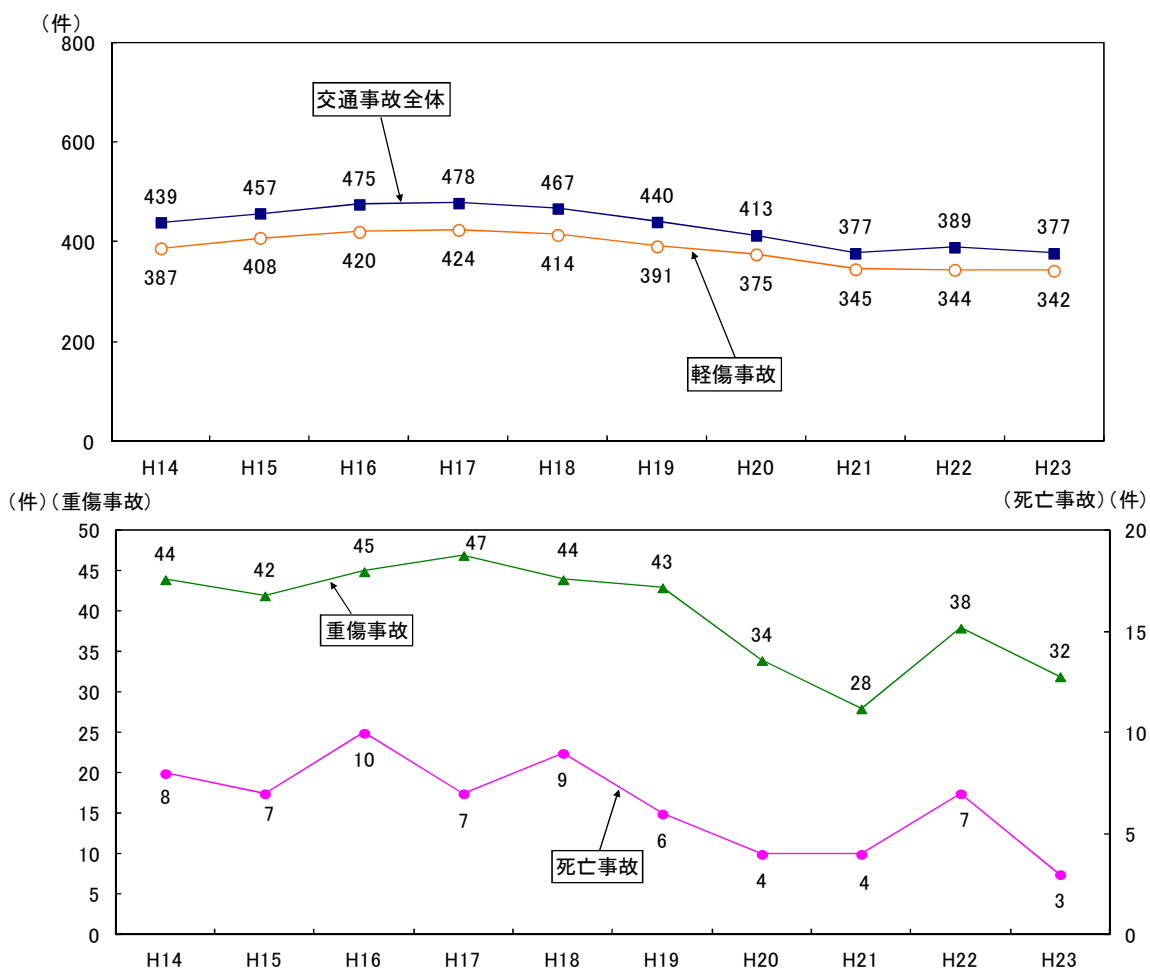


図 36 貸切バスの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 30 貸切バスの事故件数の推移 (件)

年 \ 区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H14	8	44	387	439
H15	7	42	408	457
H16	10	45	420	475
H17	7	47	424	478
H18	9	44	414	467
H19	6	43	391	440
H20	4	34	375	413
H21	4	28	345	377
H22	7	38	344	389
H23	3	32	342	377

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## (2) 貸切バス事故の死傷者数の推移

貸切バスの死傷者数は近年減少傾向にあり、平成 22 年に増加したが、平成 23 年は前年に比べて減少している。

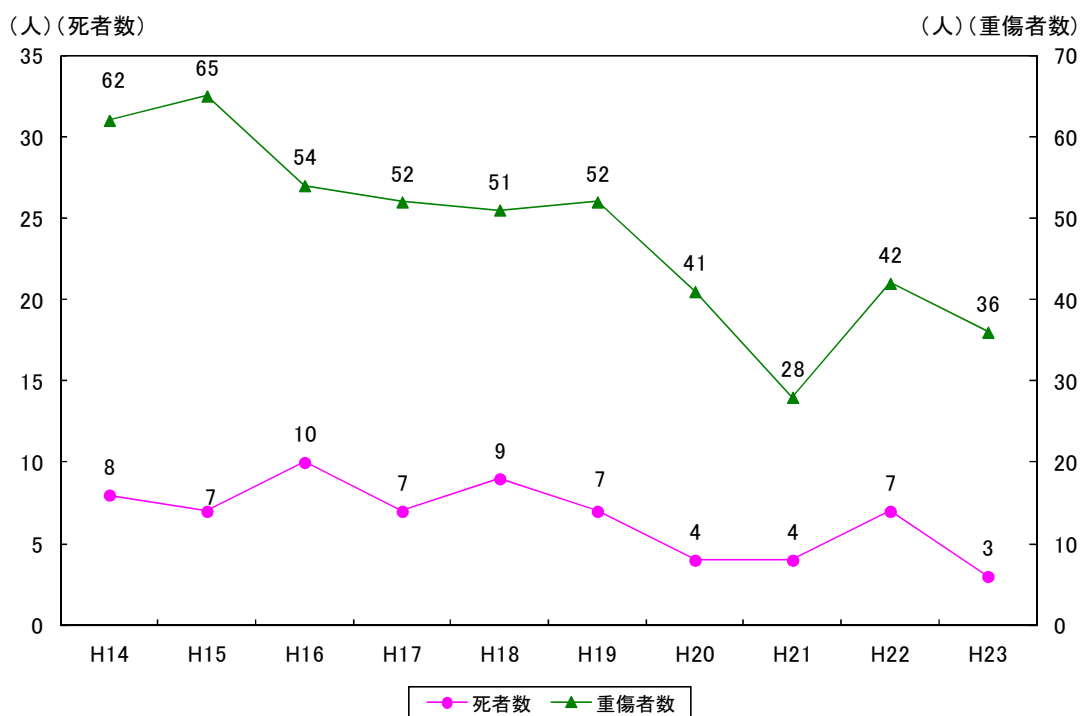


図 37 貸切バス事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 31 貸切バス事故の死傷者数の推移 (人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H14	8	62	700	770
H15	7	65	821	893
H16	10	54	802	866
H17	7	52	770	829
H18	9	51	852	912
H19	7	52	798	857
H20	4	41	698	743
H21	4	28	545	577
H22	7	42	554	603
H23	3	36	595	634

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) 貸切バスの事故類型別事故件数

貸切バスは他車との事故が他の事故と比べ圧倒的に多い。

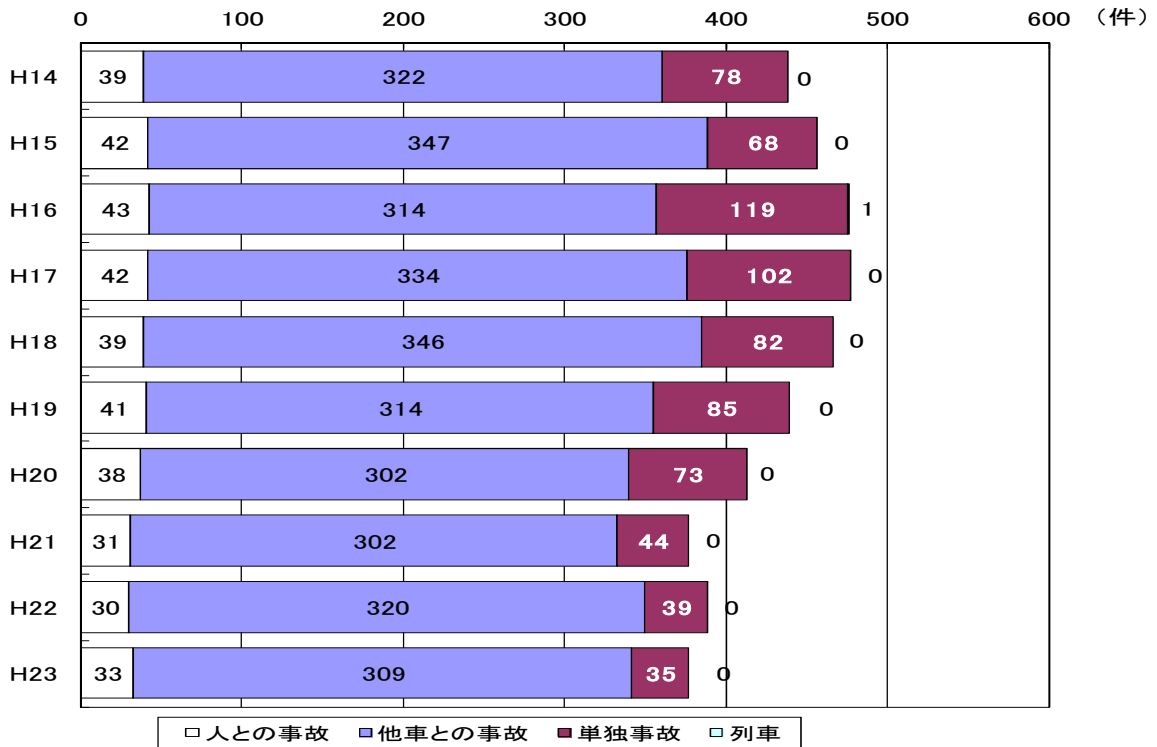
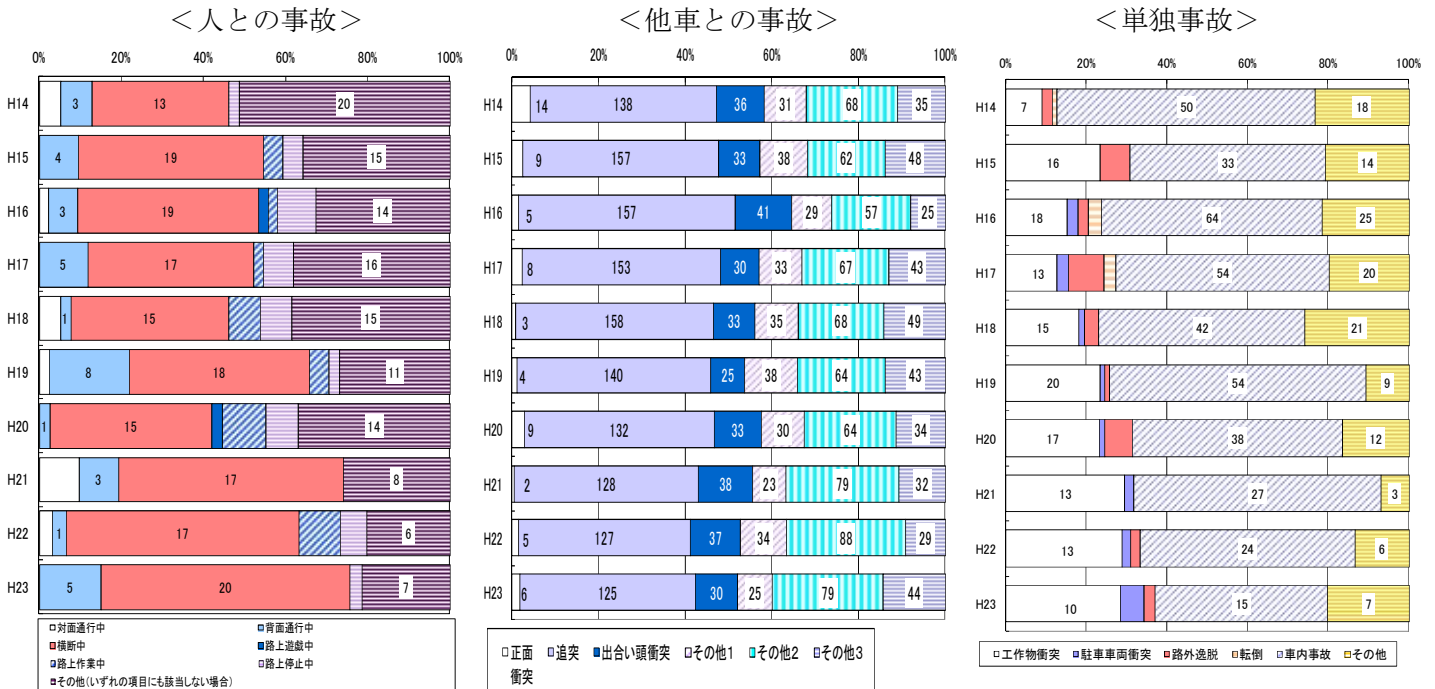


図 38 貸切バスの事故類型別事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

図 39 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、他車との事故が多い。

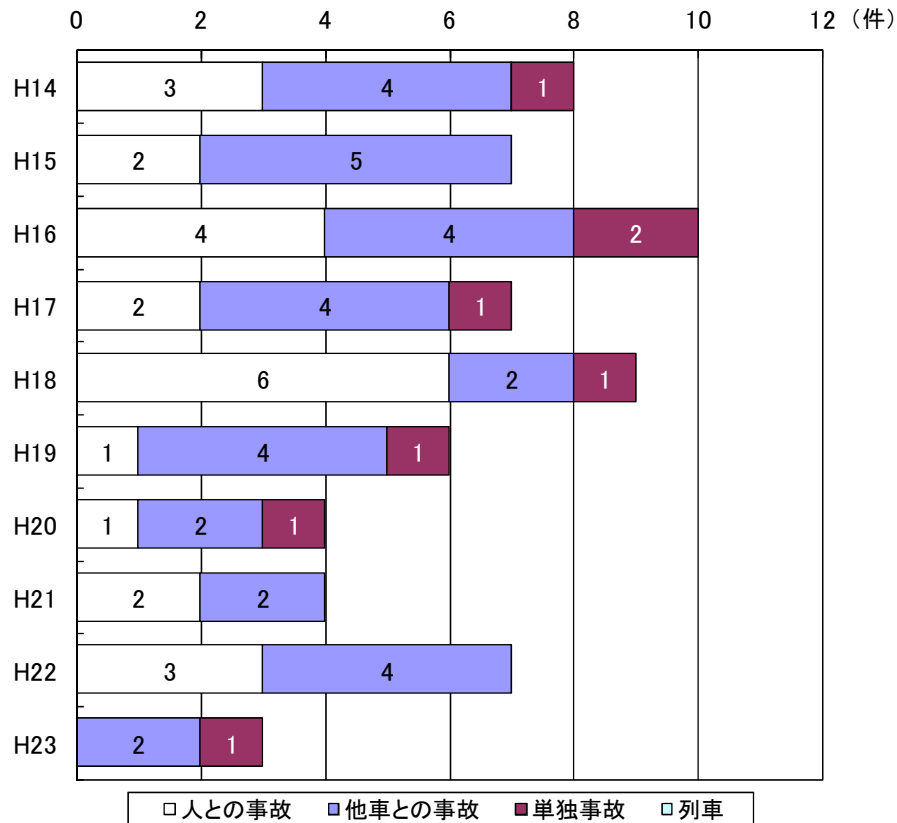


図 40 貸切バスの事故類型別死亡事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（他車との事故）

他車との事故を事故種類別の内訳を見ると、出会い頭衝突が多い。

表 32 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

年	正面衝突	追突	出会い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H14	0	1	2	0	1	0
H15	0	1	1	0	2	1
H16	0	0	1	0	2	1
H17	1	1	1	1	0	0
H18	1	0	0	0	0	1
H19	0	1	1	2	0	0
H20	1	0	0	0	1	0
H21	0	0	1	0	1	0
H22	1	0	2	1	0	0
H23	0	1	1	0	0	0

その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

貸切バスでは、「安全不確認」(31.0%)、「動静不注視」(15.4%)、「脇見運転」(15.4%)  
といった法令違反の事故が多い。

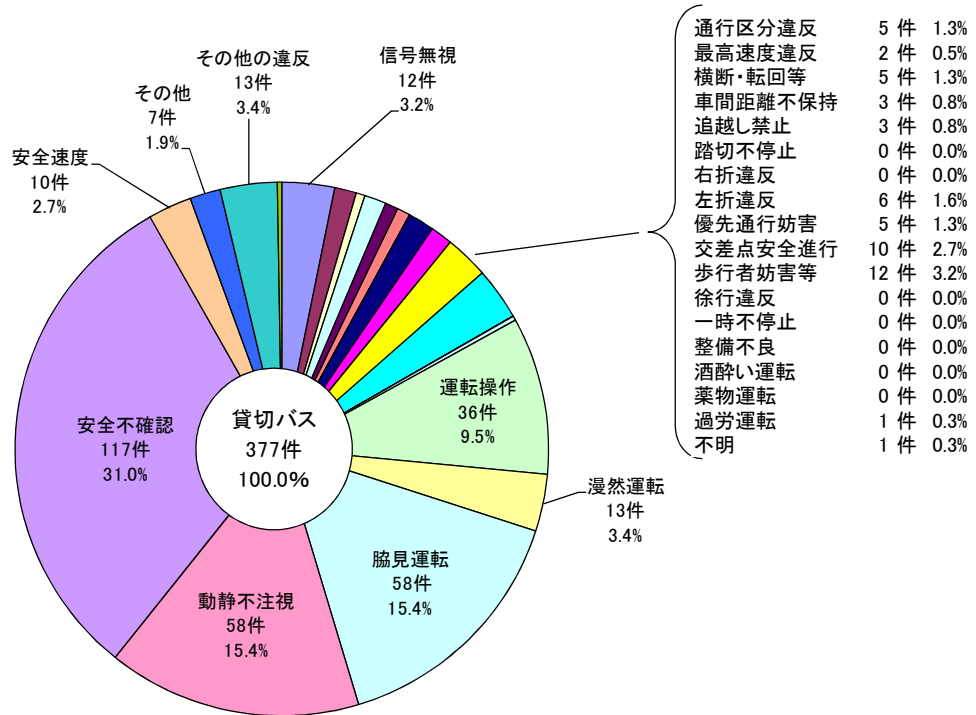


図 41 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合 (平成23年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (7) 貸切バスの危険認知速度別の事故件数

平成23年の貸切バスの危険認知速度別の事故件数は10km/h以下で160件と最も多く発生している。次いで20km/h以下で51件、40km/h以下で49件発生している。

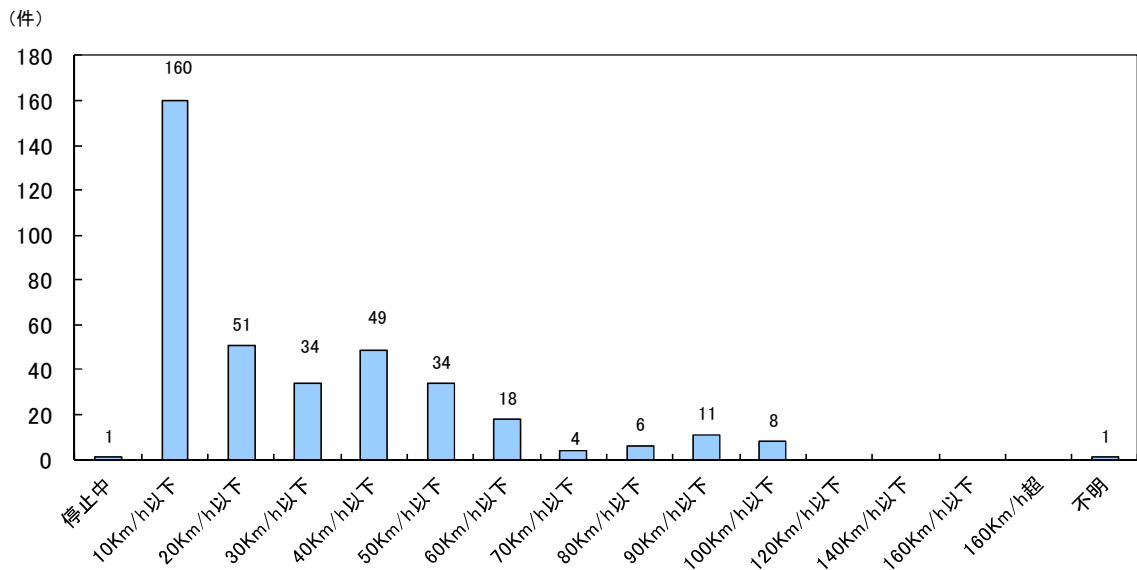


図42 貸切バスの危険認知速度別の事故件数（平成23年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

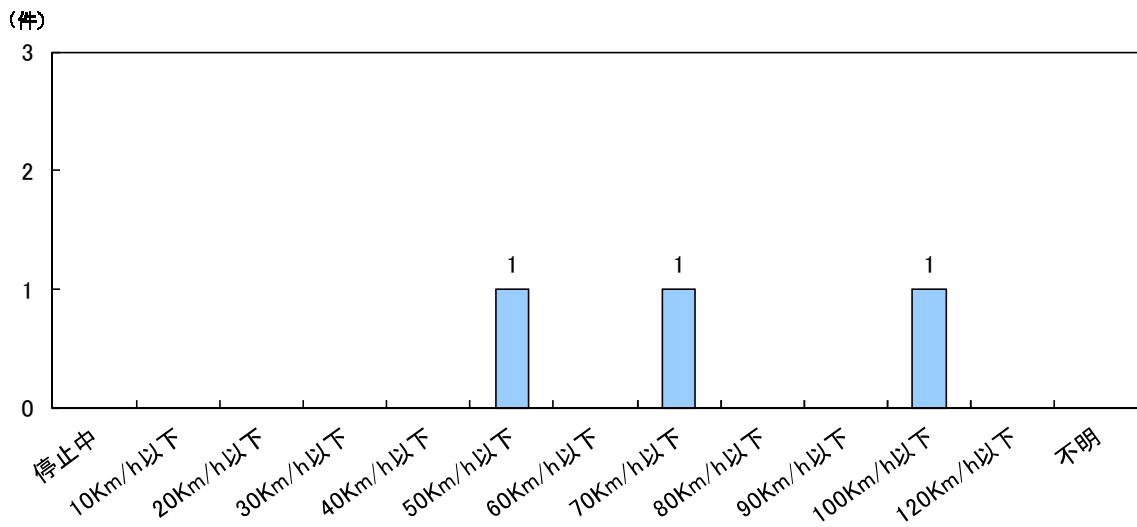


図43 貸切バスの危険認知速度別の死亡事故件数（平成23年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布をみると、6～12時の午前と16～18時の夕方の時間帯に多く発生している。また、深夜や早朝の時間帯にも発生している。

表33 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (平成23年)

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	7	5	8	1	0	5	3	4	0	33
20km/h以下	0	1	0	0	3	0	1	0	5	0	0	0	10
30km/h以下	0	0	0	4	3	1	0	3	2	0	0	0	13
40km/h以下	0	0	0	4	2	5	1	5	1	1	0	1	20
50km/h以下	0	1	1	0	3	3	3	1	1	2	1	2	18
60km/h以下	0	0	0	1	1	2	1	2	2	2	1	0	12
70km/h以下	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
80km/h以下	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	4
90km/h以下	0	1	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	5
100km/h以下	0	0	1	0	1	1	0	0	2	0	1	1	7
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	4	2	16	21	21	9	11	19	10	7	5	125

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

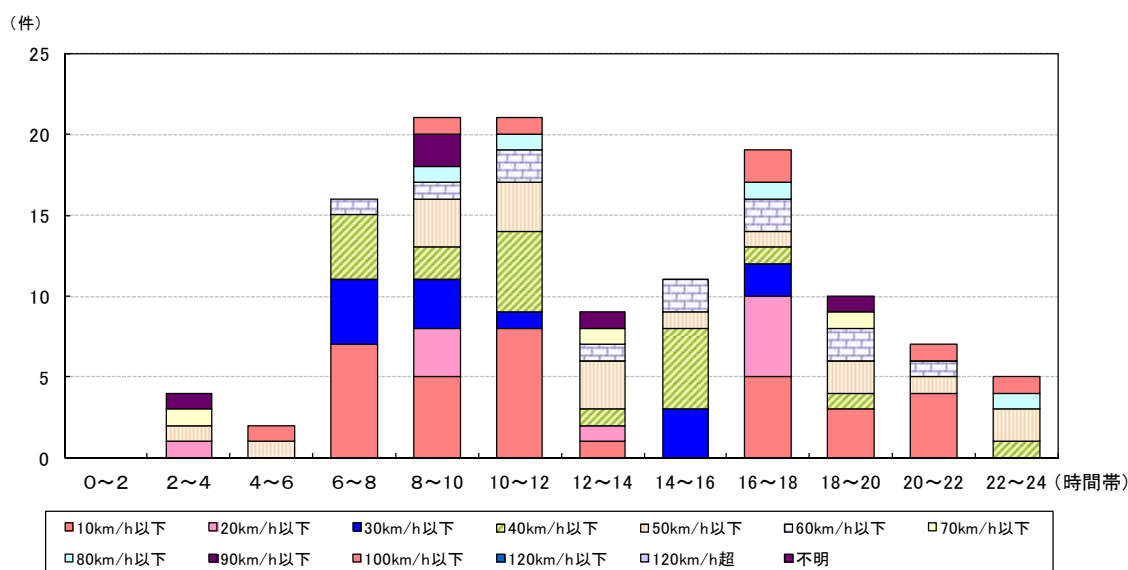


図44 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (平成23年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### 3. タクシーの事故

#### (1) タクシーの事故件数、死傷事故件数の推移

タクシー事故件数は、平成 17 年まで増加傾向にあったが、平成 18 年以降は減少している。また、死亡事故件数については、増減はあるものの、平成 17 年以降はほぼ横ばい傾向で推移しているが、ここ 2 年は増加している。

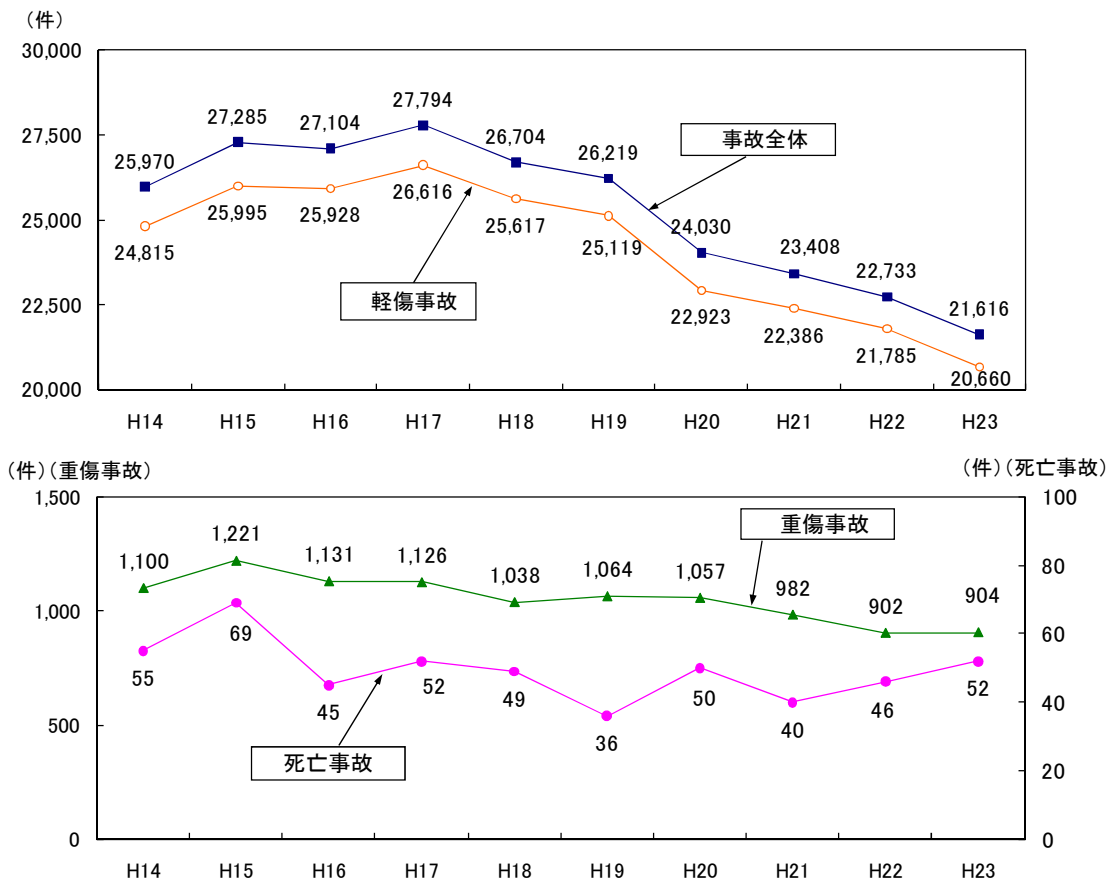


図 45 タクシーの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 34 タクシーの事故件数の推移 (件)

年 \ 区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	事故全体
H14	55	1,100	24,815	25,970
H15	69	1,221	25,995	27,285
H16	45	1,131	25,928	27,104
H17	52	1,126	26,616	27,794
H18	49	1,038	25,617	26,704
H19	36	1,064	25,119	26,219
H20	50	1,057	22,923	24,030
H21	40	982	22,386	23,408
H22	46	902	21,785	22,733
H23	52	904	20,660	21,616

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



(2) タクシー事故の死傷者数の推移

タクシー事故の重傷者数、死者数は前年に比べ増加している。

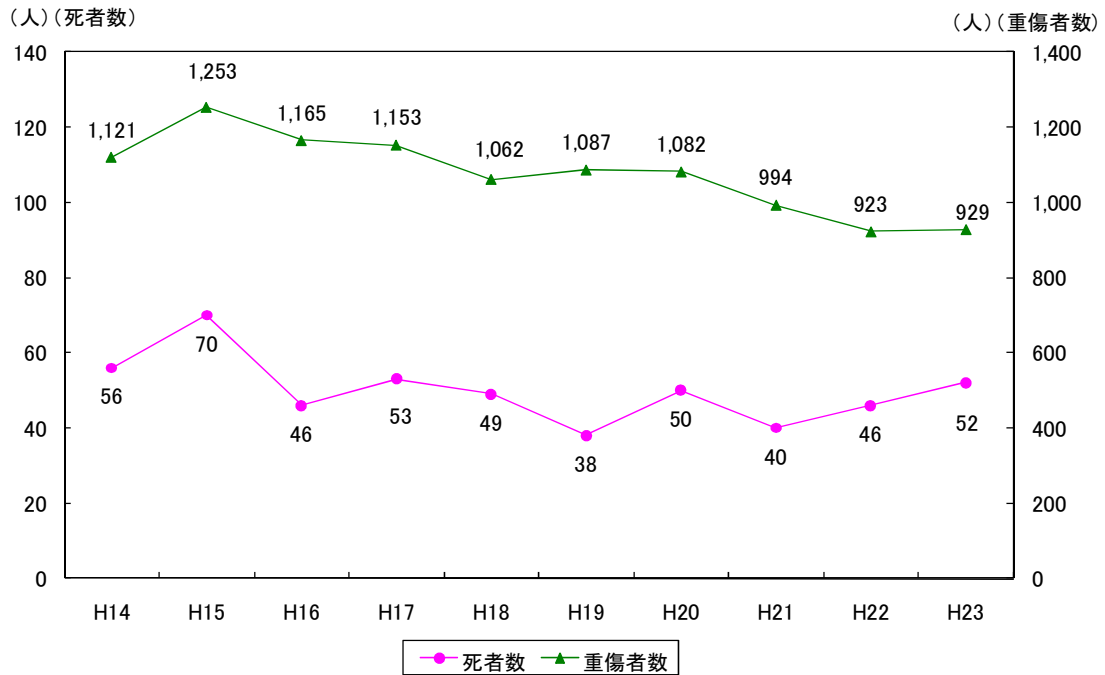


図 46 タクシー事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 35 タクシー事故の死傷者数の推移 (人)

年	区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H14		56	1,121	29,396	30,573
H15		70	1,253	30,627	31,950
H16		46	1,165	30,482	31,693
H17		53	1,153	31,161	32,367
H18		49	1,062	29,986	31,097
H19		38	1,087	29,813	30,938
H20		50	1,082	26,897	28,029
H21		40	994	25,963	26,997
H22		46	923	25,314	26,283
H23		52	929	24,166	25,147

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) タクシーの行動類型別事故件数の割合

タクシーの行動類型別事故件数は、等速（直進）6,117件（28.3%）が最も多く、次いで右折3,262件（15.1%）である。

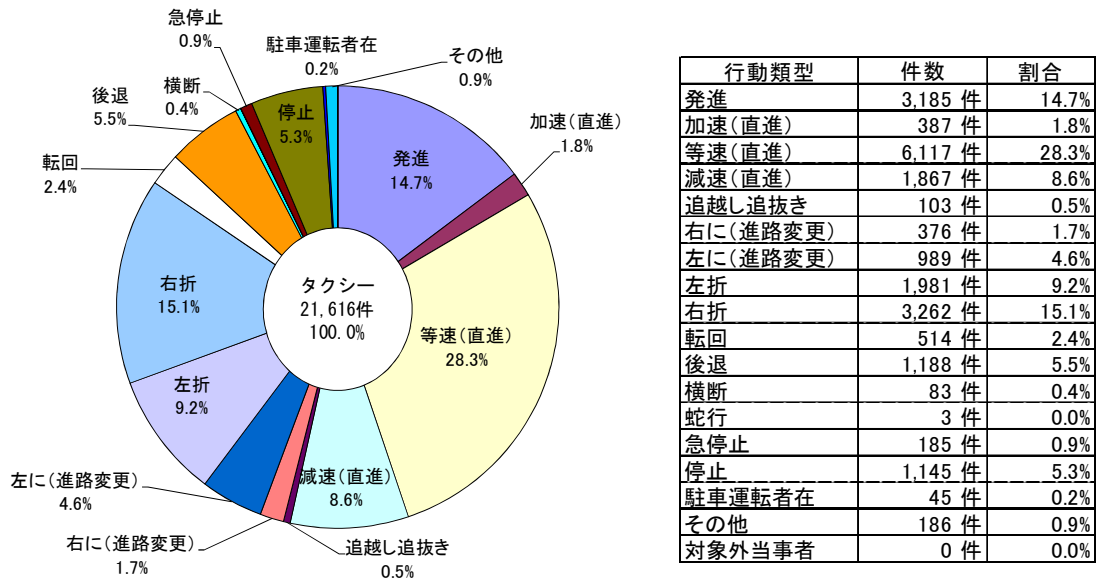


図 47 タクシーの行動類型別事故件数の割合（平成 23 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (4) タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合

タクシーの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）44 件（84.6%）が最も多い。

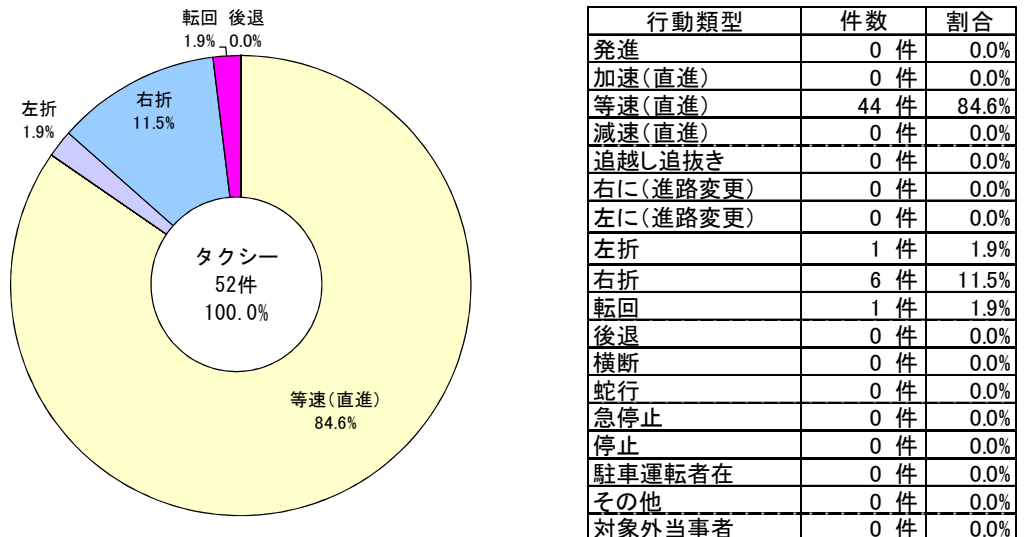


図 48 タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合（平成 23 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) タクシーの事故類型別事故件数の割合

平成 23 年のタクシーの事故は、他車との事故が 17,305 件で約 8 割を占めており、そのうち出会い頭衝突が 5,096 件と最も多く発生している

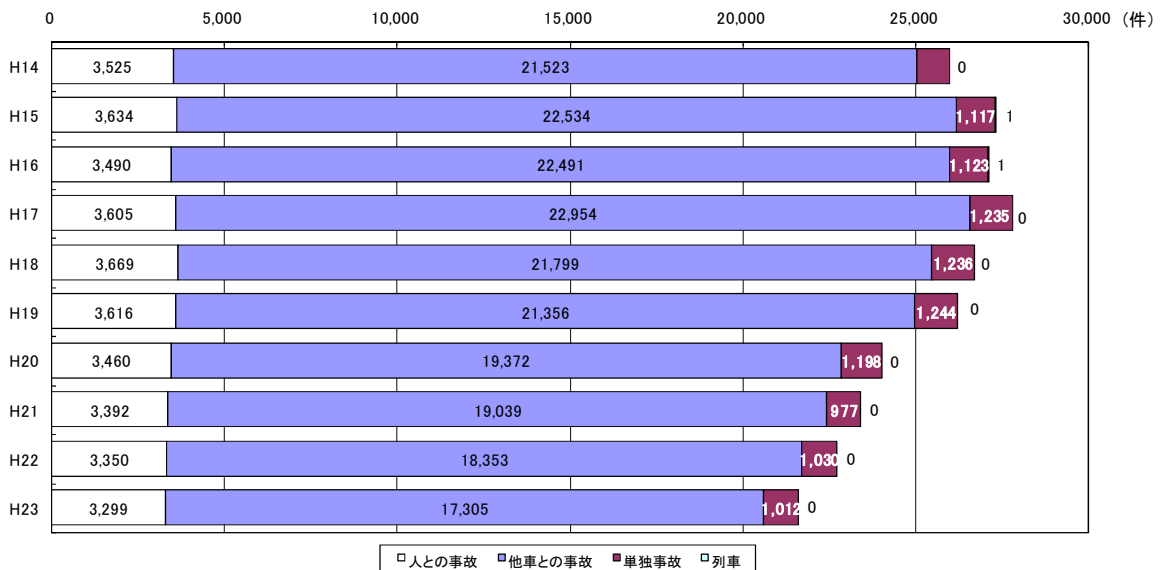
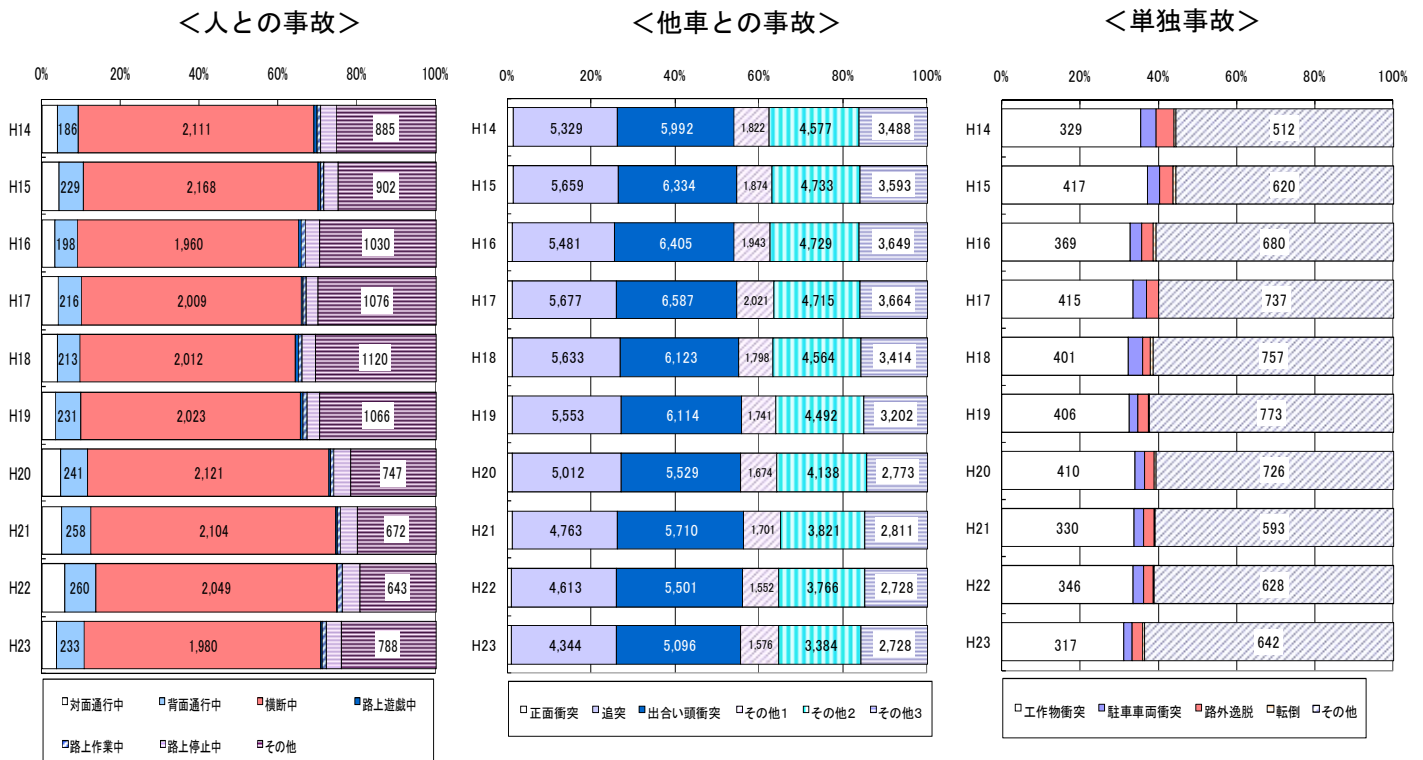


図 49 タクシーの事故類型別事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

図 50 タクシーの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合

平成23年のタクシーの死亡事故は、人との事故が33件で63.4%を占めており、そのうち横断中の事故が14件と最も多く発生している。

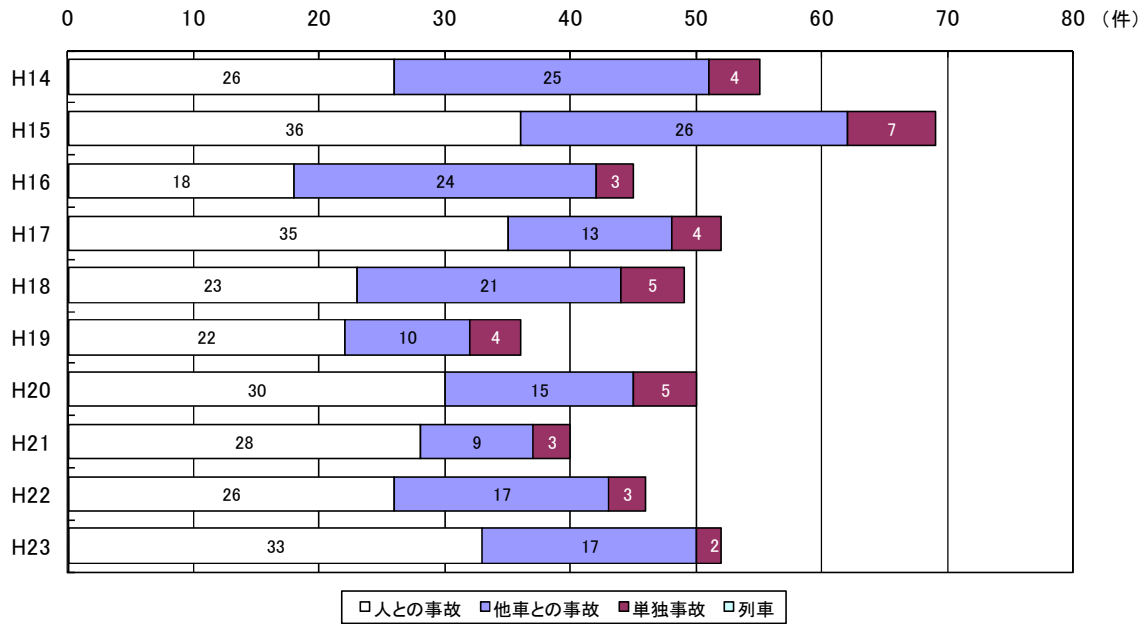
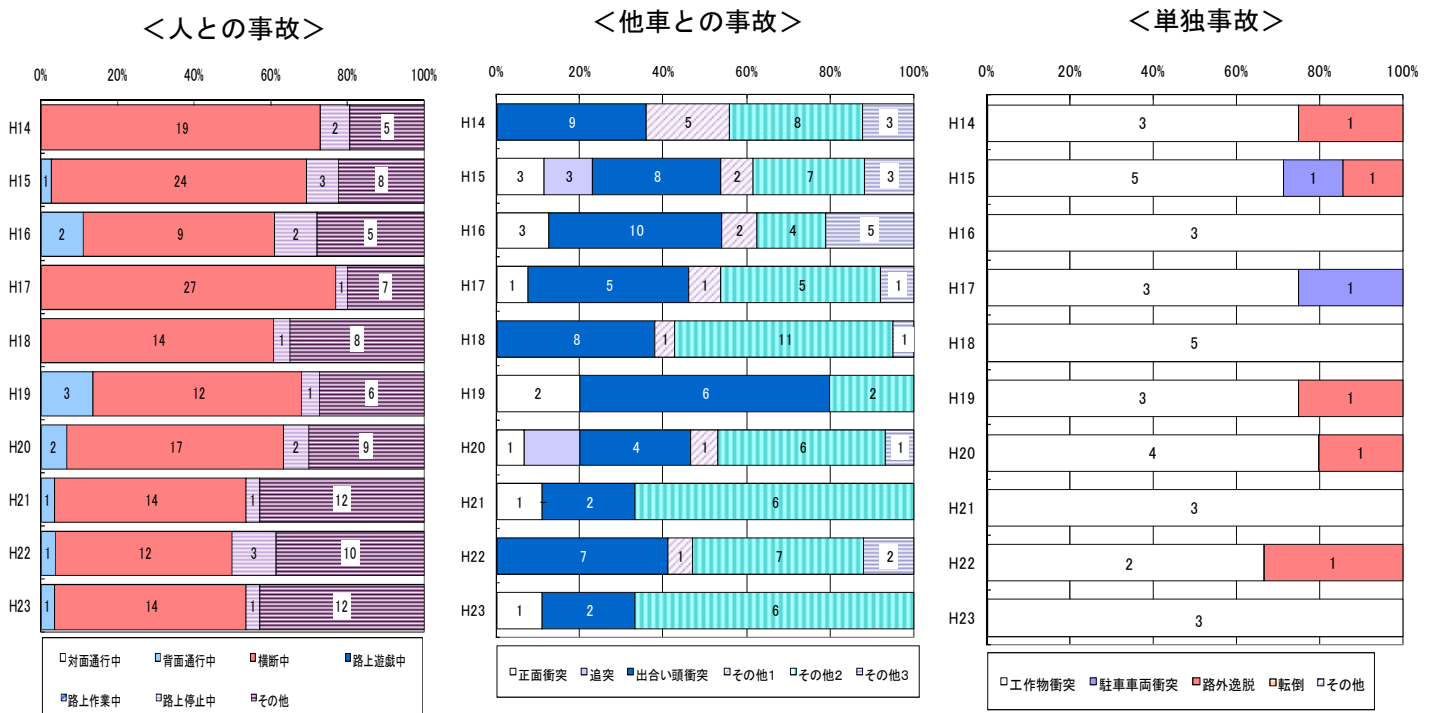


図51 タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

図52 タクシーの事故類型別死亡事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) タクシーの法令違反別の事故件数の割合

タクシーでは、「安全不確認」(41.3%)、「脇見運転」(10.3%)、「動静不注視」(8.0%)といった法令違反の事故が多い。

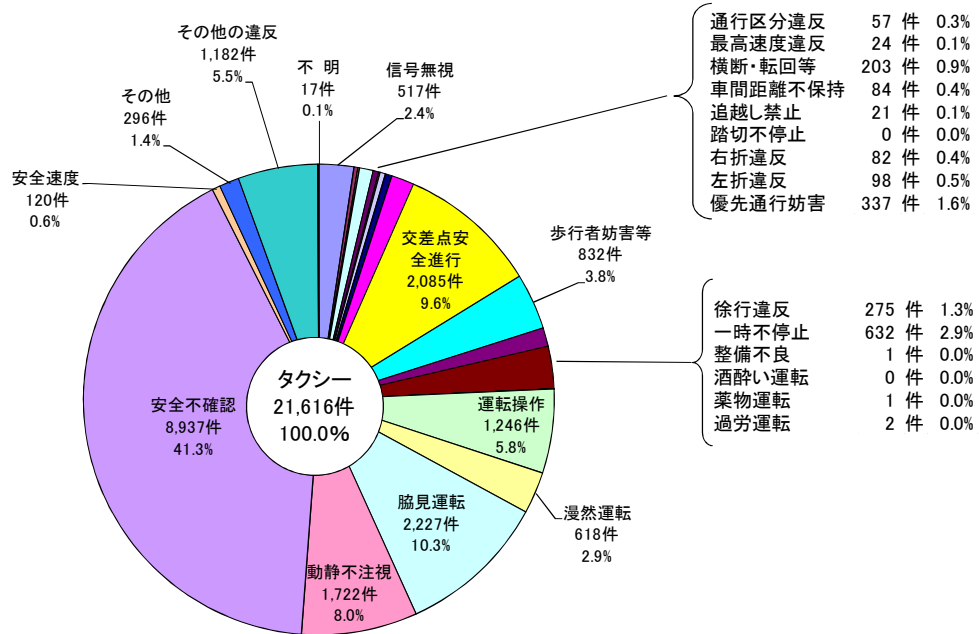


図 53 タクシーの法令違反別事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) タクシーの法令違反別の死亡事故件数の割合

タクシーでは、「漫然運転」(28.8%)、「脇見運転」(19.2%)、「安全不確認」(11.5%)といった法令違反の死亡事故が多い。

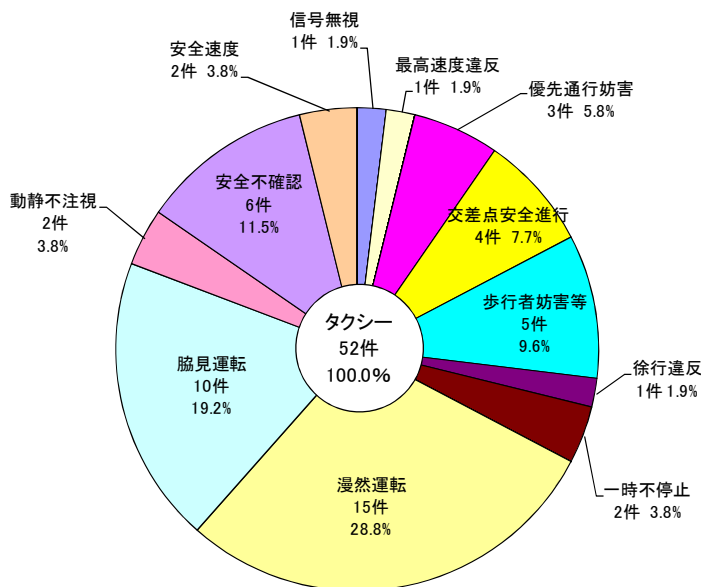


図 54 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) タクシーの走行距離1億キロあたりの事故件数(空車キロ、実車キロ)

タクシーの走行距離1億キロあたりの事故件数(空車キロ、実車キロ)は、これまで空車時が実車時と比べて約3倍発生してきたが、平成23年は前年に比べ空車時が減少し、実車時が増加したため、約2.5倍となった。

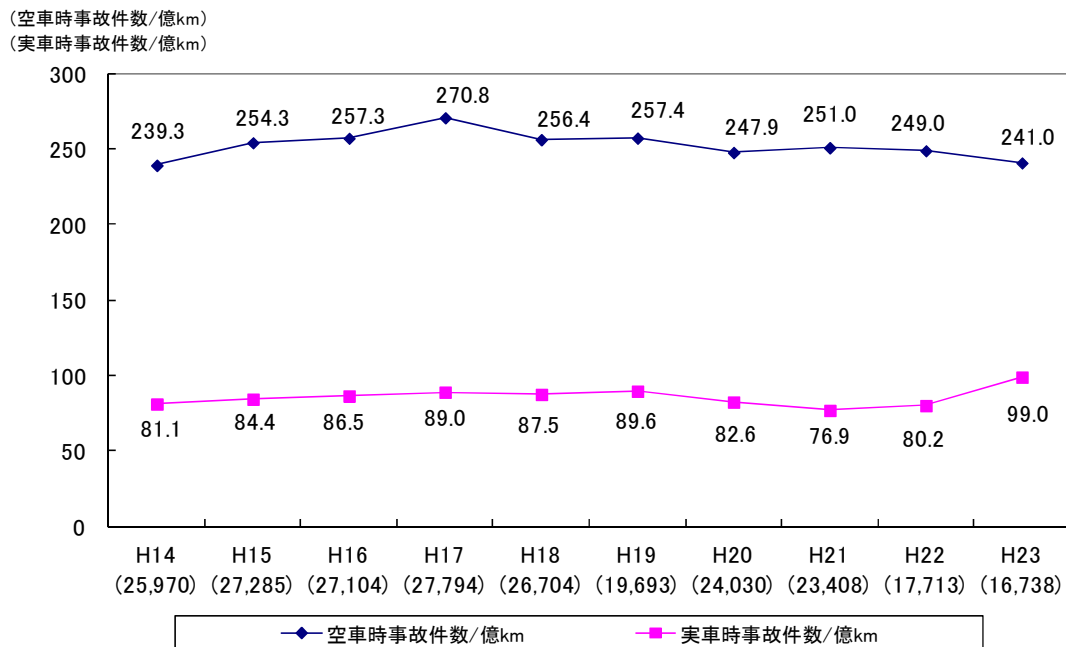


図 55 タクシーの走行距離1億キロあたりの事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

注：( )内の数字は空車時と実車時を合わせた事故件数、単位は件

(10) タクシーの事故の相手方の割合

実車時は、空車時に比べて単独の事故が圧倒的に多くなっており、年々その差は広がってきている。

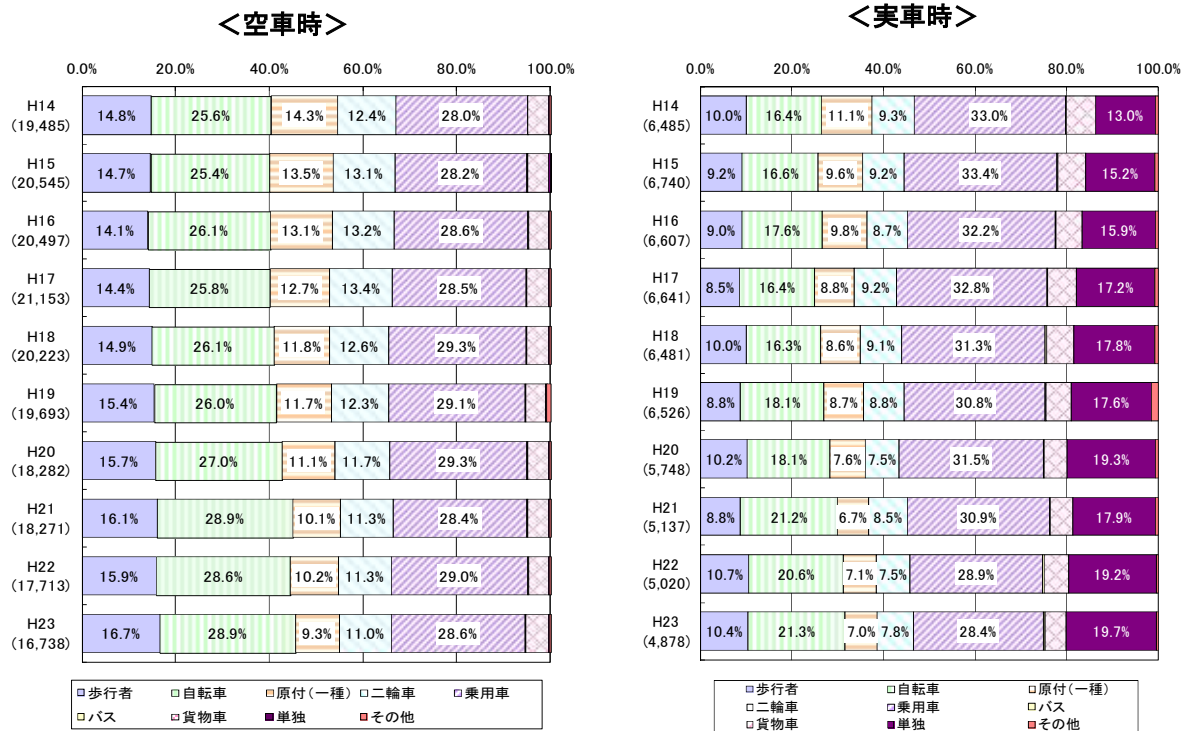


図 56 タクシーの事故の相手方の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

## 4. トラックの事故

### (1) トラックの事故件数、死傷事故件数の推移

平成 23 年のトラックによる事故件数は 24,860 件（対前年比 2.3%減）であり、前年に比べて重傷事故件数は増加し、死亡事故件数は減少した。

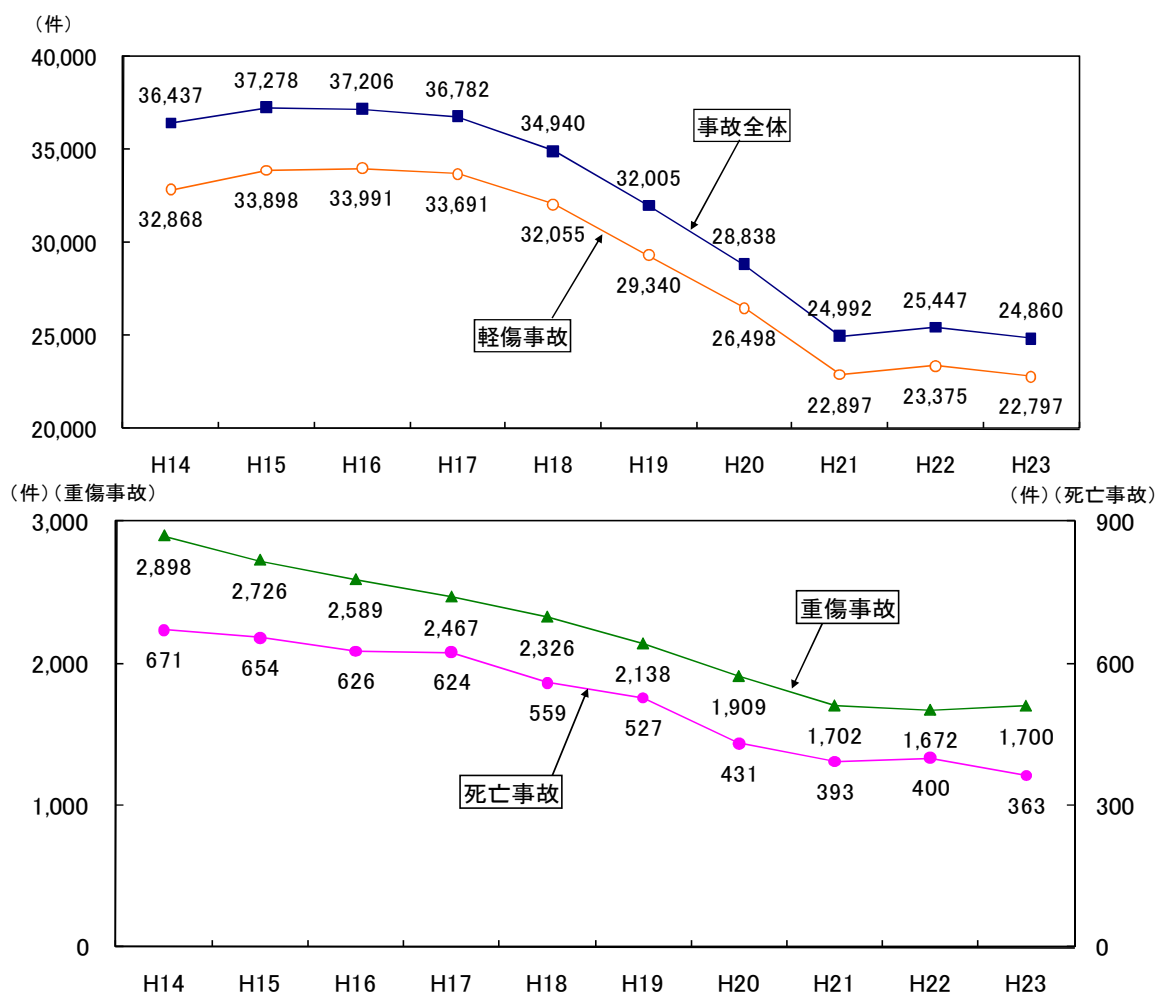


図 57 トラックの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 36 トラックの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	事故全体
H14	671	2,898	32,868	36,437
H15	654	2,726	33,898	37,278
H16	626	2,589	33,991	37,206
H17	624	2,467	33,691	36,782
H18	559	2,326	32,055	34,940
H19	527	2,138	29,340	32,005
H20	431	1,909	26,498	28,838
H21	393	1,702	22,897	24,992
H22	400	1,672	23,375	25,447
H23	363	1,700	22,797	24,860

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



## (2) トラック事故の死傷者数の推移

トラックの事故による死者、重傷者数は近年減少傾向にあったが、平成 22 年に増加したものの、平成 23 年の死者数は 363 人、重傷者数は 1,700 人となり、前年に比べて減少した。

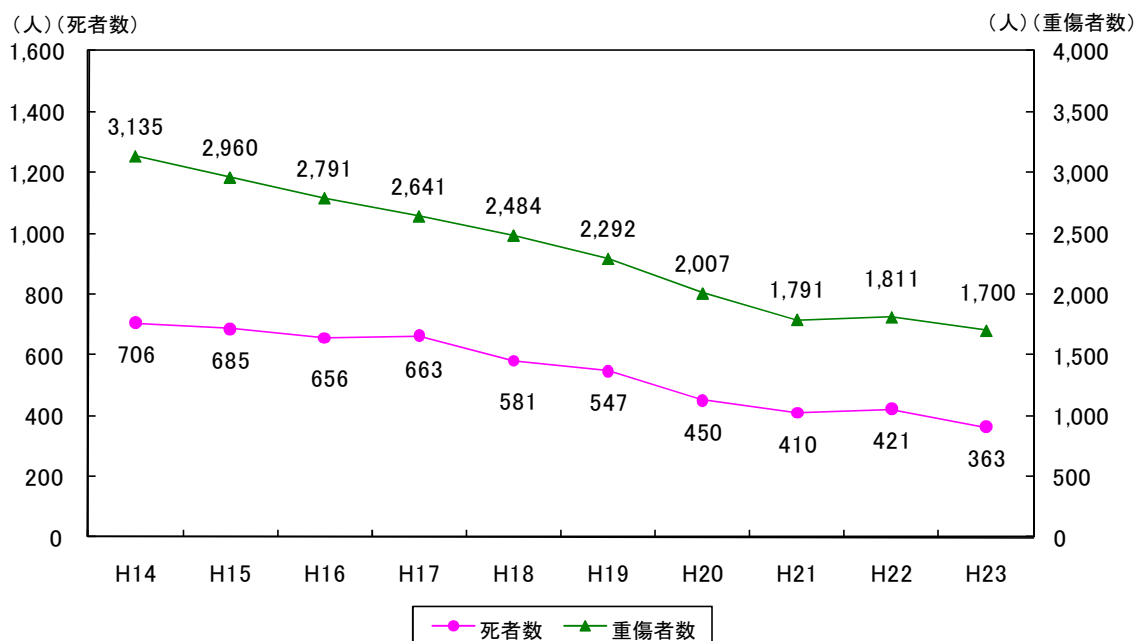


図 58 トラック事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 37 トラック事故の死傷者数の推移 (人)

年 \ 区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H14	706	3,135	44,973	48,814
H15	685	2,960	46,287	49,932
H16	656	2,791	46,244	49,691
H17	663	2,641	45,513	48,817
H18	581	2,484	43,175	46,240
H19	547	2,292	39,418	42,257
H20	450	2,007	35,049	37,506
H21	410	1,791	30,226	32,427
H22	421	1,811	31,169	33,401
H23	363	1,700	22,797	24,860

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (3) トラックの行動類型別事故件数の割合

トラックの行動類型別事故件数は、等速（直進）11,542件（46.4%）が、最も多く、次いで発進2,828件（11.4%）と続いている。

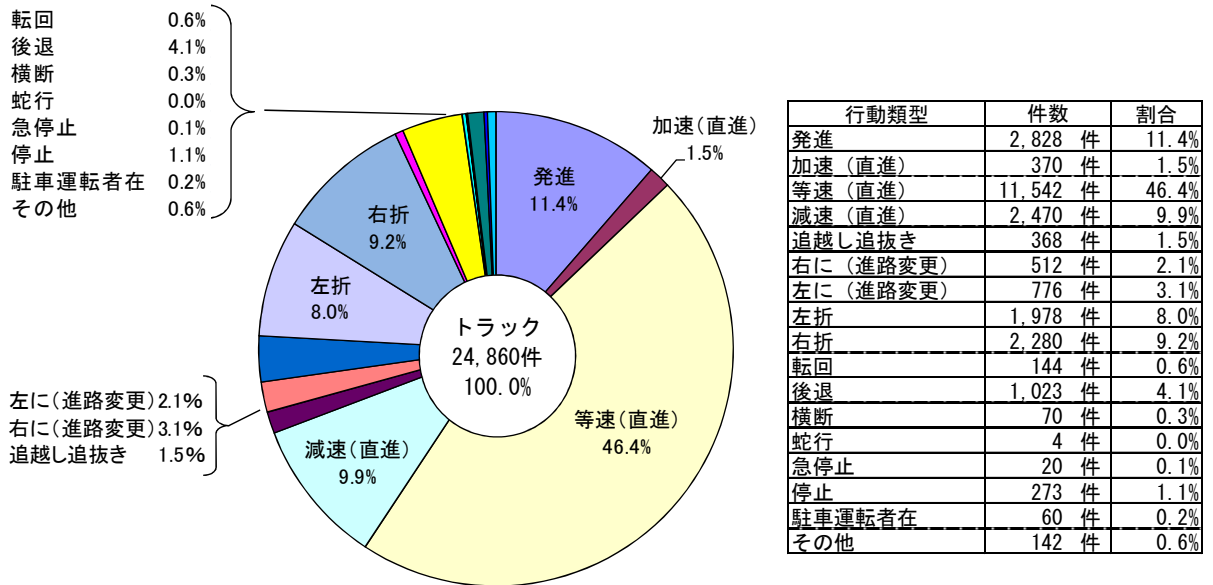


図 59 トラックの行動類型別事故件数の割合（平成 23年）

出典：（財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (4) トラックの行動類型別死亡事故件数の割合

トラックの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）233 件（64.2%）、右折 45 件（12.4%）、左折 31 件（8.5%）と続いている。

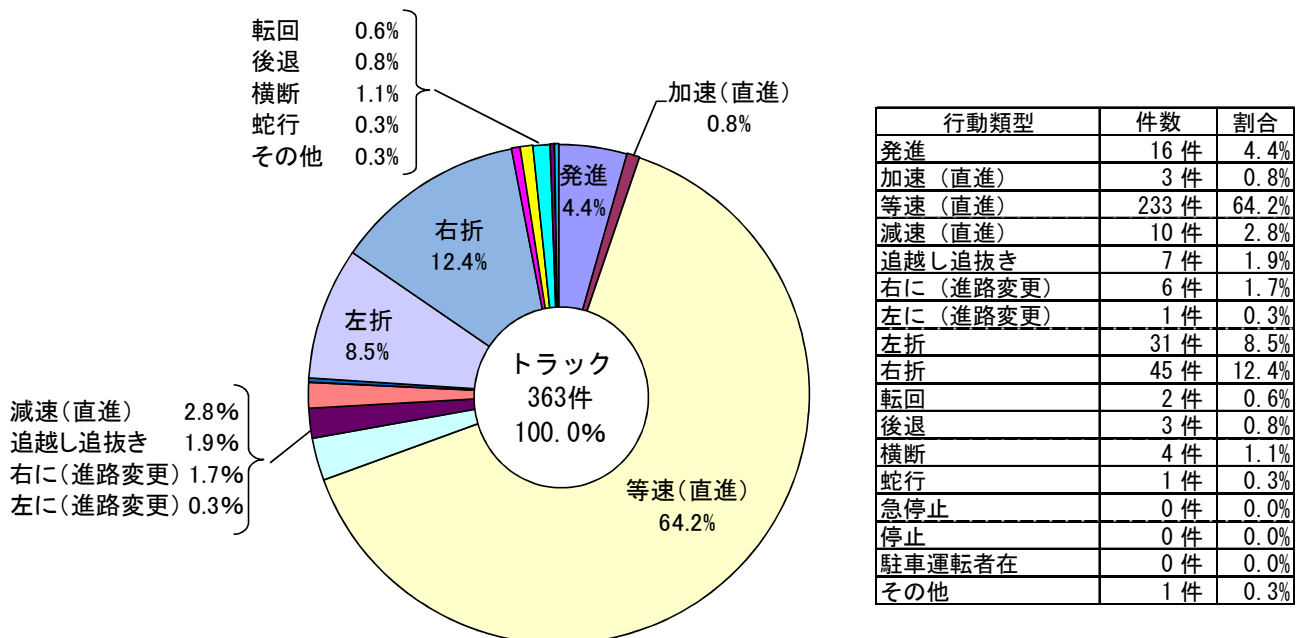


図 60 トラックの行動類型別死亡事故件数の割合（平成 23年）

出典：（財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (5) トラックの事故類型別事故件数の割合

トラックの事故は、他車との事故が大半を占めている。

平成23年では、人との事故は横断中が60.0%、他車との事故は追突が52.0%、出合い頭衝突が14.8%、単独事故は工作物衝突が55.0%、駐車車両衝突が22.0%を占めている。

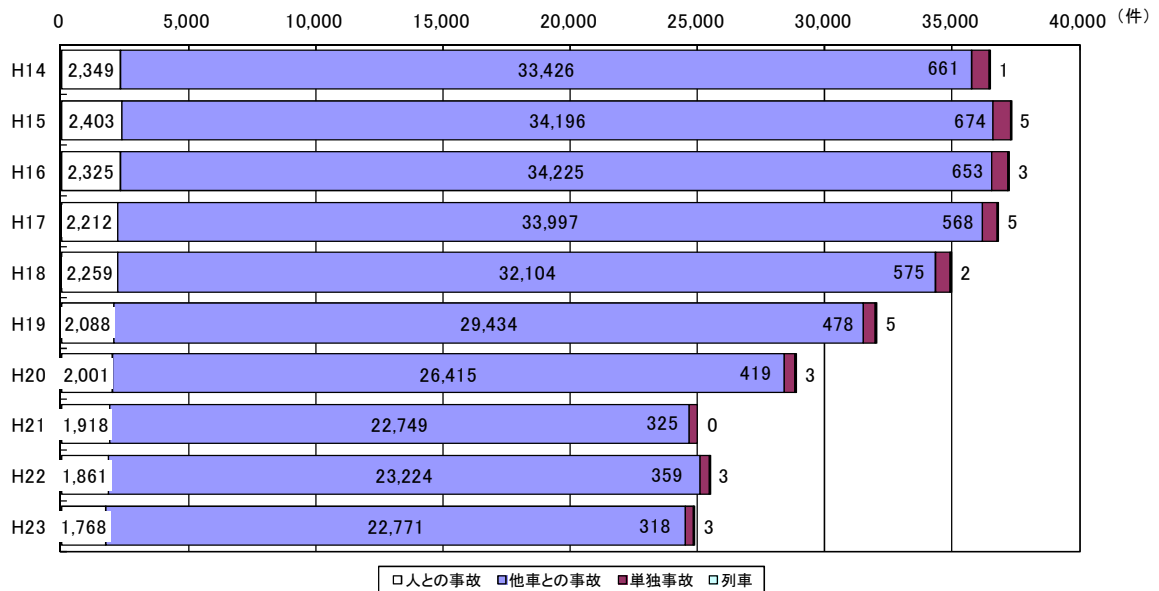
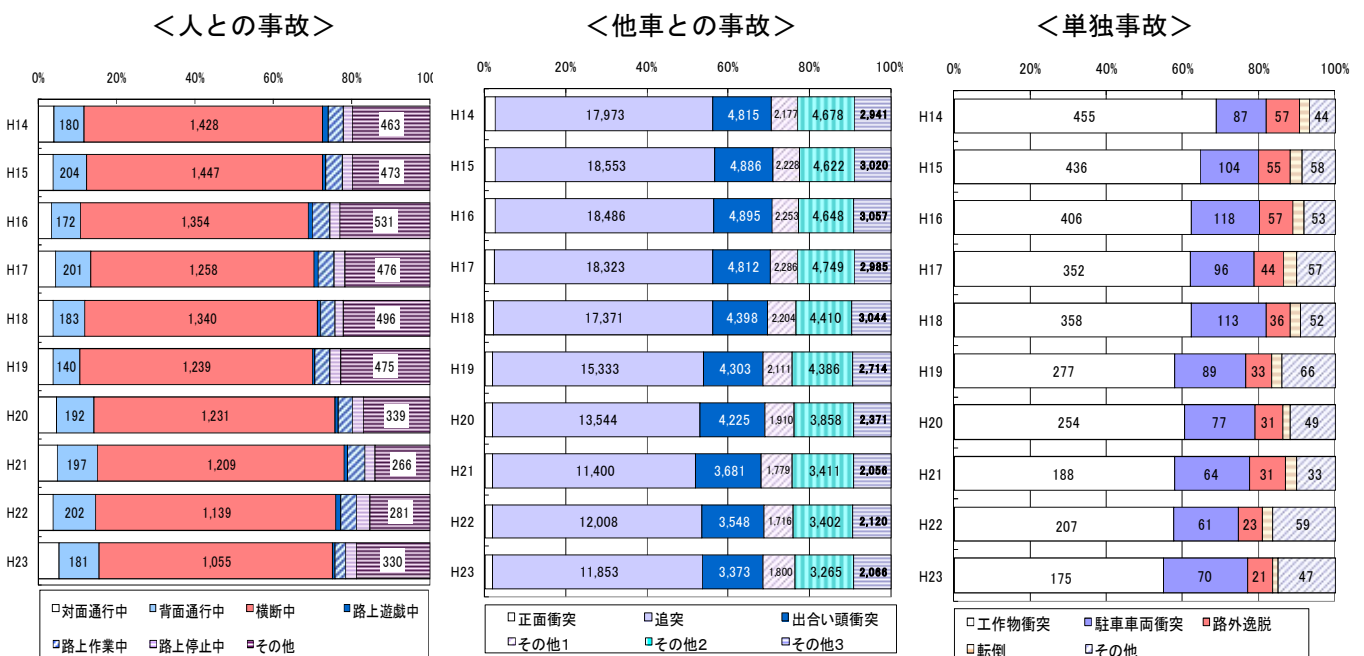


図 61 トラックの事故類型別事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

図 62 トラックの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) トラックの事故類型別死亡事故件数の割合

トラックの死亡事故は、他車との事故が半数以上を占めており、内訳をみると、追突が最も多い。

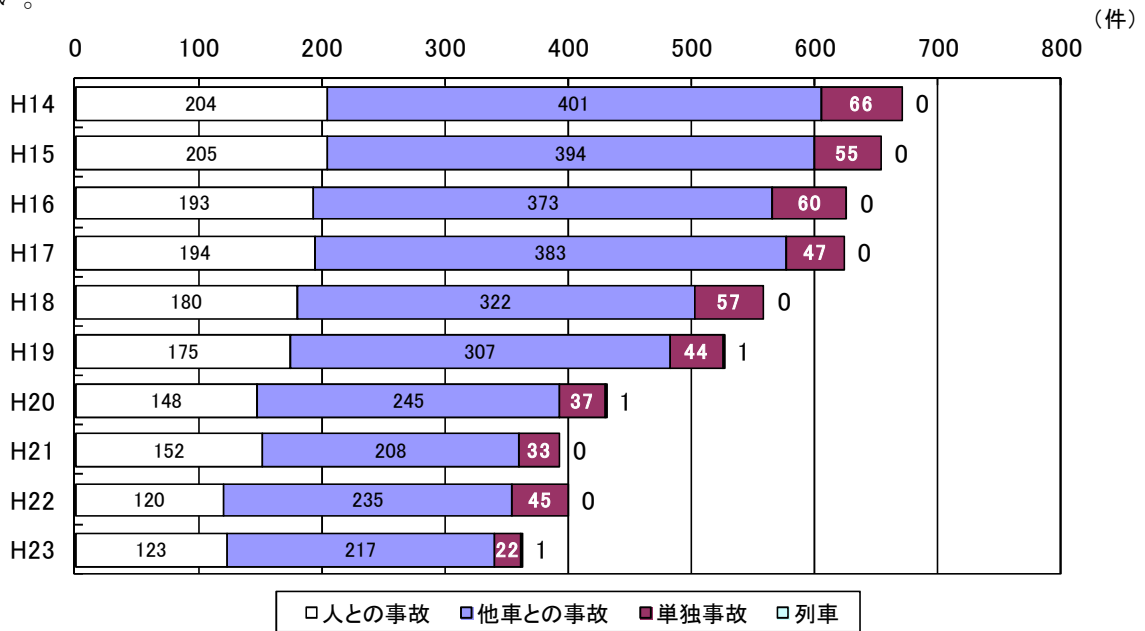
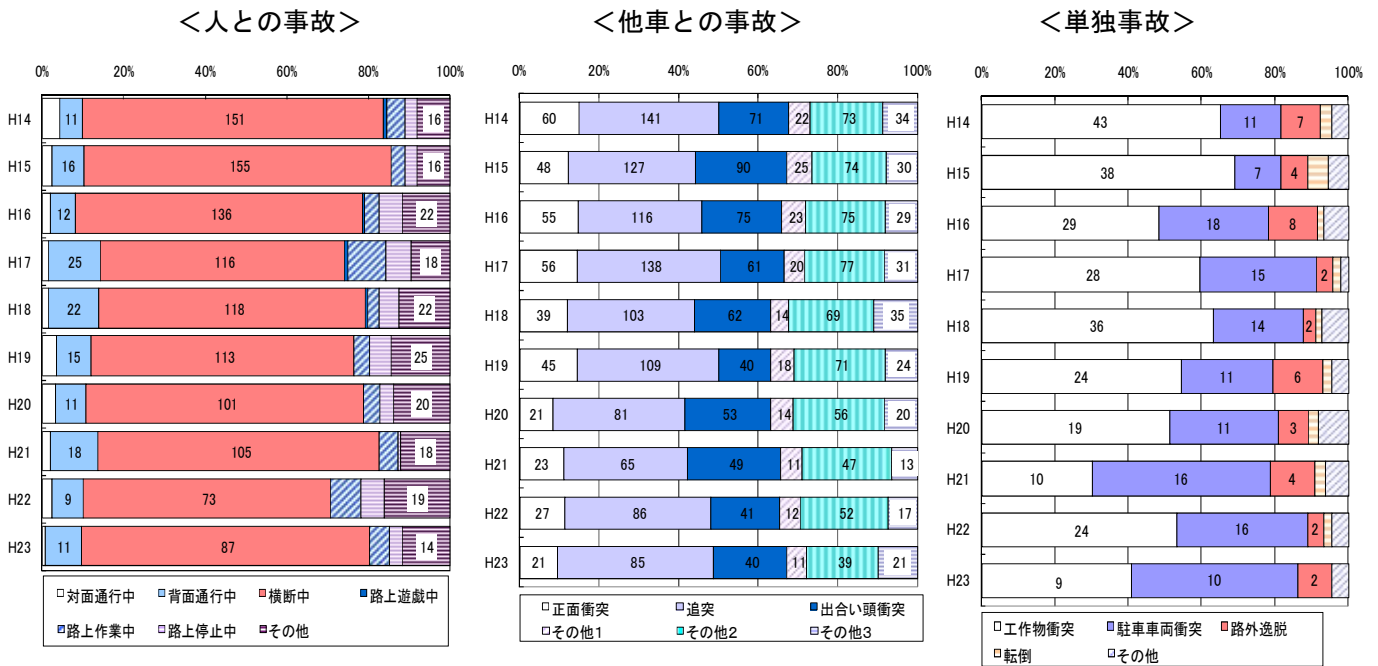


図 63 トラックの事故類型別死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突  
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突  
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

図 64 トラックの事故類型別死亡事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) トラックの法令違反別の事故件数の割合

トラックでは、「安全不確認」(27.2%)、「脇見運転」(21.7%)、「動静不注視」(14.6%)  
といった法令違反の事故が多い。

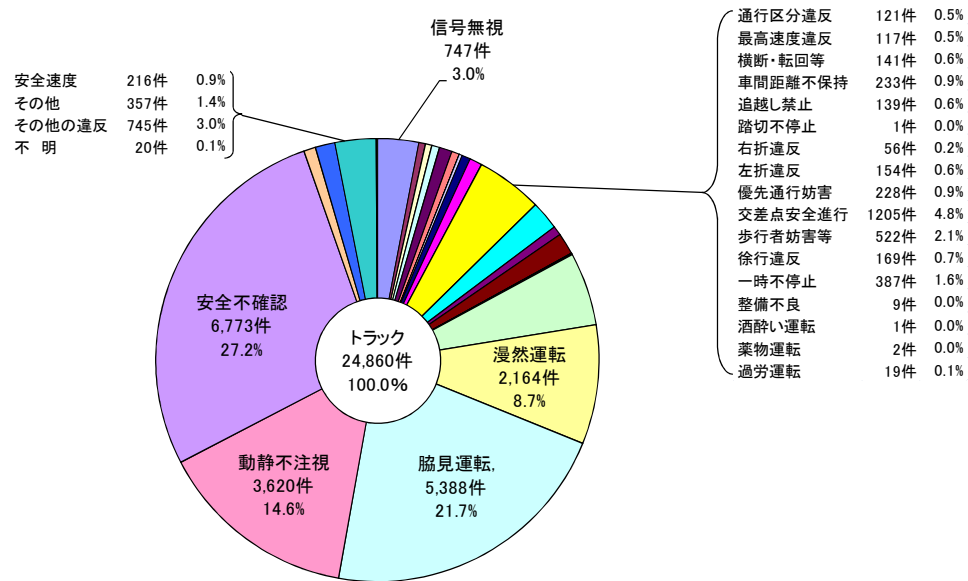


図 65 トラックの法令違反別の事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

トラックでは、「漫然運転」(20.7%)、「脇見運転」(17.4%)、「安全不確認」(13.8%)  
といった法令違反の死亡事故が多い。

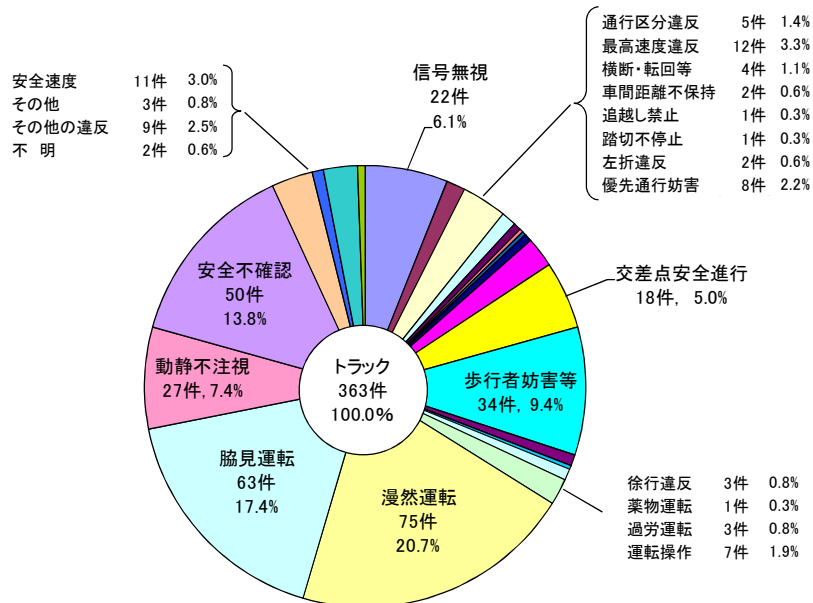


図 66 トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

### (9) トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

トラックの高速道路における死亡・重傷事故は、近年減少傾向にあったが、平成23年の死亡事故は64件、重傷事故は188人と前年に引き続き増加している。

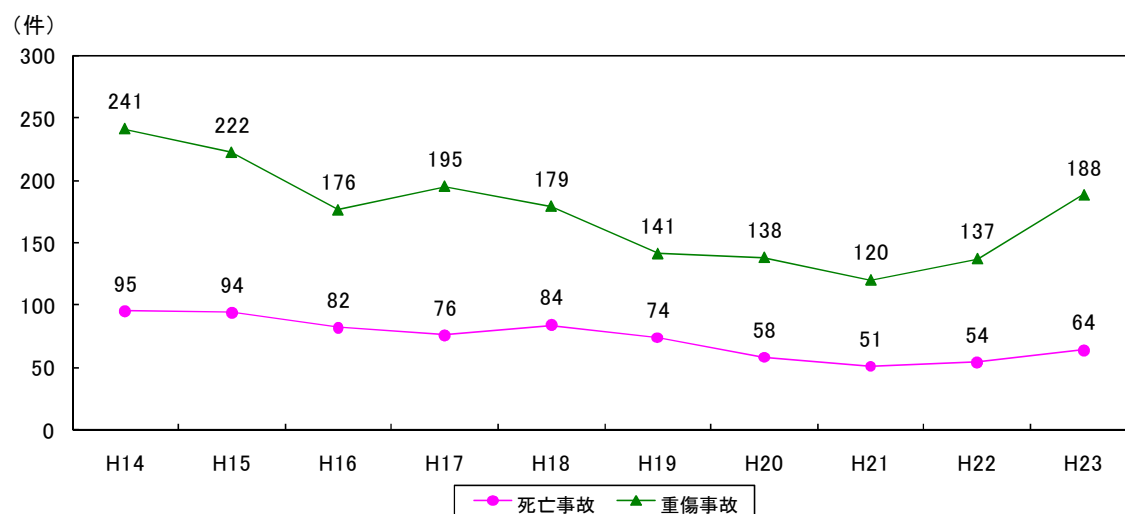


図 67 トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) トラック追突の事故件数/死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

トラックの追突事故における時間帯別危険認知速度別追突死亡事故件数をみると、0時～6時の危険認知速度が高い。交通量が少なく、スピードを出して運転できる環境が要因ではないかと推察される。

表 38 トラック追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (平成 23年)

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	22	28	49	244	349	446	323	321	234	117	55	33	2,221
20km/h以下	22	24	41	167	282	272	248	217	149	81	31	27	1,561
30km/h以下	30	19	54	188	237	264	206	215	144	97	46	42	1,542
40km/h以下	51	51	84	246	326	404	337	286	181	112	87	67	2,232
50km/h以下	69	80	134	188	243	322	317	257	159	77	74	93	2,013
60km/h以下	56	66	101	94	116	172	153	130	71	69	51	74	1,153
70km/h以下	27	28	27	35	38	38	39	30	29	19	21	21	352
80km/h以下	52	52	39	36	29	33	36	18	15	13	17	29	369
90km/h以下	43	53	45	15	6	9	18	10	9	8	15	27	258
100km/h以下	21	22	23	12	7	4	5	4	5	3	3	14	123
120km/h以下	0	2	3	3	2	0	0	1	1	1	1	2	16
120km/h超	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
不明	0	1	3	1	2	0	1	1	0	1	1	0	11
合計	393	426	604	1,229	1,637	1,964	1,683	1,491	997	598	402	429	11,853

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 39 トラック追突の死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (平成 23年)

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
20km/h以下	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
30km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
40km/h以下	0	2	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	6
50km/h以下	1	1	2	2	2	1	0	0	2	0	0	2	13
60km/h以下	4	2	6	0	2	3	0	0	0	1	1	1	20
70km/h以下	0	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	9
80km/h以下	5	1	2	4	1	2	0	0	0	0	1	2	18
90km/h以下	1	3	0	0	0	1	2	1	0	0	1	1	10
100km/h以下	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	13	13	14	8	8	8	5	3	3	1	3	6	85

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

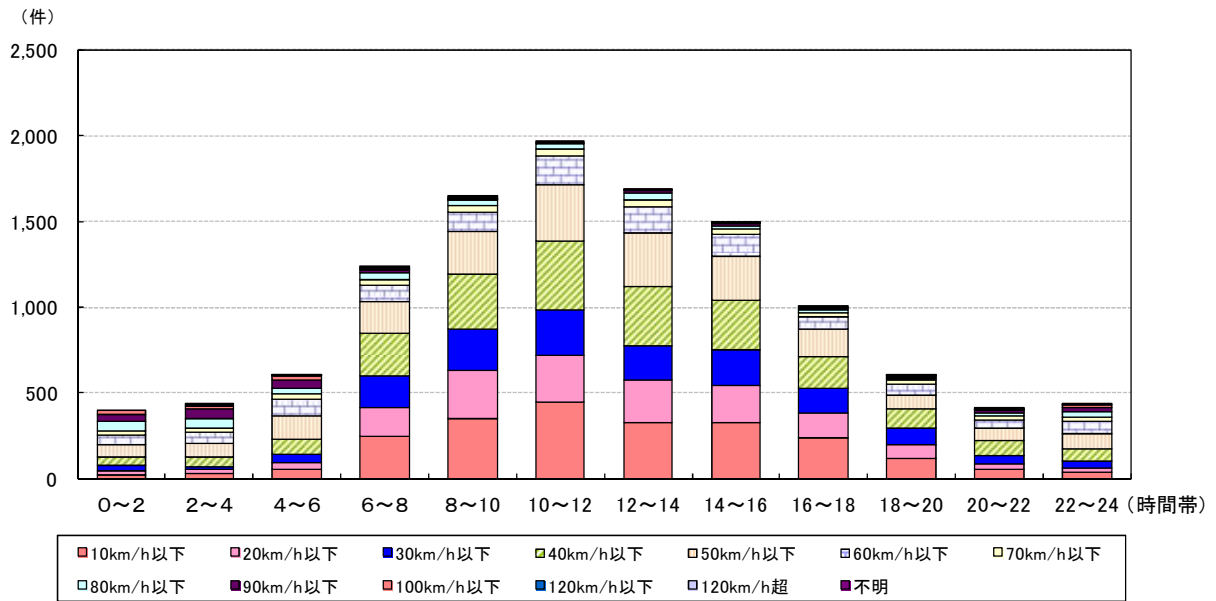


図 68 トラック追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（平成 23 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

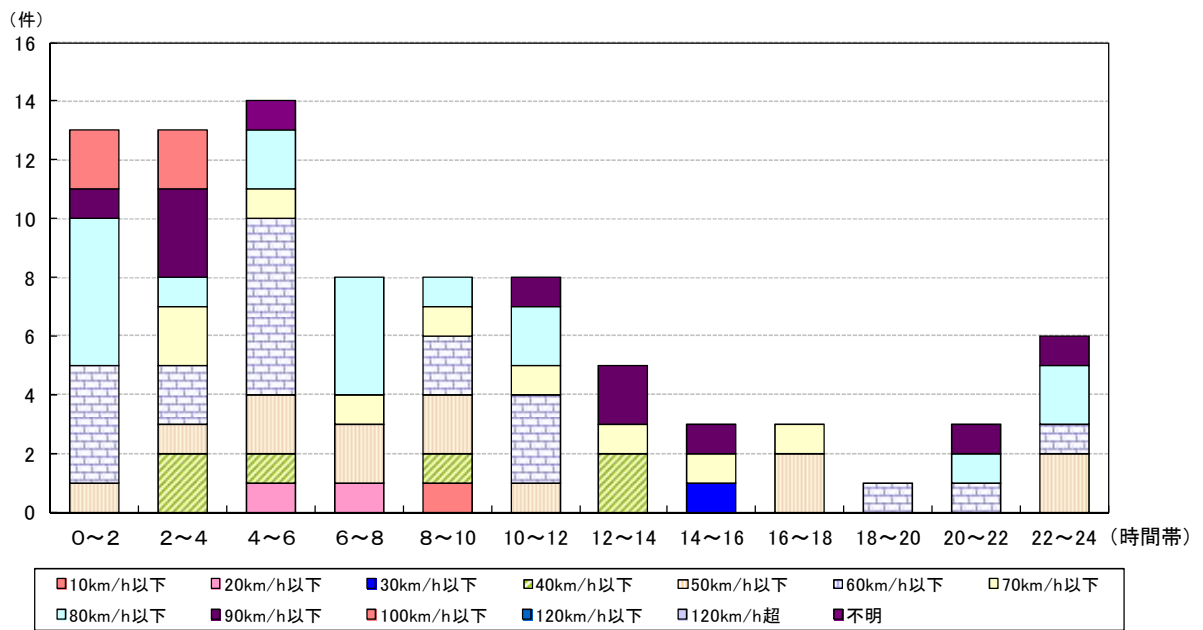


図 69 トラック追突の死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（平成 23 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



トラックの追突事故における危険認知速度をみると、追突事故全体と比較して、追突死亡事故は、危険認知速度が高くなっている。

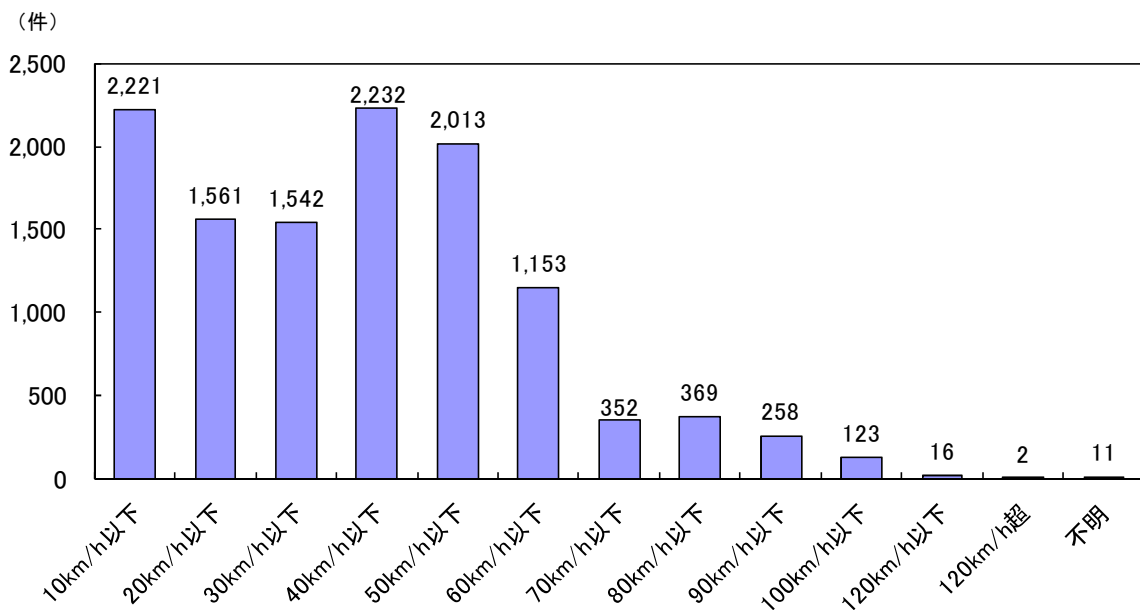


図 70 トラックの危険認知速度別の追突事故件数（平成 23年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

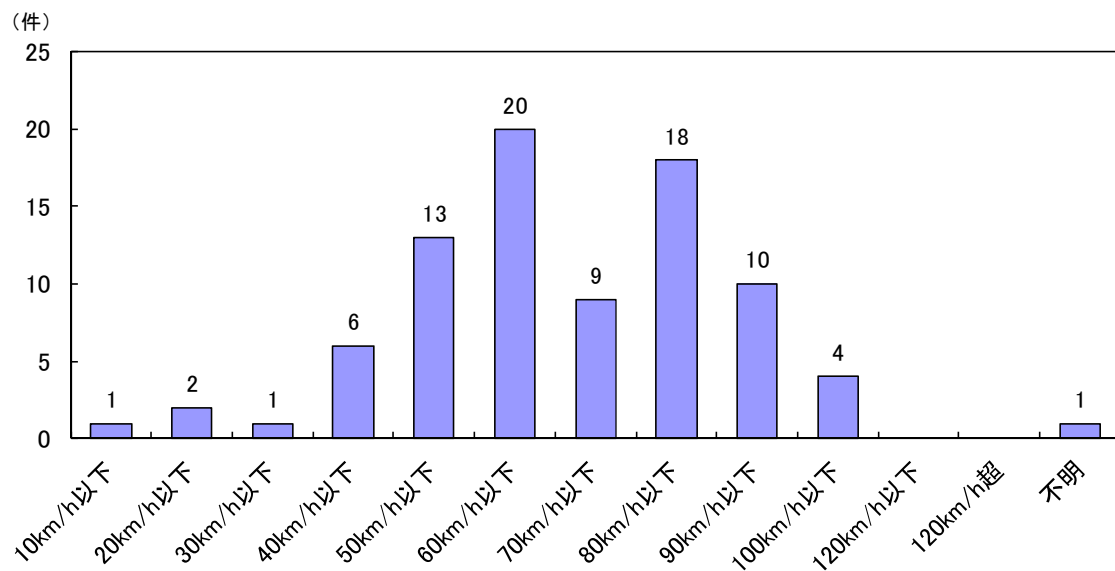


図 71 トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数（平成23年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) トラックの車両総重量別の交通事故件数の推移

① 交通事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに、平成21年までは減少傾向にあったが、平成22年で増加し、平成23年では減少している。

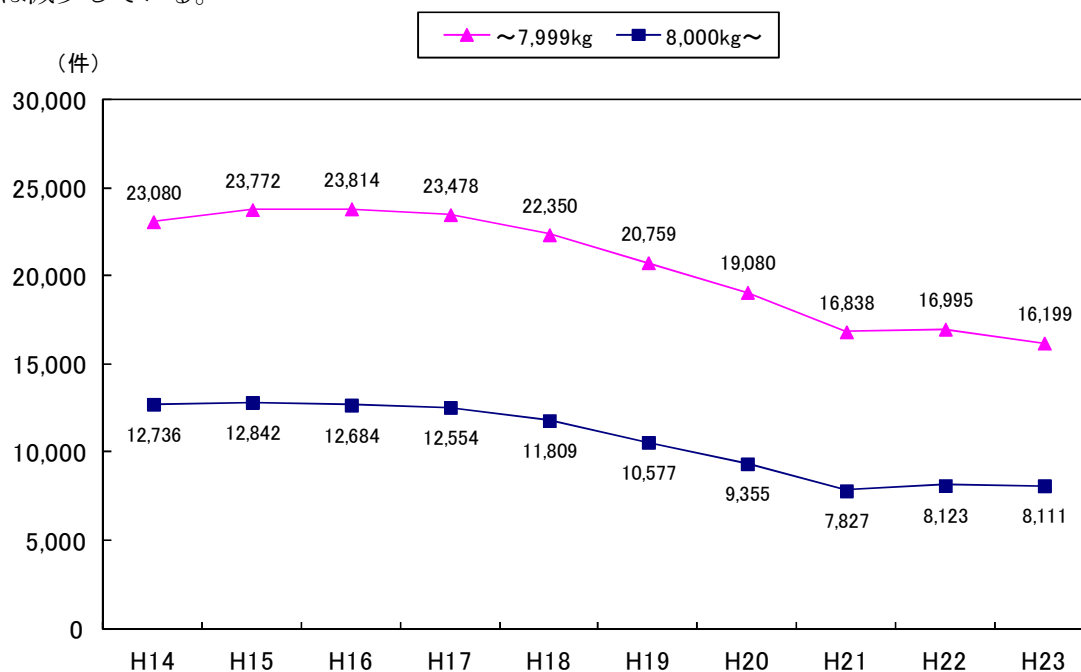


図 72 トラックの車両総重量別交通事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 40 車両総重量別交通事故件数の推移 (件)

区分 年	交通事故件数		
	~7,999kg	8,000kg~	合計
H14	23,080	12,736	35,816
H15	23,772	12,842	36,614
H16	23,814	12,684	36,498
H17	23,478	12,554	36,032
H18	22,350	11,809	34,159
H19	20,759	10,577	31,336
H20	19,080	9,355	28,435
H21	16,838	7,827	24,665
H22	16,995	8,123	25,118
H23	16,199	8,111	24,310

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」  
注：合計は車両総重量不明を除く

## ② 死亡事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満の車両は、平成20年までは減少傾向にあったが、平成22年で増加し、平成23年は減少した。

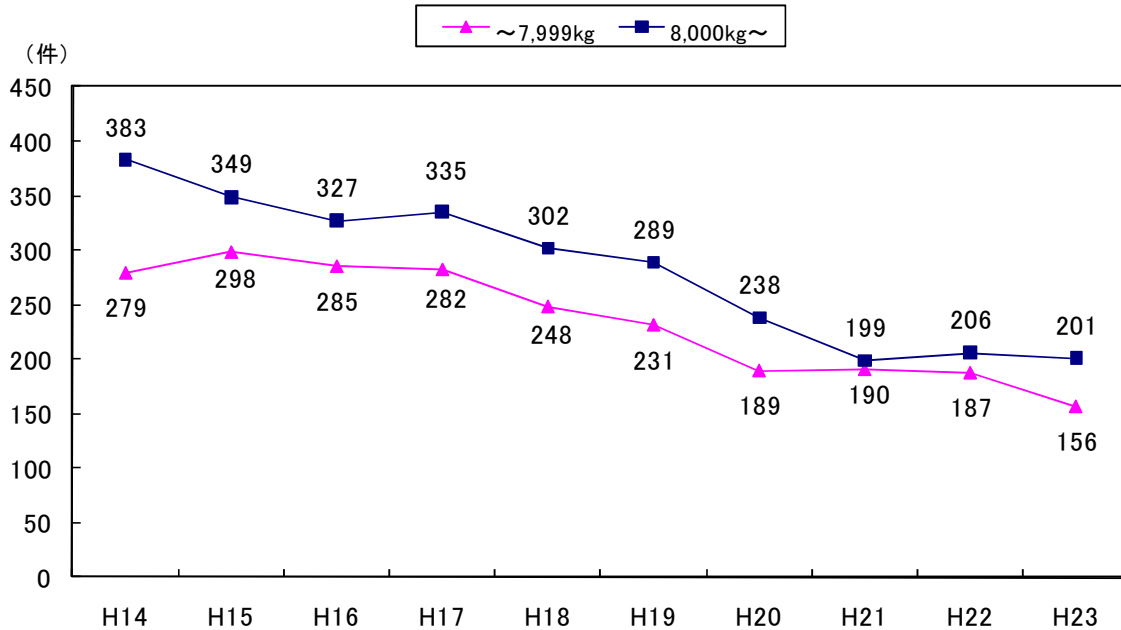


図 73 トラックの車両総重量別死亡事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 41 車両総重量別死亡事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故件数		
	~7,999kg	8,000kg~	合計
H14	279	383	662
H15	298	349	647
H16	285	327	612
H17	282	335	617
H18	248	302	550
H19	231	289	520
H20	189	238	427
H21	190	199	389
H22	187	206	393
H23	156	201	357

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：合計は車両総重量不明を除く

### ③重傷事故件数

トラックの事故における重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、死亡事故の場合と異なり、8トン未満の車両が多くなっている。

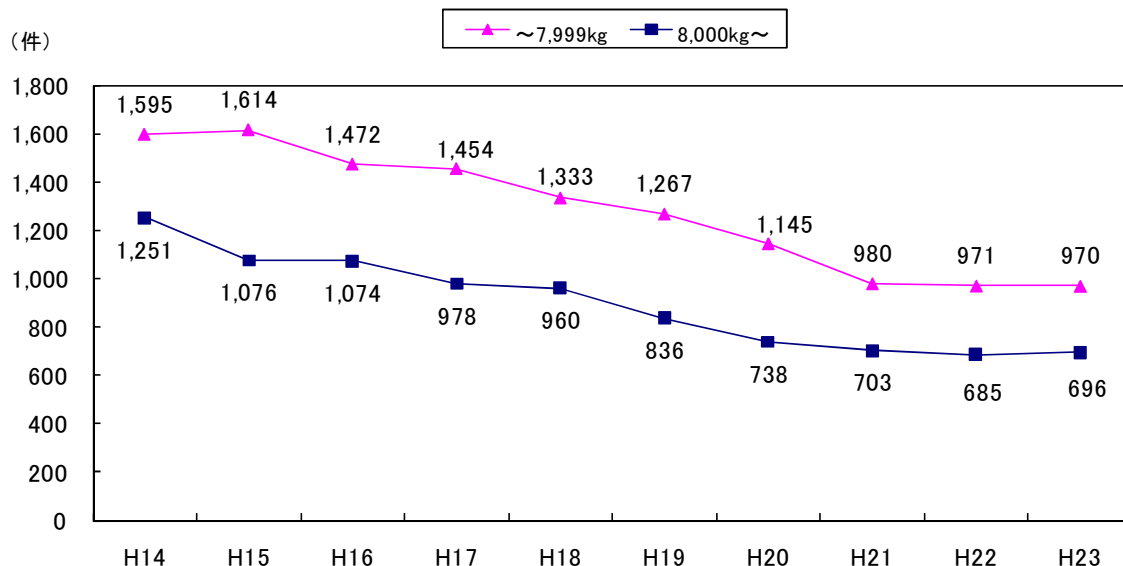


図 74 トラックの車両総重量別重傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 42 車両総重量別重傷事故件数の推移 (件)

年	重傷事故件数		
	~7,999kg	8,000kg~	合計
H14	1,595	1,251	2,846
H15	1,614	1,076	2,690
H16	1,472	1,074	2,546
H17	1,454	978	2,432
H18	1,333	960	2,293
H19	1,267	836	2,103
H20	1,145	738	1,883
H21	980	703	1,683
H22	971	685	1,656
H23	970	696	1,666

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」  
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：合計は車両総重量不明を除く

(12) トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故件数

① 交通事故件数

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率は、7～8 トン未満が最も高く、8 トン未満までは、車両総重量が重くなるほど発生率が高くなる傾向がある。

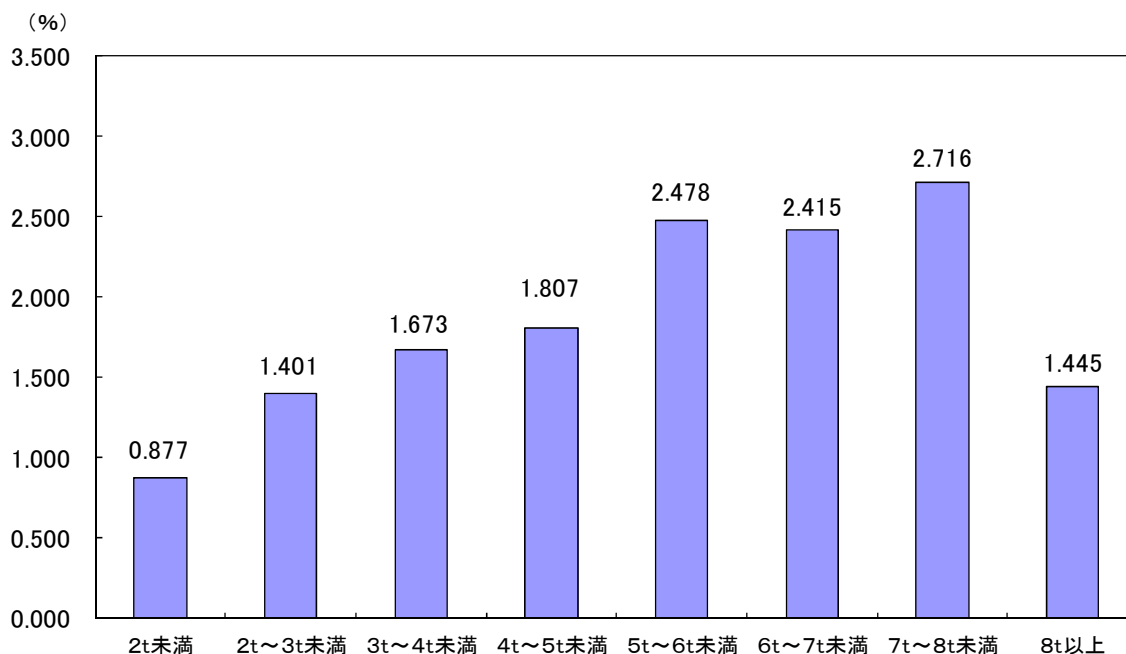


図 75 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数 (平成 23 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

表 43 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数 (件)  
(平成 23 年)

	事故件数	車両数(事業用)	発生率
2t未満	74	8,440	0.877%
2t~3t未満	197	14,058	1.401%
3t~4t未満	561	33,540	1.673%
4t~5t未満	1,582	87,540	1.807%
5t~6t未満	2,074	83,707	2.478%
6t~7t未満	1,132	46,873	2.415%
7t~8t未満	6,565	241,684	2.716%
8t以上	8,069	558,570	1.445%

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

## ② 死亡事故件数

トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡事故発生率は、8トン以上が最も高い。

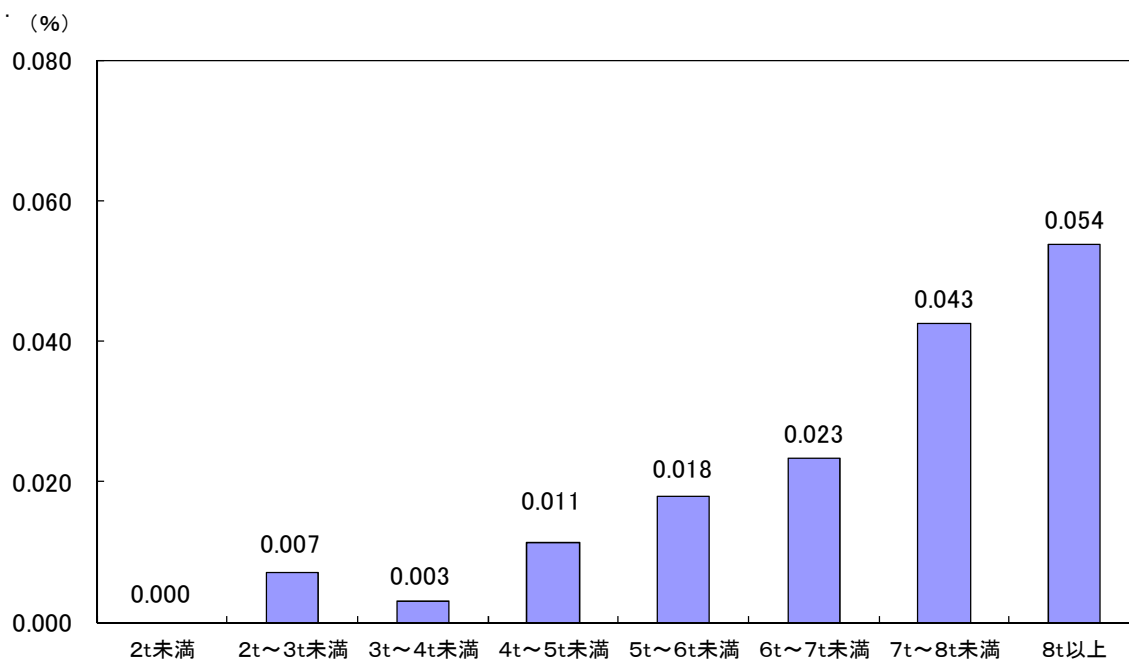


図 76 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数（平成 23 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

表 44 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数（件）  
（平成 23 年）

	死亡事故件数	車両数(事業用)	発生率
2t未満		8,440	0.000%
2t~3t未満	1	14,058	0.007%
3t~4t未満	1	33,540	0.003%
4t~5t未満	10	87,540	0.011%
5t~6t未満	15	83,707	0.018%
6t~7t未満	11	46,873	0.023%
7t~8t未満	103	241,684	0.043%
8t以上	301	558,570	0.054%

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

### ③ 重傷事故件数

トラックの車両総重量別車両数あたりの重傷事故発生率は、7～8トン未満が最も高い。

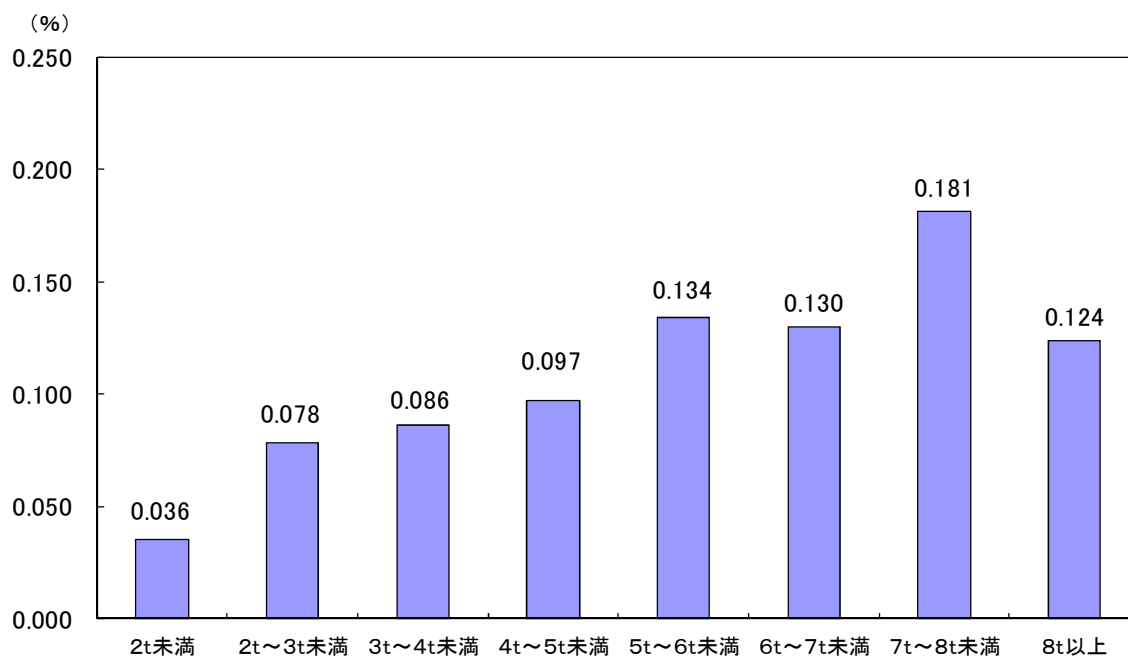


図 77 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数（平成 23 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

表 45 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数（件）  
（平成 23 年）

	重傷事故件数	車両数(事業用)	発生率
2t未満	3	8,440	0.036%
2t～3t未満	11	14,058	0.078%
3t～4t未満	29	33,540	0.086%
4t～5t未満	85	87,540	0.097%
5t～6t未満	112	83,707	0.134%
6t～7t未満	61	46,873	0.130%
7t～8t未満	438	241,684	0.181%
8t以上	691	558,570	0.124%

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く